

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業

事業名「地域と企業の心に響く若者育成プログラムと大分豊じょう化プラン」

<教育プログラム関係分>

平成27年度～平成29年度の取組資料集

本資料は、COC+事業における、平成27年度～29年度の教育プログラム開発委員会及び教育プログラム開発部会において協議した「教育プログラム」の実績を整理し、関係教職員とともに、平成30年度以降の教育プログラムの拡充及び質の保障に資するために作成したものです。

<大分大学関係資料>

1. 「地域と企業の心に響く若者育成プログラムと大分豊じょう化プラン」の概要・・・P1～
2. 「地域と企業の心に響く若者育成プログラムと大分豊じょう化プラン」プレゼン・・・P3
3. 「若者育成プログラムと大分豊じょう化プラン」の構造・・・P4
4. 大分大学「大分を創る人材を育成するカリキュラムマップ」・・・P5
5. 大分大学の「大分を創る人材の育成像」に関する資料・・・P6
6. 「大分を創る人材を育成する科目」のレベルごとの科目群のカリキュラム・ルーブリック・・・P7
7. 「大分を創る人材を育成する科目」のレベルごとの科目記載のカリキュラム・マトリクス・・・P8～
8. 「大分を創る科目」を「育成する力」と「授業方法」から見る科目調査表・・・P10
9. 平成29年度「大分を創る科目」を「育成する力」と「授業方法」から見る授業一覧表・・・P11
10. アクティブ・ラーニングの視点に基づいた授業のガイドライン・・・P12
11. 平成28年度・29年度開講の「大分を創る科目」一覧表・・・P13～
12. 大分大学学部専門科目での地域創生人材を育成する構想・・・P15
13. 学部専門科目の検討科目の検討結果の整理表・・・P16

<連携大学関係資料>

14. 連携大学における「大分を創る人材を育成する科目」の選定基準の概要・・・P17
 15. 「大分を創る人材を育成する科目」の単位互換制度・・・P18
 16. 平成29年度「大分を創る人材を育成する科目」各大学が提供する単位互換科目一覧・・・P19～
 17. 2017おおいた単位互換科目ガイドブックの概要・・・P22
- <補助資料1>高度化①「地域ブランディング」(試行)実施報告書・・・P23～
<補助資料2>高度化②「利益共有型インターンシップ(地域豊じょう型)」(試行)実績報告書・・・P26～
<補助資料3>「おおいた共創土」認証システム・・・P30
<補助資料4>協働開発科目「初年次地域キャリアデザインワークショップ」・・・P31～
<補助資料5>平成28年度入学生の意識調査の概要・・・P36～
<補助資料6>教育プログラムの取組のQ&A・・・P37～
<補助資料7>「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」推進体制・・・P40

平成30年3月

大学等による「おおいた創生」推進協議会

<教育プログラム開発委員会・教育プログラム開発部会>

「地域と企業の心に響く若者育成プログラムと大分豊じょう化プラン」の概要 ＜平成27年度～平成29年度の教育プログラムの取組の振り返り＞

I 大学等による「おおいた創生」推進事業（COC+事業）の概要

1. 大学等による「おおいた創生」推進事業（COC+事業）で目指すもの

本COC+事業では、「大分豊じょう化プラン」の開発と推進をとおして、学生が段階的に能動的な課題解決能力を獲得できるよう支援することで、大分県地域においてリーダーシップや業種を超えた異分野連携力を発揮し、大分県の経済社会の活性化に貢献できる人材を育成することを目指し、以下の具体的な取組を行うこととしている。

- ①連携大学等とともに、大分県地域の歴史・地理・産業・人物等について学ぶ授業（基盤となる科目）や企業の求めるジェネリックスキル等を修得する授業（高度な科目）を各連携校で設定・充実するとともに、協働機関による協働開発科目等を開講する。（学×学連携）
- ②「産業界と協働」し、インターンシッププログラムを構築（地域企業・自治体連携）する。
- ③高度化教養にて複数学部で構成する異分野学生チームを形成しPBLを実施（COC+大学主体）する。

2. 体制整備の取組

目的を達成するために、平成27年に県下の高等教育機関、自治体、企業・団体等の産業界の機関からなる「大学等による『おおいた創生』推進協議会」（以下、推進協議会）を組織した。この推進協議会には代議員会（旧実行委員会：平成28年12月に変更）を置き、各事業計画の承認とともに方向性を決定して、代議員会のもとに設置された教育プログラム開発部会、県内就職率向上部会、産業振興・雇用創出部会において、具体的な事業を企画して各事業を推進する体制を整備した。その体制の中で各部会等において事業の推進を協議し、①「大分を創る人材を育成する科目」の開発と推進を目的とした教育プログラム開発関連事業、②就業拡大を目的とした県内就職率向上関連事業、③合同研究成果発表会等の産業振興・雇用創出関連事業の3つの具体的な事業を実施している。

本事業は、申請校である大分大学とCOC+連携校を中心として、協働機関とが連携して実施する取組みである。このために、大分大学には、COC+推進機構を置いて、専任教員（1名）、COC+推進コーディネーター（3名）を配置し、事業全体の企画・調整と学内における事業推進を主導することとしている。COC+推進機構のもとには、推進協議会の各部会に対応する委員会を設置し、各事業の全体的な連携そして大分大学での事業推進に関わる調整・企画・立案を行い、学内の教務部門会議、全学教育機構運営会議、キャリア開発部門会議等と連携し、各学部やセンター等の協力を得て事業を推進する体制としている。COC+連携校においては、各大学等が独自で進める教育プログラムを尊重しつつ、COC+事業の趣旨に沿って、推進協議会の各部会で取組事業の検討・調整を行い、大分を創る人材を育成するための教育カリキュラムや授業の整備、企業・自治体等の協働機関との連携の下に実施す

るインターンシップなどの取組を進めている。

このように、連携校や企業・自治体等との連携協働体制づくりにより、大分県の経済社会の活性に貢献できる人材を育成する組織化ができ、教育カリキュラムの実践が始まったこと等から、今後の教育カリキュラムの拡充・改善や、県内就職率向上に関する取組を効果的に行うことができる体制が整った。

こうした取組の中、平成29年度末現在では、推進協議会参加機関は大分県及び県内全ての18市町村、25企業等、11大学等の計54機関（平成29年度後半に参加した3大学と1企業の事業参加は平成30年度から）に充実・拡大し、幅広い全県的なCOC+事業の取組が可能になった。また、参加機関の増加に伴い、当初設置されていた「おおいた創生」推進協議会実行委員会を平成28年12月より代議員会に改めることによって、事業を迅速に実施する体制とした。

3. 教育カリキュラムの取組

「大分を創る人材を育成する科目」の整備・充実については、COC+大学における「大分を創る科目」の開講や「大分を創るトップアップ科目」の試行を行うなどして、「育成する人材像」や「評価基準」の検討等を行いつつ、COC+事業が目指す「地方創生教育システム」の基盤づくりを進めている。また、入学生の学びの意識を分析したり、「大分を創る科目」の受講の成果等に関するアンケート調査を行ったりして、「大分を創る科目」の成果と課題を考察している。

COC+連携校では、「大分を創る人材を育成する科目」の選定・開講と単位互換の推進を行うとともに、平成29年度から、全てのCOC+連携校が協働して開発・実施する協働開発科目を開講した。さらに、インターンシップ関連事業においては、COC+連携校が、企業・自治体と協働して「就職支援事業」（インターンシップフェア事業・県内企業シゴト発見フェスタ・県内企業魅力発見セミナー）を実施するなどして、多くの学生の職場体験を推進するための事業を実施している。

II 地方創生に必要なCOC+大学の教育プログラムの構築・実施

1. 育成する人材像に即して編成された教育プログラム

平成28年度入学生からを対象とした「大分を創る科目」を選定（平成28度：89科目、平成29年度：92科目）して、課題解決力の育成や大分地域への興味関心を促す授業を行っている。併行して平成29年度以降に開講する高度化教養科目を含めた「大分を創る人材を育成する科目」（「大分を創る科目」（基盤教養科目）と「大分を創るトップアップ科目」（高度化教養科目））を総合的に推進するために、企業等との共同作業で「育成する人材像」を作成するとともに、授業に係る「カリキュラム・ルーブリック」「カリキュラム・マップ」「カリキュラム・ツリー」「カリキュラム・マトリクス」を作成した。さらに、平成28年度に開講している「大分を創る科目」の科目毎の「育成する力」と「授業方法」から見るカルテを作成し、カリキュラム・ルーブリック等と対応させるなど、育成する人材に関する取組を系統的、全学的に推進を行っている。併せて、平成28年度に、平成29年度以降に開講する「大分を創るトップ

アップ科目」(高度化教養科目)を自治体や企業との協働体制づくりを行いつつ、試行・開講している。さらに、学修成果を認証する「おおいた共創士」認証を行うことと、その仕組みづくりを進めている。

さらに、学部専門科目における「地域創生教育科目」について、平成29年度からその教育内容や「大分を創る人材を育成する科目」との関連性等について検討を行い、地域創生教育を推進する総合的なカリキュラム・マップの原案や「カリキュラム・マトリクス」を作成するなどの検討を進めている。

2. アクティブ・ラーニングの導入

全学的な教育改革の一環として大分大学版「アクティブ・ラーニング」のガイドラインを作成し、現状把握のための調査を実施してきている。ガイドラインを踏まえて、養成する人材像に即して編成された教育プログラムでは、教育目標に即した効果的なアクティブ・ラーニングが実施されていることを確認できるようにしている。アクティブ・ラーニングの導入が行われていない教育プログラムについては、今後アクティブ・ラーニングの導入を支援するためのFD研修会や授業設計支援の取組を行い、導入を促進している。

3. 「大分を創るトップアップ科目」(高度化教養科目)の試行・開講

2段階の地域・企業協働PBL科目を新設した。第1段階目は「地域ブランディング」、第2段階は「利益共有型インターンシップ」を設けた。前者には部分的に学外活動(Off-Campus型講義)を学内の座学に組み入れ、後者は完全なOff-Campus型授業としている。後者の「利益共有型インターンシップ」は、①農山村や漁村の過疎地を主な対象にした地域豊じょう型、②企業を対象にした企業型、③地域組織へのボランティア経験を教育に活かす地域ボランティア型の三種に分けている。平成29年度からの教養科目への基本枠組みへの組み込みに向けて、平成28年度に第1段階目の「地域ブランディング」と第2段階の「利益共有型インターンシップ(地域豊じょう型)」を試行的に実施し、平成29年度には「地域ブランディング」開講、「利益共有型インターンシップ(地域豊じょう型)」、「利益共有型インターンシップ(企業型)」、「高度化学習ボランティア実践」を試行的に実施した。

<平成28年度の事例>

(1) 第1段階の「地域ブランディング」

大分市、日田市、玖珠町から提示された課題に対して、文理混合した37名の学生を、1チーム4名で、解決策を議論し、それを言語化して課題提供組織に対して呈示した。その結果、玖珠町の6次産品化につながったり、企業のシェアハウスのテーマの一部として採用されたり、過疎地振興策として大分市企画課の参考案として活用されることとなった。

(2) 第2段階の「利益共有型インターンシップ(地域豊じょう型)」

11名の学生と教員とが8泊14日(11月~3月)の宿泊型の地域連携活動を玖珠町の八幡地域(過疎の農山村地域)で、複数の指導者で展開した。宿泊場所は、玖珠教育委員から八幡地域の休園幼稚園をコストシェアの立場から無料で貸与された。学生は、地域住民への取材や、全校生徒35人の中学生に数学

などを教える触れ合いを通じて地域の次世代の考え方に触れたり、宿泊地で地域のキーパーソンの方々と夜なべ談義をしたりして、地域の魅力を探ると同時に、地域課題になる情報を収集して学生同士が話し合い、仲間の中で大いに葛藤を繰り返しながら得た情報を構造化(ストーリーづくり)した。この流れで地域課題を仮定した上で地域の良さを絞り込み、それを都会の住民に広報するたるためのパンフレット案を作成し、地域住民の1/3が集まる文化祭の中で発表して高い評価を受けた。

(3) 学生の学びからの変化

チームとしての活動は、「結成期→混乱期→規範期→達成期」のプロセスを経てチームワークが強化され、チームとしての学びを体得している。異なる学部や地域住民といった異質集団の中で情報を自らの足で集め、それを仲間と議論しながら構造化して問いをたて、その解決策を「見える化」する一連の学修活動を学生は経験した。この経験を通じて、会話できなかった学生も住民と話せるようになるなど、コミュニケーション力や一歩踏み込む力が増した。

平成29年度は、「利益共有型インターンシップ」として、地域豊じょう型を2箇所(過疎の漁村と1年目と同じ八幡地域)、企業型(観光産業)、ボランティア型の4科目の試行を行い、大学以外で実施する地域連携型授業の問題点、注意点、ノウハウを蓄積や、大学内の座学型の授業と異なり、学生の評価をどうするかについても検討することができた。

Ⅲ 地方創生に必要なCOC+連携校の教育プログラムの構築・実施

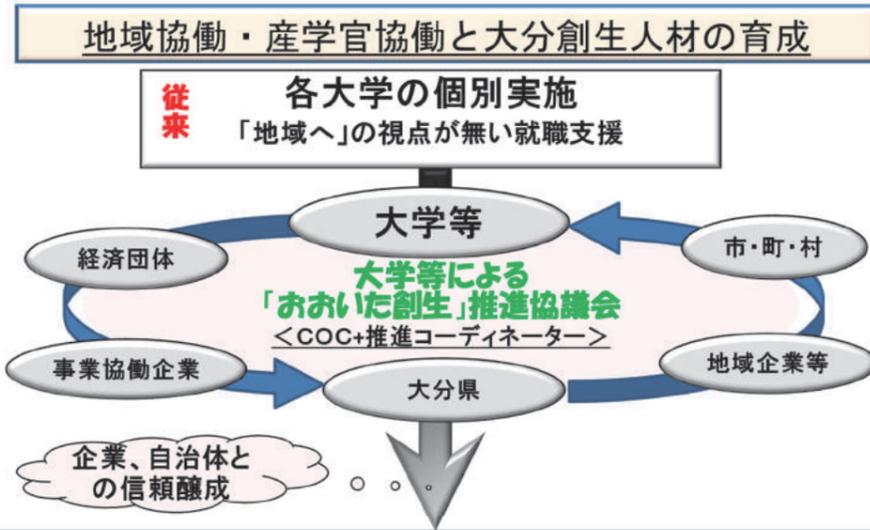
1. 「大分を創る人材を育成する科目」設定と単位互換

COC+連携校で選定した「大分を創る人材を育成する科目」は、平成28年度は8つの連携校で287科目であり各校で受講を促進した。平成29年度は、アクティブ・ラーニングの導入等による科目の充実等を行い、COC+事業計画書の「育成像A」を可能にする科目にするために、平成28年度に大分大学で作成した「育成する人事像」に関する内容を授業の到達目標に位置付けつつ、8つの連携校では420科目を選定するなど、各大学等での取組を拡充している。また、連携校がアクティブ・ラーニングや「育成する人材像」等の共有や、映像コンテンツを作成するなどして「大分を創る人材を育成する科目」の単位互換を、平成28年度は47科目、平成29年度は54科目を選定し、履修を促進している。

2. 協働開発科目の開講・試行の取組

参加大学が協働実施科目として、平成28年度に複数の大学の学生が合同で学ぶ科目として、アクティブ・ラーニング型の学修を行う「ジェネリックスキル養成」の科目を新たに開講した。さらに、平成29年度から連携校及び連携機関等が協働して開発した「初年次地域キャリアデザインワークショップ」「大分の地域ブランド創造体験」の2科目を新たに開講した。この科目の特徴は、連携する8大学の教員と企業等が協働して開発・開講するもので、全ての連携校で「協働開発科目の担当教員」を選任している。併せて、若手社会人の授業の支援や、地域の課題に対応するために関係市と協働実施などを行うことなどができた。

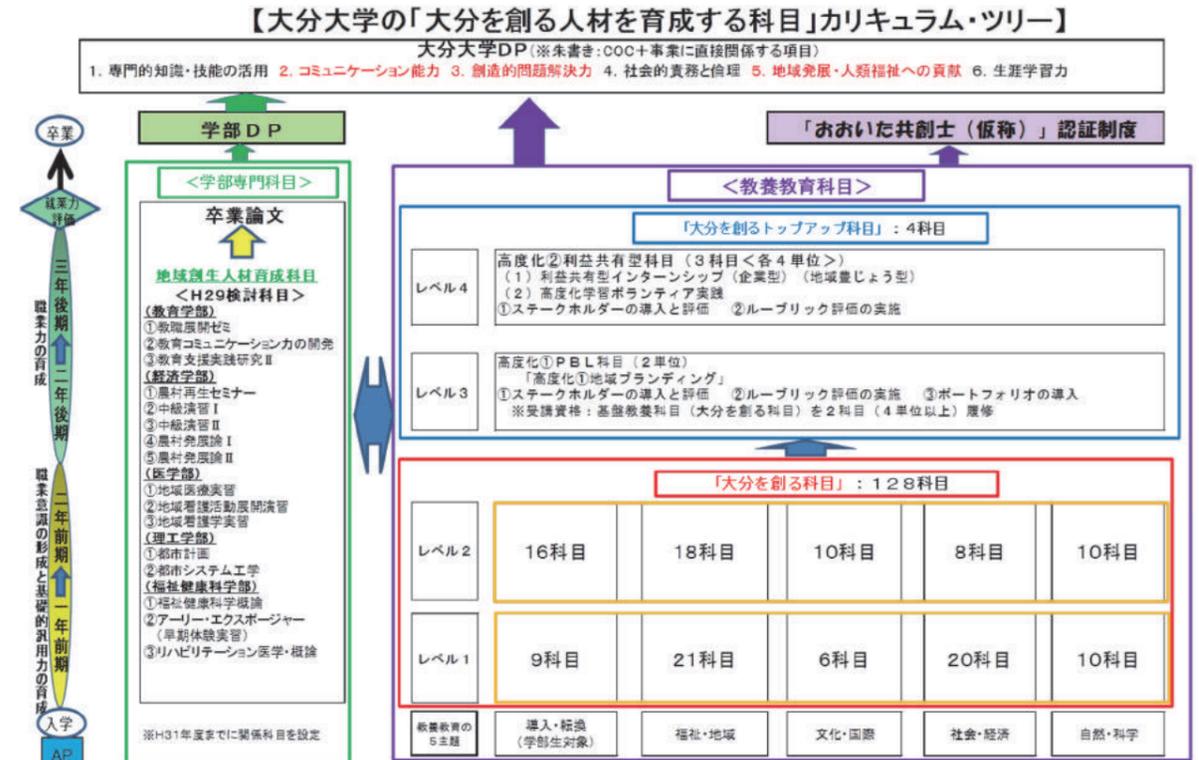
地域と企業の心に響く若者育成プログラムと大分豊じょう化プラン <平成27年度～平成29年度の取組の振り返り>



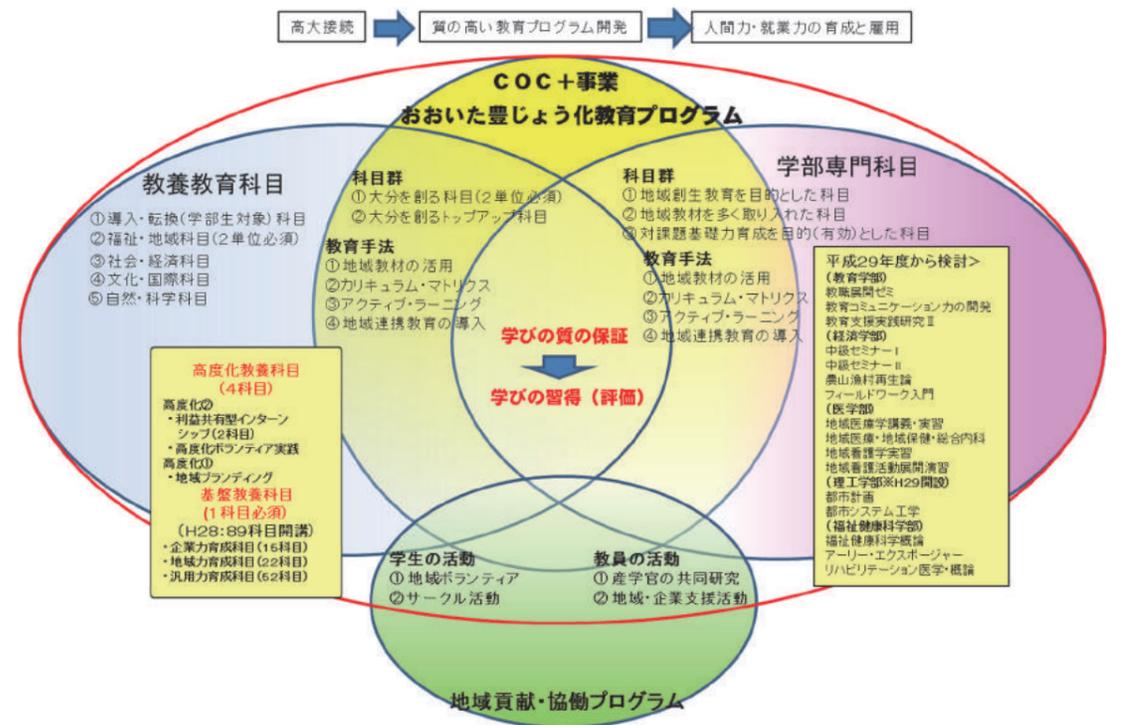
<p>連携校と地域企業等が協働実施の3事業 <働くことを知るキャリア教育(準正課)></p> <ul style="list-style-type: none"> ① 県内企業シゴト発見フェスタ ② インターンシップフェア ③ 県内企業魅力発見セミナー 	<p>大分を創る人材を育成する教育プログラム開発 <各大学等で実施する地域志向科目></p> <ul style="list-style-type: none"> ① 地域教材・地域フィールドを活用した教育 ② 協働開発科目等の新規科目の開発 ③ 社会人のステークホルダーや評価の導入
---	---

地域と企業の心に響く若者育成プログラムと大分豊じょう化プラン 2年間の成果と発展

成果1	信頼醸成	★教育改革を通じて連携大学、企業、地域、自治体間の 信頼 (全ての活動の原点)。
成果2	オール大分で協働したキャリア教育実施	★地元就職率向上のため、 8大学、地元企業、自治体で協働したキャリア教育 を開始<8合同インターンシップなど>
成果3	「能力、学習、評価」の動向を意識した、 教育の改革 と他学、地域との連携	<これまでに無かった教育プログラムの開発> ★大分大学では、「大分を創る科目」と「大分を創るトップアップ科目」を新設し、ルーブリック等の評価規準の活用 ★全連携8大学では、 単位互換 を開始し、地域や企業人も参加した地域協働・産学協働科目の新設
成果4	コストシェア(経費)確保	★大分県から、教員や学生が地域の課題などを探索する活動や、学生が業界概況や県内企業を理解する場の支援
発展1	産学官協働科目の質保証と地元就職	★地域ステークホルダーと協働する 地域協働・産学官協働科目の質保証と地元就職優遇制度
発展2	教養教育改革を学部専門教育との連携へ	★教養課程でのCOC+活動と学部の専門科目と連動させる 地域創生人材の育成の仕組みづくり



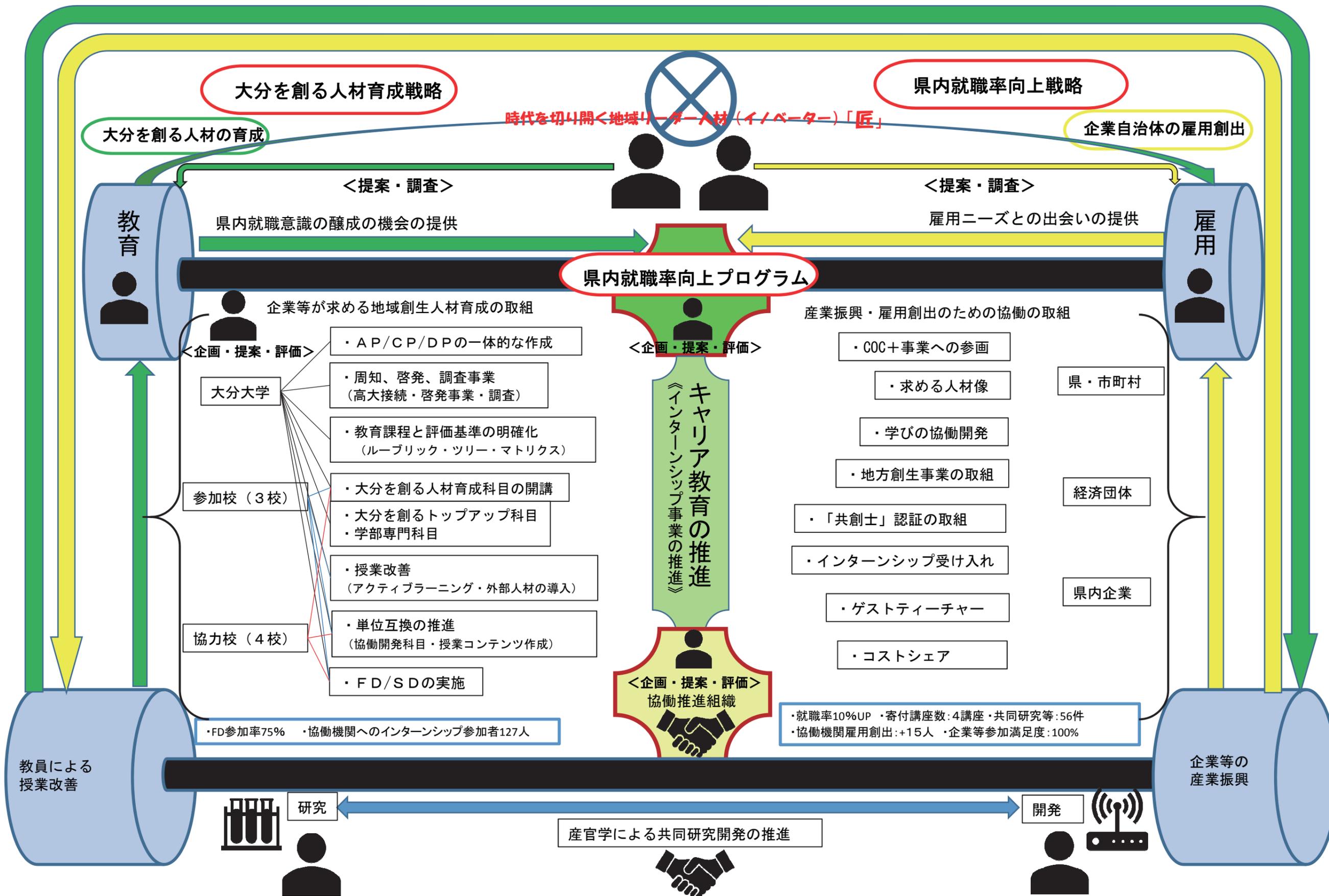
大分大学教育改革プログラム(～大分を創る人材の育成の観点から～) ①AP/CP/DP ②授業改革



- ・個人（役職）や組織
- ・教育サイドの流れ
- ・企業等サイドの流れ

地（知）の拠点大学による地方創生推進事業

「若者育成プログラムと大分豊じょう化プラン」の構造



大分大学の「大分を創る人材の育成像」に関する資料

<p>考え方</p>	<p>①大分大学における「大分を創る人材を育成する科目」（大分を創る科目・大分を創るトップアープ科目）の開講基準として、コンセプトの教育内容のいずれかを含むものとし、その科目が最も目指す人材像の科目（企業力科目・地域力科目・汎用力科目）に設定する。 ②「大分を創る人材を育成する」視点から各科目が目指す習熟レベルを設定して、大分大学としてのカリキュラム・ツリーを作成する。 ③シラバスの「具体的な到達目標」に下記の①～③の内容を引用して育成する人材像を記載する。</p>	<p>①大分大学における「大分を創る人材を育成する科目」（大分を創る科目・大分を創るトップアープ科目）の開講基準として、コンセプトの教育内容のいずれかを含むものとし、その科目が最も目指す人材像の科目（企業力科目・地域力科目・汎用力科目）に設定する。 ②「大分を創る人材を育成する」視点から各科目が目指す習熟レベルを設定して、大分大学としてのカリキュラム・ツリーを作成する。 ③シラバスの「具体的な到達目標」に下記の①～③の内容を引用して育成する人材像を記載する。</p>
<p>企業力 （起業家・ 企業人 養成）</p>	<p>コンセプト：大分県を中心とした企業が求める「企業理解」「企業への関心」「企業に求められる能力」に関する教育内容</p> <p>①企業・職場、製品開発等の仕組みについて説明することができる。 ②経済の全体像（消費者や企業の動き、政府の役割およびその活動）、およびそれらの相互関係を説明することができる。 ③企業自体の魅力や企業のマーケティングにおける製品開発、ブランド戦略、価格設定について説明することができる。 ④企業の経営者、管理職、専門職の職務内容を説明することができる。 ⑤企業が抱える課題を知り、その解決方策を提案することができる。 ⑥企業を体験して、企業が直面する課題について多面的に考えることができる。 ⑦提供される商品・サービス、財務戦略について新しい提案ができる。 ⑧企業を体験して、企業が直面する課題についてその解決方策を提案することができる。 ⑨企業に参画して、経営者と共に、「ブランドデザイン」や「戦略」等の新規事業を企画することができる。</p>	<p>企業力の習熟レベル</p> <p><レベル4> 企業の取組に参画して、企業が直面する課題を様々な観点から分析して課題を指摘し、中長期的な視野に立って「ブランドデザイン」や「戦略」等の企画提案と実践を行うことができる。⑦⑧⑨ <レベル3> 企業の取組に参画して経済の動きと企業の経営戦略等を体験して課題を指摘し、企業自体の魅力発信や提供する商品・サービス企画を立案・提案することができる。⑥⑦⑧ <レベル2> 企業の取組の多様な資料から、企業の課題について自分なりの解決策を提案することができる。④⑤ <レベル1> 企業の組織やしくみ、特色、価値、行動、製品開発等を説明できる。①②③</p>
<p>地域力 （大分豊 じょう化力 の育成）</p>	<p>コンセプト：大分県を中心とした地域が求める「地域理解」「地域への関心」に関する教育内容</p> <p>⑩大分の地域課題（教育・福祉・医療・科学・文化・防災等）について説明することができる。 ⑪大分のまちづくりや特色ある取組（教育・福祉・医療・科学・文化・防災等）について説明することができる。 ⑫大分県における県・市町村の政策について説明することができる。 ⑬大分の直面する地域課題を知り、その解決方策を提案することができる。 ⑭地域での活動を体験し、地域社会が直面する地域課題について多面的に考えることができる。 ⑮地域での活動を体験し、地域社会が直面する地域課題についてその解決方策を提案することができる。 ⑯地域の取組に参画して、地域の街づくりや特色ある産業等の豊じょう化について多面的に分析して、中長期的な視野に立って「ブランドデザイン」や「戦略」の新規事業を企画・実践することができる。</p>	<p>地域力の習熟レベル</p> <p><レベル4> 地域の取組に参画して、地域のまちづくりや特色ある産業について、地域社会が直面する課題を様々な観点から分析して課題を指摘し、中長期的な視野に立って「ブランドデザイン」や「戦略」等の企画提案と実践を行うこととをとおして具体的、実証的、効果的な新規事業を提案することができる。⑬⑭⑮ <レベル3> 地域の取組に参画して地域のまちづくりや特色ある産業を体験して課題を指摘し、地域の魅力発信や地域で取り組む企画を立案・提案することができる。⑩⑪⑫⑬ <レベル2> 地域の取組の多様な資料から、地域の課題について自分なりの解決策を提案することができる。⑩⑪⑫⑬ <レベル1> 大分県の地域課題（教育・福祉・医療・科学・文化・防災等）や特色ある産業、観光資源、社会政策、制度について説明できる。⑩⑪⑫</p>
<p>汎用力 の育成</p>	<p>コンセプト：企業や地域から求められる就業基礎力、社会基礎力、学士力等の汎用的能力を育成する教育内容</p> <p>対課題基礎力</p> <p>⑰複数の情報手段による情報を収集して分析できる。 ⑱テーマに関する課題を発見して課題解決の目標を設定できる。 ⑲課題解決にむけた柔軟性を保った計画立案ができる。 ⑳課題解決過程において、進捗状況の把握、管理および適正な遂行ができる。 ㉑多様な人や文化、考え方を理解することができる。 ㉒他者に分かりやすく説明・提案することができる。 ㉓他者と協調・協働して計画することができる。 ㉔他者と協調・協働して実行することができる。 ㉕組織や集団の一員として、積極性と柔軟性を持った議論を建設的に行うことができる。 ㉖組織や集団をコントロールするための柔軟性を保った計画作成と協働作業ができる。 ㉗社会や企業への関心がある。 ㉘組織・社会の一員としての規律（マナー）を守ることができる。 ㉙組織・社会の一員としての自分の役割を認識することができる。 ㉚組織・社会の一員としての自分の役割を認識して取り組むことができる。 ㉛組織・社会の一員として他者の発想を受け入れつつ、持続的に取り組むことができる。 ㉜モチベーションを維持して失敗を恐れず、粘り強く取り組むことができる。 ㉝「働くこと」の意義を知り、自分なりの生き方を持って主体的に働くことができる。</p> <p>対人基礎力</p> <p>㉞組織や集団の一員として、多様な人や文化、考えを理解して、他者とともに協調・協働して建設的な議論を行い、実行をすることができる。㉞②⑨ ㉟組織や集団の一員として、他者の考えを受け入れて、自分の考えを他者に受け入れられる建設的な議論をすることができる。㉟②③④ ㊱他者の考えを受け入れ、自分の考えを相手に受け入れられるような説明ができる。㊱⑦ ㊲自分の考えを、相手に分かりやすく説明できる。㊲⑭⑯</p> <p>対自己基礎力</p> <p>㊳組織や社会の一員として、働くことへの興味・関心や意義・役割を基にして、モチベーションの維持・ストレスコントロール、キャリアプランニングすることなどができる。㊳②③④ ㊴組織や社会の一員として、必要に応じた適切な修正や新しい発想を取り入れるなどして持続的な取組ができる。㊴① ㊵自分の考えを基にして、その取組を他者が認めてくれるような提案や取組ができる。㊵②③④ ㊶組織や社会の一員としての自分の役割を認識して他者と関わる事ができる。㊶②⑧⑨</p>	<p>汎用力の習得レベル</p> <p><レベル4> 必要で多様な情報分析から課題や特色を指摘して課題解決に取り組みながら進捗状況を把握し、より良い計画に修正することができる。⑰⑱⑲⑳ <レベル3> 必要で多様な情報分析から課題や特色を指摘して、課題解決の方策を提案することができる。⑰⑱ <レベル2> 適切な手段を使って多様な情報を収集し、必要な情報を選択して活用して、自分なりの解決の目標を設定することができる。⑰⑱ <レベル1> 必要な情報を収集できる。⑰ <レベル4> 組織や集団の一員として、多様な人や文化、考えを理解して、他者とともに協調・協働して建設的な議論を行い、実行をすることができる。②⑨ <レベル3> 組織や集団の一員として、他者の考えを受け入れて、自分の考えを他者に受け入れられる建設的な議論をすることができる。②③④ <レベル2> 他者の考えを受け入れ、自分の考えを相手に受け入れられるような説明ができる。⑦ <レベル1> 自分の考えを、相手に分かりやすく説明できる。⑭⑯ <レベル4> 組織や社会の一員として、働くことへの興味・関心や意義・役割を基にして、モチベーションの維持・ストレスコントロール、キャリアプランニングすることなどができる。②③④ <レベル3> 組織や社会の一員として、必要に応じた適切な修正や新しい発想を取り入れるなどして持続的な取組ができる。① <レベル2> 自分の考えを基にして、その取組を他者が認めてくれるような提案や取組ができる。②③④ <レベル1> 組織や社会の一員としての自分の役割を認識して他者と関わる事ができる。②⑧⑨</p>

大分を創る人材を育成する科目のレベルごとの科目群のカリキュラム・ルーブリック

		大分を創るトップアップ科目(高度化教養科目)		大分を創る科目(基盤教養科目)	
		レベルⅣ.(利益共有型科目)	レベルⅢ.(ブランディング科目)	レベルⅡ.(大分を創る向上科目)	レベルⅠ.(大分を創る基盤科目)
学修の基準		<p>参加して得た情報を多面的に思考することから課題を指摘し、中長期的な視野に立った課題解決に貢献する企画・提案・実践ができる</p>	<p>参加(体験)して得た情報を基にして課題を指摘し、他者の意見も踏まえて課題解決の企画・提案ができる</p>	<p>多様な資料を収集し、適切な資料を組み合わせ課題解決の方策を提案できる</p>	<p>知識や事実に基づいて他者に説明できる</p>
大分豊じょう化力	<p>企業力 大分県を中心とした企業(職場)をフィールドにした豊じょう化力としての「企業理解」「企業への関心」「企業課題への対応能力」</p>	<p>企業の取組に参画して、企業が直面する課題を様々な観点から分析して課題を指摘し、中長期的な視野に立って「グランドデザイン」や「戦略」等の企画提案と実践を行うこととおして具体的、実現的、効果的な新規事業を提案することや、自らの企業のきっかけにすることなどができる。 ⑦⑧⑨</p>	<p>企業の取組に参加して経済の動きと企業の経営戦略等を体験して課題を指摘し、企業自体の魅力発信や提供する商品・サービス企画を立案・提案することができる。 ⑥⑦⑧</p>	<p>企業の取組の多様な資料から、企業の課題について自分なりの解決策を提案することができる。 ④⑤</p>	<p>企業の組織やしぐみ、特色、価値、行動、製品開発等を説明できる。 ①②③</p>
	<p>地域力 大分県を中心とした地域をフィールドにした豊じょう化力としての「地域理解」「地域への関心」「地域課題への対応能力」</p>	<p>地域の取組に参画して、地域のまちづくりや特色ある産業について、地域社会が直面する課題を様々な観点から分析して課題を指摘し、中長期的な視野に立って「グランドデザイン」や「戦略」等の企画提案と実践を行うこととおして具体的、実現的、効果的な新規事業を提案することなどができる。 ⑮⑯</p>	<p>地域の取組に参加して地域のまちづくりや特色ある産業を体験して課題を指摘し、地域の魅力発信や地域で取り組む企画を立案・提案することができる。 ⑭⑮</p>	<p>地域の取組の多様な資料から、地域の課題について自分なりの解決策を提案することができる。 ⑩⑪⑫⑬</p>	<p>大分県の地域課題(教育・福祉・医療・科学・文化・防災等)や特色ある産業、観光資源、社会政策・制度について説明できる。 ⑩⑪⑫</p>
		※科目名を記載	※科目名を記載	※科目名を記載	※科目名を記載
		レベルⅣ.(利益共有型科目)	レベルⅢ.(ブランディング科目)	レベルⅡ.(大分を創る向上科目)	レベルⅠ.(大分を創る基盤科目)
学修の基準		<p>多様な情報(課題)・人の中にあつて、手段や対応を他面的に見ながら、長期的な視野に立ってより良いもの(企画・人関係・自己)を創ることができる</p>	<p>多様な情報(課題)・人の中にあつて、情報や他者と適切に対応して良いもの(企画・人関係・自己)を創ることができる</p>	<p>対課題、対人、對自己という場において、社会人として必要な基礎的なことができる</p>	<p>個人として必要な基礎的なことができる</p>
汎用力☆社会人基礎力	<p>対課題基礎力 必要な情報を入手し、その情報をもとに、目標を設定し、その目標を達成するための多様な要素を整理して組み立てて、計画を立て、その計画をもとに実際の活動ができるスキル</p>	<p>必要で多様な情報分析から課題や特色を指摘して課題解決に取組みながら進捗状況を把握し、より良い計画に修正することができる。 ⑰⑱⑲</p>	<p>必要で多様な情報分析から課題や特色を指摘して、課題解決の方策を提案することができる。 ⑰⑱</p>	<p>適切な手段を使って多様な情報を収集し、必要な情報を選択して活用して、自分なりの解決の目標を設定することができる。 ⑰⑱</p>	<p>必要な情報を収集できる。 ⑰</p>
	<p>対人基礎力 仕事を他者とうまくやって、仕事で成果をあげ、それを継続していくための、よりよい人的関係を創りあげていくためのスキル</p>	<p>組織や集団の一員として、多様な人や文化、考えを理解して、他者とともに協調・協働して建設的な議論を行い、実行をすることができる。 ⑲⑳</p>	<p>組織や集団の一員として、他者の考えを受け入れて、自分の考えを他者に受け入れられる建設的な議論をすることができる。 ⑲⑳㉑</p>	<p>他者の考えを受け入れ、自分の考えを相手に受け入れられるような説明ができる。 ㉒</p>	<p>自分の考えを、相手に分かりやすく説明できる。 ⑲⑳</p>
	<p>対自己基礎力 自分自身のチカラを、いつでも、どんな環境でも、周囲の信頼を獲得しながら、発揮し続けることができるスキル</p>	<p>組織や社会の一員として、働くことへの興味・関心や意義・役割を基にして、モチベーションの維持・ストレスコントロール、キャリアプランニングすることなどができる。 ㉑㉒㉓</p>	<p>組織や社会の一員として、必要に応じた適切な修正や新しい発想を取り入れるなどして持続的な取組ができる。 ㉑</p>	<p>自分の考えを基にして、その取組を他者が認めてくれるような提案や取組ができる。 ㉒㉓㉔</p>	<p>組織や社会の一員としての自分の役割を認識して他者と関わるができる。 ㉑㉒㉓</p>
		※科目名を記載	※科目名を記載	※科目名を記載	※科目名を記載

「大分を創る人材を育成する科目」のレベルごとの科目群のカリキュラム・マトリクス

＜企業力育成科目・地域力育成科目＞(※この科目における育成できる「汎用力」を下記の「汎用力」の欄に青色で再掲しています)

		大分を創るトップアップ科目(高度化教養科目)		大分を創る科目(基盤教養科目)			
		利益共有型科目	ブランディング科目	大分を創る向上科目		大分を創る基盤科目	
学修の基準		参画して得た情報を多面的に思考することから課題を指摘し、中長期的な視野に立った課題解決に貢献する企画・提案・実践ができる	参加(体験)して得た情報を基にして課題を指摘し、他者の意見も踏まえて課題解決の企画・提案ができる	参加(体験)して得た情報を基にして課題を指摘し、他者の意見も踏まえて多様な資料を収集し、適切な資料を組み合わせ課題解決の方策を提案できる	知識や事実に基づいて他者に説明できる		
大分豊しよう力	企業力 大分県を中心とした企業(職場)をフィールドにした豊しよう力としての「企業理解」「企業への関心」「企業課題への対応能力」	企業の取組に参画して、企業が直面する課題を様々な観点から分析して課題を指摘し、中長期的な視野に立つ「ランドデザイン」や「戦略」等の企画提案と実践を行うこととをとおして具体的、実証的、効果的な新規事業を提案することとができる。 ⑦⑧⑨ 利益共有型インターンシップ(企業型)	企業の取組に参加して経済の動きと企業の経営戦略等を体験して課題を指摘し、企業自体の魅力発信や提供する商品・サービス企画を立案・提案することができる。 ⑥⑦⑧ 高度化①「地域ブランディング」	企業の取組に参加して経済の動きと企業の経営戦略等を体験して課題を指摘し、企業自体の魅力発信や提供する商品・サービス企画を立案・提案することができる。 ⑥⑦⑧	企業の取組の多様な資料から、企業の課題について自分なりの解決策を提案することができる。 ④⑤	企業の組織やしきみ、特色、価値、行動、製品開発等を説明できる。 ①②③	
	地域力 大分県を中心とした地域をフィールドにした豊しよう力としての「地域理解」「地域への関心」「地域課題への対応能力」	地域の取組に参画して、地域のまちづくりや特色ある産業について、地域社会が直面する課題を様々な観点から分析して課題を指摘し、中長期的な視野に立つ「ランドデザイン」や「戦略」等の企画提案と実践を行うこととをとおして具体的、実証的、効果的な新規事業を提案することとができる。 ⑩⑪⑫ 利益共有型インターンシップ(地域豊しよう型) 高度化学習ボランティア実践	地域の取組に参加して地域のまちづくりや特色ある産業を体験して課題を指摘し、地域の魅力発信や地域で取り組む企画を立案・提案することができる。 ⑭⑮ 高度化①「地域ブランディング」	地域の取組に参加して地域のまちづくりや特色ある産業を体験して課題を指摘し、地域の魅力発信や地域で取り組む企画を立案・提案することができる。 ⑭⑮	地域の取組の多様な資料から、地域の課題について自分なりの解決策を提案することができる。 ⑩⑪⑫⑬	田舎で輝き隊! 大分の水Ⅰ プロジェクト型学習入門2～インターンシップセミナーB～ 子育て支援の地理学 障がい者福祉入門 地域における仕事と社会 交通からみた地域社会 地域の教育課題 農村再生セミナー 農村発展論Ⅱ	地域の住まい論 少子高齢化と地域福祉社会 自然災害と防災の科学 運動器疾患と治療・予防 早期体験実習 健康科学概論(看) 大分の地域資源(後期) 大分の歴史Ⅰ プロジェクト型学習入門1～インターンシップセミナーB～ 建築環境計画 世界・日本・大分の農業経済論 大分美術史概論 食と農の地理学 建築入門
学修の基準		多様な情報(課題)・人の中において、手段や対応を他面的に見ながら、長期的な視野に立つより良いもの(企画・人間関係・自己)を創ることができる	多様な情報(課題)・人の中において、情報や他者と適切に対応して良いもの(企画・人間関係・自己)を創ることができる	多様な情報(課題)・人の中において、情報や他者と適切に対応して良いもの(企画・人間関係・自己)を創ることができる	対課題、対人、対自己という場において、社会人として必要な基礎的なことができる	個人として必要な基礎的なことができる	
汎用力 社会人基礎力	対課題基礎力 必要な情報入手し、その情報をもとに、目標を設定し、その目標を達成するための多様な要素を整理して組み立てて、計画を立て、その計画をもとに実際の活動ができるスキル	必要で多様な情報分析から課題や特色を指摘して、課題解決に取組みながら進捗状況を把握し、より良い計画に修正することができる。 ⑩⑪⑫⑬ 利益共有型インターンシップ(企業型) 利益共有型インターンシップ(地域豊しよう型) 高度化学習ボランティア実践	必要で多様な情報分析から課題や特色を指摘して、課題解決の方策を提案することができる。 ⑩⑪⑫ 高度化①「地域ブランディング」	必要で多様な情報分析から課題や特色を指摘して、課題解決の方策を提案することができる。 ⑩⑪⑫ 日本経済入門(再掲) 事業創生入門(再掲) 田舎で輝き隊!(再掲) 男女共同参画入門(再掲) 知的財産入門(再掲) 企業の価格戦略と消費者の行動(再掲) 農村再生セミナー(再掲) 日本のマネジメント(再掲) 職業とキャリア開発(再掲)	適切な手段を使って多様な情報を収集し、必要な情報を選択して活用して、自分なりの解決の目標を設定することができる。 ⑩⑪⑫ 企業ファイナンス入門(再掲) 地域と情報(再掲) インストラクショナルデザイン入門(再掲) プロジェクト型学習入門1～インターンシップセミナーB～(再掲) 大分の水Ⅰ(再掲) 自然災害と防災の科学(再掲) プロジェクト型学習入門2～インターンシップセミナーB～(再掲) 地域における仕事と社会(再掲) 日本のマネジメント(再掲) 建築入門(再掲) 地域の教育課題(再掲)	必要な情報を収集できる。 ⑩ 自然災害と防災の科学(再掲) 中小企業の魅力の発見と発信(再掲) プロジェクト型学習入門1～インターンシップセミナーB～(再掲) 大分の水Ⅰ(再掲) 健康科学概論(医)(再掲) 早期体験実習(再掲) 健康科学概論(看)(再掲) 大分の地域資源(後期)(再掲) 大分の人と学問(再掲) 大分の歴史Ⅱ(再掲) 世界・日本・大分の農業経済論(再掲) 経済統計を読む(再掲) 福祉専門職の来し方(再掲) 子どもにとっての福祉とは:社会的養護と家族支援(再掲) 医学史のプロムナード(再掲)	高齢者の身体機能と疾病の特徴(再掲) 前近代日本の国家と社会(再掲) 健康科学概論(医)(再掲) 大分の地域資源(前期)(再掲) 大分の歴史Ⅱ(再掲) 世界・日本・大分の農業経済論(再掲) 大分美術史概論(再掲) 会社組織のしくみ(再掲) 医学史のプロムナード(再掲)
	対人基礎力 仕事を他者とうまくやって、仕事を成果をあげ、それを継続していくための、よりよい人間関係を創りあげていくためのスキル	組織や集団の一員として、多様な人や文化、考えを理解して、他者とともに協調・協働して建設的な議論を行い、実行をすることができる。 ⑯⑰ 利益共有型インターンシップ(企業型) 利益共有型インターンシップ(地域豊しよう型) 高度化学習ボランティア実践	組織や集団の一員として、他者の考えを受け入れて、自分の考えを他者に受け入れられる建設的な議論をすることができる。 ⑯⑰⑱ 高度化①「地域ブランディング」	組織や集団の一員として、他者の考えを受け入れて、自分の考えを他者に受け入れられる建設的な議論をすることができる。 ⑯⑰⑱ 田舎で輝き隊!(再掲) 男女共同参画入門(再掲) 農村再生セミナー(再掲) 職業とキャリア開発(再掲)	他者の考えを受け入れ、自分の考えを相手に受け入れられるような説明ができる。 ⑯ 事業創生入門(再掲) 企業ファイナンス入門(再掲) 大分の水Ⅰ(再掲) 知的財産入門(再掲) 大分の水Ⅱ(再掲) 健康科学概論(医)(再掲) プロジェクト型学習入門2～インターンシップセミナーB～(再掲) 福祉専門職の来し方(再掲) 農村発展論Ⅱ(再掲)	地域と情報(再掲) 高齢者の身体機能と疾病の特徴(再掲) インストラクショナルデザイン入門(再掲) プロジェクト型学習入門1～インターンシップセミナーB～(再掲) 建築環境計画(再掲) 自然災害と防災の科学(再掲) 早期体験実習(再掲) 大分の地域資源(後期)(再掲) 大分の歴史Ⅱ(再掲) 世界・日本・大分の農業経済論(再掲) 大分美術史概論(再掲) 地域社会へのまなざし(再掲) 建築入門(再掲) 会社組織のしくみ(再掲) 企業価格戦略と消費者の行動(再掲)	高年齢者の身体機能と疾病の特徴(再掲) 前近代日本の国家と社会(再掲) 大分の地域資源(前期)(再掲) 大分の歴史Ⅱ(再掲) 子どもにとっての福祉とは:社会的養護と家族支援(再掲) 医学史のプロムナード(再掲)
	対自己基礎力 自分自身のチカラを、いつでも、どんな環境でも、周囲の信頼を獲得しながら、発揮し続けることができるスキル	組織や社会の一員として、働くことへの興味・関心や意欲・役割を基にして、モチベーションの維持・ストレスコントロール、キャリアプランニングすることとができる。 ⑳㉑㉒ 利益共有型インターンシップ(企業型) 利益共有型インターンシップ(地域豊しよう型) 高度化学習ボランティア実践	組織や集団の一員として、他者の考えを受け入れて、自分の考えを他者に受け入れられる建設的な議論をすることができる。 ⑳㉑㉒ 高度化①「地域ブランディング」	組織や集団の一員として、他者の考えを受け入れて、自分の考えを他者に受け入れられる建設的な議論をすることができる。 ⑳㉑㉒ 日本経済入門(再掲) 事業創生入門(再掲) 農村再生セミナー(再掲)	自分の考えを基にして、その取組を他者が認めてくれるような提案や取組ができる。 ⑳㉑㉒ 企業ファイナンス入門(再掲) プロジェクト型学習入門2～インターンシップセミナーB～(再掲) 地域の教育課題(再掲)	事業創生入門(再掲) 地域と情報(再掲) 田舎で輝き隊!(再掲) プロジェクト型学習入門1～インターンシップセミナーB～(再掲) 建築環境計画(再掲) 運動器疾患と治療・予防(再掲) 健康科学概論(医)(再掲) 大分の地域資源(後期)(再掲) 建築構造工学(再掲) 会社法入門(再掲) 子育て支援の地理学(再掲) 障がい者福祉入門(再掲) 食と農の地理学(再掲) 会社組織のしくみ(再掲)	地域の住まい論(再掲) 大分の人と学問(再掲) 中小企業の魅力の発見と発信(再掲) 大分の水Ⅱ(再掲) 早期体験実習(再掲) 健康科学概論(看)(再掲) 大分の地域資源(後期)(再掲) 日本のマネジメント(再掲) 建築入門(再掲) 福祉専門職の来し方(再掲) 医学史のプロムナード(再掲) 地域における仕事と社会(再掲)

「大分を創る人材を育成する科目」のレベルごとの科目群のカリキュラム・マトリクス

＜汎用力育成科目＞

		大分を創るトップアップ科目(高度化教養科目)		大分を創る科目(基盤教養科目)					
		利益共有型科目	ブランディング科目	大分を創る向上科目		大分を創る基盤科目			
学修の基準		多様な情報(課題)・人の中にあつて、手段や対応を他面的に見ながら、長期的な視野に立ってより良いもの(企画・人関係・自己)を創ることができる	多様な情報(課題)・人の中にあつて、情報や他者と適切に対応して良いもの(企画・人関係・自己)を創ることができる	多様な情報(課題)・人の中にあつて、情報や他者と適切に対応して良いもの(企画・人関係・自己)を創ることができる	対課題、対人、対自己という場において、社会人として必要な基礎的なことができる	個人として必要な基礎的なことができる			
汎 用 力 ☆ 社 会 人 基 礎 力	対課題基礎力 必要な情報を入力し、その情報をもとに、目標を設定し、その目標を達成するための多様な要素を整理して組み立てて、計画を立て、その計画をもとに実際の活動ができるスキル	必要で多様な情報分析から課題や特色を指摘して課題解決に取組みながら進捗状況を把握し、より良い計画に修正することができる。 ⑰⑱⑳	必要で多様な情報分析から課題や特色を指摘して、課題解決の方策を提案することができる。 ⑰⑱	必要で多様な情報分析から課題や特色を指摘して、課題解決の方策を提案することができる。 ⑰⑱	適切な手段を使って多様な情報を収集し、必要な情報を選択して活用して、自分なりの解決の目標を設定することができる。 ⑰⑱	必要な情報を収集できる。 ㉑			
	対人基礎力 仕事を他者とうまくやって、仕事を継続していくための、よりよい人間的関係を創りあげていくためのスキル	利益共有型インターンシップ(企業型) 利益共有型インターンシップ(地域豊じょう型) 高度化学習ボランティア実践	組織や集団の一員として、多様な人や文化、考えを理解して、他者とともに協調・協働して建設的な議論を行い、実行をすることができる。 ㉒㉓	高度化①「地域ブランディング」	子どものこころの育ち 社会調査の基礎 Education of the World in Comparative Perspective 「読むこと」と自己開拓 木材加工の技術 日本文化論(前期) 日本文化論(後期) カタリバでキャリアを拓く 基礎理工学入門	東アジア史の諸相 現代社会と法 学びと生活の探求 現代社会と心理学 日本国憲法※青野 身近な物理学 基礎ゼミ(理学療法コース) 情報科学 学習ボランティア入門 創造的思考法 初等教育のためのものづくり 機械の世界 イギリス近代史 文章構成法と数学 数学の世界 機械技術概論(再掲) 初年次地域キャリアデザインワークショップ(再掲)	現代天文学と生命 学びと生活の探求 数学入門 基礎演習Ⅰ(H29以降不開講) 共生社会論 福祉テクノロジー入門 医療情報システム学 医療情報学 人類の知的遺産と向き合う 日本の環境政策 西洋思想の源流 機械と文明 国文学作品研究 微分法と数学 キャリアプランと就職力の向上	市民参加と現代社会 コンピュータ科学入門 基礎ゼミ(小学校教育コース) エレクトロニクスの世界Ⅰ くらしの化学 基礎ゼミ(心理学コース) 水彩画の魅力 現代国際政治と日本(再掲) 心理学を知る(再掲)	生命科学と社会 情報科学の世界 基礎ゼミ(特別支援教育コース) 環境の化学 基礎ゼミ(社会福祉実践コース) 国際健康コンサルジュ養成講座 ハロック音楽の世界(再掲) 保育学基礎論(再掲) 数学と文化(再掲)
	対自己基礎力 自分自身のチカラを、いつでも、どんな環境でも、周囲の信頼を獲得しながら、発揮し続けることができるスキル	組織や社会の一員として、働くことへの興味・関心や意義・役割を基にして、モチベーションの維持・ストレスコントロール、キャリアプランニングすることなどができる。 ㉔㉕㉖	組織や集団の一員として、他者の考えを受け入れて、自分の考えを他者に受け入れられる建設的な議論をすることができる。 ㉗㉘㉙	高度化①「地域ブランディング」	機械技術概論 初年次地域キャリアデザインワークショップ カタリバでキャリアを拓く(再掲)	他者の考えを受け入れ、自分の考えを相手に受け入れられるような説明ができる。 ㉚	自分の考えを、相手に分かりやすく説明できる。 ㉛㉜		
	利益共有型インターンシップ(企業型) 利益共有型インターンシップ(地域豊じょう型) 高度化学習ボランティア実践	組織や社会の一員として、必要に応じた適切な修正や新しい発想を取り入れるなどして持続的な取組ができる。 ㉞	高度化①「地域ブランディング」	心理学を知る カタリバでキャリアを拓く(再掲) 機械技術概論(再掲)	自分の考えを基にして、その取組を他者が認めてくれるような提案や取組ができる。 ㉟㊱㊲	組織や社会の一員としての自分の役割を認識して他者と関わることができる。 ㊳㊴			
	利益共有型インターンシップ(企業型) 利益共有型インターンシップ(地域豊じょう型) 高度化学習ボランティア実践	組織や社会の一員として、必要に応じた適切な修正や新しい発想を取り入れるなどして持続的な取組ができる。 ㊵	高度化①「地域ブランディング」	心理学的な楽しみ Education of the World in Comparative Perspective(再掲) 「読むこと」と自己開拓(再掲) 基礎演習Ⅰ(再掲) 身近な物理学(再掲) 初年次地域キャリアデザインワークショップ(再掲) 国文学作品研究(再掲)	手作り絵本の楽しみ 学びと生活の探求(再掲) 学びと生活の探求(再掲) 初等教育のためのものづくり(再掲) 基礎ゼミ(理学療法コース)(再掲) キャリアプランと就職力の向上(再掲)	抽象化と代数学 東アジア史の諸相(再掲) 社会調査の基礎(再掲) 保育学基礎論(再掲) 基礎ゼミ(小学校教育コース)(再掲) エレクトロニクスの世界Ⅰ(再掲) 基礎ゼミ(社会福祉実践コース)(再掲) 学習ボランティア入門(再掲) 人類の知的遺産と向き合う(再掲) 国際健康コンサルジュ養成講座(再掲) くらしの化学(再掲) 機械と文明(再掲) イギリス近代史(再掲) 文章構成法(再掲)	スポーツと生活 社会調査の基礎(再掲) 保育学基礎論(再掲) 基礎ゼミ(小学校教育コース)(再掲) エレクトロニクスの世界Ⅰ(再掲) 基礎ゼミ(社会福祉実践コース)(再掲) 学習ボランティア入門(再掲) 創造的思考法(再掲) 木材加工の技術(再掲) 機械の世界(再掲) イギリス近代史(再掲) 文章構成法(再掲)		

「大分を創る科目」を「育成する力」と「授業方法」から見る科目調査表

「大分を創る科目」のカリキュラムマップの作成を行うために、担当する科目についての調査にご協力をお願いします。

COC+推進機構

記載方法：下記の記載内容に沿って、赤字及び赤枠の欄に記載又はチェック（□をダブルクリックして「チェック」を入力すると☑になります）をしてください。

- 記載内容①：枠上に、担当する科目名と主担当教員名を記載してください。育成する力（地域力科目・企業力科目・汎用力科目）のいずれかにチェックを入れてください。
 記載内容②：縦軸の「地域力育成科目」「企業力育成科目」「汎用力科目」のうち、「育成する力」に該当する欄を選択し、赤枠の空欄の枠に1か所チェック（☑）してください。
 ※「汎用力育成科目」はテーマごとの「育成する力のレベル」はありません。
 記載内容③：横軸の「授業形式」の該当する赤枠の空欄の枠に1か所チェック（☑）してください。
 記載内容④：下段の「<汎用力>観点レベル」の欄に、各「基礎力」毎に適切なレベルを1つ選んで、その欄にチェック（☑）してください。※適切な内容がない場合は不要です。

科目名() 主担当教員名()
 ☆育成する力 □地域力科目 □企業力科目 □汎用力科目 (いずれかにチェックを入れてください)
 ※チェック欄は6か所あります。

		授業形式		教室内的での教員の講義中心とした授業		教室内的での、受講生との双方向性(アクティブ・ラーニング的要素)を導入している授業・外部講師による授業 ※インターンシップやフィールドワークは実施しない。		地域・企業におけるフィールドワークやインターンシップ等、地域・企業と連携した授業	
				全てのコマで教員の講義・説明の授業	知識の定着の促進や確認のためのレポートや演習等を適宜行う授業	受講者が行う情報収集や受講生との質疑応答、複数回のレポートや課題、個人個人の報告や発表等を取り入れた授業	受講者が行う情報収集やグループワーク(報告や発表等含む)を取り入れた授業	地域や企業の実態を見聞きたり、体験したりする機会が得られ、グループワークや報告・発表等を取り入れた授業	
基盤教養科目 (大分を創る科目)	地域力育成科目	☐	レベル1 大分県の地域課題(教育・福祉・医療・科学・文化・防災等)や特色ある産業、観光資源、社会政策・制度について説明できる	☐	☐	☐	☐	☐	
	企業力育成科目	☐	レベル1 企業の組織やしきみ、特色、価値、行動、製品開発等を説明できる	☐	☐	☐	☐	☐	
	汎用力育成科目	☐	レベル2 地域の取組の多様な資料から、テーマに沿った課題解決の方策について提案することができる	☐	☐	☐	☐	☐	
	企業力育成科目	☐	レベル2 企業の取組の多様な資料から、テーマに沿った課題解決の方策について提案することができる	☐	☐	☐	☐	☐	
	汎用力育成科目	☐	※企業力育成、地域力育成に該当しない科目	☐	☐	☐	☐	☐	

		チェック欄	各「基礎力」毎に適切なレベルを1つ選んで、その欄にチェック(☑)してください。※適切な内容がない場合は不要です。
<汎用力> 観点レベル	対課題基礎力	☐	レベル① 必要な情報を収集できる。
		☐	レベル② 適切な手段を使って多様な情報を収集して、必要な情報を選択して活用することができる。
		☐	レベル③ 多様な情報分析から課題や特色を発見して、課題解決の計画を提案することができる。
	対人基礎力	☐	レベル① 自分の考えを、相手に分かりやすく説明できる。
		☐	レベル② 他者の考えを受け入れ、自分の考えを相手に受け入れられるような説明ができる。
		☐	レベル③ 組織や集団の一員として、他者の考えを受け入れて、自分の考えを他者に受け入れられる建設的な議論をすることができる。
	対自己基礎力	☐	レベル① 自分の役割を認識して取り組むことができる。
		☐	レベル② 自分の考えを基にして、その取組を他者が認めてくれるような取組ができる。
		☐	レベル③ 組織や社会の一員として、必要に応じた適切な修正や新しい発想を取り入れるなどして持続的な取組ができる。

平成29年度 「大分を創る科目」を「育成する力」と「授業方法」から見る授業一覧表

授業形式		教室内的の教員の講義中心とした授業		教室内的の、受講生との双方向性(アクティブ・ラーニング的要素)を導入している授業・外部講師による授業 ※インターンシップやフィールドワークは実施しない。		地域・企業におけるフィールドワークやインターンシップ等、地域・企業と連携した授業	
		全てのコマで教員の講義・説明の授業	知識の定着の促進や確認のためのレポートや演習等を適宜行う授業	受講者が行う情報収集や受講生との質疑応答、複数回のレポートや課題、個人個人の報告や発表等を取り入れた授業	受講者が行う情報収集やグループワーク(報告や発表等含む)を取り入れた授業	地域や企業の実態を見聞きたり、体験したりする機会が得られ、グループワークや報告・発表等を取り入れた授業	
基盤教育科目 (大分を創る科目)	地域力育成科目	レベル1 大分県の地域課題(教育・福祉・医療・科学・文化・防災等)や特色ある産業、観光資源、社会政策・制度について説明できる	建築環境計画 世界・日本・大分の農業経済論 子どもにとっての福祉とは: 社会的養護と家族支援 建築入門 大分美術史概論 前近代日本の国家と社会 建築構造工学 大分県の歴史 I 大分県の歴史 II	福祉専門職の来し方 運動器疾患と治療・予防 地域社会へのまなざし 医学史のプロムナード 食と農の地理学	大分の地域資源(前期) 大分の人と学問 大分の地域資源(後期) 自然災害と防災の科学 地生態学 健康科学概論(医学部医学科) 健康科学概論(医学部看護学科)	プロジェクト型学習入門1 ～インターンシップセミナーB～ 大分の水 II 早期体験実習	
		レベル2 地域の取組の多様な資料から、テーマに沿った課題解決の方策について提案することができる	障がい者福祉入門 交通からみた地域社会	子育て支援の地理学 農村発展論 II 地域における仕事と社会	プロジェクト型学習入門2 ～インターンシップセミナーB～ 地域の教育課題	大分の水 I 農村再生セミナー	
	企業力育成科目	レベル1 企業の組織やしぐみ、特色、価値、行動、製品開発等を説明できる	経済統計を読む 企業の価格戦略と消費者の行動 簿記の基礎 企業経営と会計 会社法入門 消費者と企業 知的財産入門	日本のマネジメント 会社組織のしぐみ	男女共同参画入門	中小企業の魅力の発見と発信	
		レベル2 企業の取組の多様な資料から、テーマに沿った課題解決の方策について提案することができる		職業とキャリア開発 革新的企業経営	インストラクショナルデザイン入門		
	汎用力育成科目	※企業力育成、地域力育成に該当しない科目	スポーツと生活 日本の環境政策 日本文化論(前期) 日本文化論(後期) 機械の世界 機械と文明	コンピュータ科学入門 共生社会論 心理学を知る 古典文学講読 国文学作品研究 西洋思想の源流 バロック音楽の世界 数学と文化 エレクトロニクスの世界 I 微分法と数学 情報科学の世界 くらしの化学 身近な物理学 数学の世界 基礎ゼミ(特別支援教育コース) 基礎理工学入門 医療情報学	キャリアプランと就職力の向上 福祉テクノロジー入門 水彩画の魅力 イギリス近代史 日本国憲法(青野) 基礎ゼミ(小学校教育コース) 導入セミナー 医療情報システム学 情報科学	木材加工の技術 人類の知的遺産と向き合う 初年次地域キャリアデザインワークショップ 学習意欲の心理学 創造的思考法 国際健康コンシェルジュ養成講座 文章構成法 日本国憲法(橋本・前期) 日本国憲法(橋本・後期) 環境の化学 機械技術概論 基礎ゼミ(理学療法コース) 基礎ゼミ(社会福祉実践コース) 基礎ゼミ(心理学コース)	カタリバでキャリアを拓く 学習ボランティア入門 初等教育のためのものづくり

アクティブラーニングの視点に基づいた授業のガイドライン

大分大学では、読解、作文、発表、討論、問題解決、創造などの学生の活動への関与があり、それらで生じる認知プロセスの外化を伴っている授業を、アクティブラーニングの視点にもとづいた授業とします。学生が自ら計画して学修に取り組み、省察して次の学びにつなげていく過程を実現する「主体的な学び」、他者との協働や外界との相互作用を通じて考えを発展させる「対話的な学び」、学んだ知識を活かして問題発見・解決や創造を行う「深い学び」の視点から、授業やカリキュラムを改善することを推奨します。アクティブラーニングの視点にもとづいた授業で行われる学修は、主に以下の4つの組み合わせとします。

1. 知識の定着・確認

1. 知識の定着・確認

知識の定着およびそれらを確認する、主に個の学修

2. 意見の表現・交換

2. 意見の表現・交換

知識や意見等を表現し、発表したり交換したりする他者との協働や相互作用のある学修

3. 応用志向

3. 応用志向

知識やスキルを現実で起こりそうな状況に応用したり、問題発見・解決したりする、主に教室等内での学修

4. 知識の活用・創造

4. 知識の活用・創造

知識やスキルを現場等で活用し省察する学修や、創造的な学修

アクティブラーニングに関する参考資料 Ver. 1.00

アクティブラーニングについて、高等教育開発センターで作成している参考資料です。今後実施予定のアクティブラーニングの実施状況調査の結果にもとづいて、改訂を行います。

タイプ	タイプの説明	アクティブラーニングの形態	方式や例	備考
(1) 知識の定着・確認	知識の定着およびそれらを確認する、主に個の学修	レスポンスアナライザー	クリッカー	
		小テスト、演習、実技		
		知識の定着・確認を図るレポート、知識の定着・確認を図るライティング		表現志向のものは(2)
		時間外学修	予習(反転学修を含む)、復習、宿題	
		振り返り(省察)体験、実験、観察	振り返りシート、大福帳、コメントシート 手順通りの実験・実習、体験活動、見学、実体験を伴わない学生の過去の体験との紐付け	
		調査	調べ学修(文献、インターネット)	
(2) 意見の表現・交換	知識や意見等を表現し、発表したり交換したりする他者との協働や相互作用のある学修	発表	プレゼンテーション、パネルディスカッション	
		話し合い	ディスカッション、ブレインストーミング、ラウンドロビン、バズグループ、シンクペアシェア、ワールドカフェ、ディベート、マイクロディベート	
		教え合い	ジグソー、知識構成型ジグソー法、LTD(Learning Through Discussion)、相互教授(ピアインストラクション)	問題解決が含まれる場合は(3)
		図解	コンセプトマップ	
		文章作成	表現志向のレポート、表現志向のライティング、共同的執筆、ピアレスポンス	知識の定着・確認を図るものは(1)
		相互評価(ピアレビュー)		
(3) 応用志向	知識やスキルを現実で起こりそうな状況に応用したり、問題発見・解決したりする、主に教室等内での学修	問題基盤学修(Problem-Based)		
		シミュレーションゲーム		シナリオベース
		ロールプレイ、演劇		
		仮説の検証や探索を伴う実験		
		ケースメソッド	シナリオ・事例研究、事例設定型教授(Case-Based)	学修者主体のもの
		チーム基盤型学修(Team-Based)		
(4) 知識の活用・創造	知識やスキルを現場等で活用し省察する学修や、創造的な学修	プロジェクト学修(Project-Based)		
		実習	教育実習	
		臨床実習		
		創成学修、芸術創作、設計、デザイン、意匠	ものづくり実習	
		観測		
		フィールドワーク	聞き取り調査、アンケート調査	受動的な見学や体験活動は(1)
		インターンシップ		省察を伴う
サービスラーニング		省察を伴う		
		研究、論文作成	卒業論文、修士論文	

注1) 1つの教育活動に対して、上記の複数の分類や方法が組み合わされて用いられることがある。また、1つの形式にその他の形式が含まれる場合もある。

平成28年度・29年度開講の「大分を創る科目」一覧表

※：アクティブラーニングの科目

(新)主題	(旧)主題	授業科目名	学期	担当教員名	分野等	大分を創る科目		出動部局	平成28年度	受講者数	平成29年度	受講者数
						開講			開講			
1	①	I	中小企業の魅力の発見と発信	前 岡田 正彦(高教)	総合	1	企業力	高等教育開発センター	4	19	4	4
2	①	I	男女共同参画入門	後 松浦・大下(医)	総合	2	企業力	男女共同参画推進室	3	64	3	26
3	①	I	職業とキャリア開発	後 望月 聡(副学長)他	総合		企業力	教育支援課	0	197	2	193
4	②	X	インスタラショナルデザイン入門	後 鈴木 雄清(高教)	総合	2	企業力	高等教育開発センター	3	27	3	23
5	④	IV	企業と労働	前 幸 光善(経)	社会		企業力	経済学部	0	80	-	-
6	④	IV	日本経済入門	前 村山 悠(経)	社会		企業力	経済学部	0	140	-	-
7	④	IV	人間・労働と技術の現代史	前 藤原 直樹(経)	社会		企業力	経済学部	0	91	-	-
8	④	IV	経営学の基礎	前 仲本 大輔(経)	社会		企業力	経済学部	0	199	-	-
9	④	IV	経済学を学ぶ	前 高見 博之(経)	社会		企業力	経済学部	0	146	-	-
10	④	IV	経済統計を読む	前 西村 善博(経)	社会		企業力	経済学部	-	-	1	44
11	④	IV	企業の価格戦略と消費者の行動	前 宇野 真人(経)	社会		企業力	経済学部	-	-	1	198
12	④	III	日本のマネジメント	前 宮下 清(経)	社会		企業力	経済学部	-	-	2	39
13	④	IV	革新的企業経営	前 松岡 輝美(経)	社会		企業力	経済学部	-	-	2	67
14	④	IV	会社組織のしくみ	前 本谷 るり(経)	社会		企業力	経済学部	-	-	2	195
15	④	IV	企業会計の基礎	後 大崎 美泉(経)	社会		企業力	経済学部	0	82	-	-
16	④	IV	企業ファイナンス入門	後 鶴崎 清貴(経)	社会		企業力	経済学部	0	62	-	-
17	④	IV	経済学で物事をみる	後 相浦 洋志(経)	社会		企業力	経済学部	0	195	-	-
18	④	IV	事業創成入門	後 河野 憲嗣(経)	社会	2	企業力	経済学部	3	25	-	-
19	④	IV	簿記の基礎	後 小野 慎一郎(経)	社会		企業力	経済学部	0	158	1	137
20	④	IV	企業経営と会計	後 加藤 典生(経)	社会		企業力	経済学部	-	-	1	66
21	④	IV	会社法入門	後 牧 真理子(経)	社会		企業力	経済学部	-	-	1	122
22	④	IV	消費者と企業	後 松隈 久昭(経)	社会		企業力	経済学部	-	-	1	74
23	④	IV	知的財産入門	後 富畑 賢司(産学連携推進)	総合		企業力	COC+	2	25	1	46
24	①	I	プロジェクト型学習入門1 ～インターンシップセミナーB～	前 岡田(高教)・市原(経) 他	総合	1	地域力	経済学部	3	22	4	9
25	①	I	プロジェクト型学習入門2 ～インターンシップセミナーB～	後 岡田(高教)・市原(経) 他	総合	2	地域力	高等教育開発センター	3	7	3	11
26	②	III	地域の住まい論	前 川田 菜穂子(教)	総合	1	地域力	教育学部	3	40	-	-
27	②	IX	地域と情報	前 藤井 弘也(教)	自然		地域力	教育学部	0	104	-	-
28	②	III	少子高齢化と地域福祉社会	前 奥田 恵昭(経・非)	社会		地域力	経済学部	0	182	-	-
29	②	VII	高齢者の身体機能と疾病の特徴	前 片岡・朝井・兒玉・浅海・田中(福)	総合		地域力	福祉健康科学部	2	98	-	-
30	②	VI	建築環境計画	前 大鶴・真鍋・鈴木・小林・富来・姫野(理工)	自然		地域力	理工学部	3	22	1	26
31	②	IX	大分の水 I	前 市原・前田・本谷・大上(経) 岡田(高教)	総合	2	地域力	教育学部	4	48	4	42
32	②	IX	大分の地域資源	前 鈴木 雄清(高教)	社会	1	地域力	高等教育開発センター	3	130	3	125
33	②	VIII	大分県の歴史 I	前 吉永 浩二(非)	人文		地域力	教育支援課	0	200	1	200
34	②	IX	農村再生セミナー (H29新規科目)	前 山浦 陽一(経)	社会	2	地域力	経済学部	-	-	4	0
35	②	III	子育て支援の地理学	前 久木元 美琴(経)	社会		地域力	経済学部	-	-	2	141
36	②	IX	世界・日本・大分の農業経済論	前 山浦 陽一(経)	社会		地域力	経済学部	-	-	1	127
37	②	VII	福祉専門職の来し方	前 工藤 修一(福)	総合		地域力	福祉健康科学部	-	-	2	99
38	②	VII	障がい者福祉入門	前 廣野 俊輔(福)	社会		地域力	福祉健康科学部	-	-	1	122
39	②	VIII	子どもにとっての福祉とは： 社会的養護と家族支援 (H29新規科目)	前 相澤 仁(福)	社会		地域力	福祉健康科学部	-	-	1	96
40	②		田舎で輝き隊！ (H28のみ)	後 松隈 久昭(経)	総合	2	地域力	経済学部	4	2	-	-
41	②	IX	大分の水 II	後 市原・前田・本谷・大上(経) 岡田(高教)	総合	1	地域力	経済学部	4	46	4	46
42	②	I	大分の人と学問	後 望月 聡(副学長)他	総合	1	地域力	高等教育開発センター	3	28	3	56
43	②	IX	大分の地域資源	後 鈴木 雄清(高教)	社会	1	地域力	高等教育開発センター	3	30	3	27
44	②	VIII	大分県の歴史 II	後 吉永 浩二(非)	人文		地域力	教育支援課	0	194	1	198
45	②	VII	運動器疾患と治療・予防	後 片岡 晶志(福)、戸澤 興治(非)	総合		地域力	福祉健康科学部	2	158	2	86
46	⑤	VI	建築入門	後 菊池・大鶴・真鍋・鈴木・大谷・小林・富来・田中・姫野	自然		地域力	理工学部	-	-	1	28
47	②		農村発展論 II (H29新規科目)	後 山浦 陽一(経)	社会		地域力	経済学部	-	-	2	7
48	②	I	地域における仕事と社会 (H29新規科目)	後 石井 まこと(経)	社会		地域力	経済学部	-	-	2	78
49	②	IX	交通からみた地域社会	後 大井 尚司(経)	社会		地域力	経済学部	-	-	1	44
50	②	VIII	地域社会へのまなざし	後 高島 拓哉(経)	総合		地域力	経済学部	-	-	2	127

(新)主題	(旧)主題	授業科目名	学期	担当教員名	分野等	大分を創る科目	出動部局	平成28年度開講	受講者数	平成29年度開講	受講者数	
51	③	II	大分美術史概論	前 田中 修二(教)	人文		地域力	教育学部	-	-	1	29
52	③	VIII	医学史のプロムナード	前 甘利 弘樹(教)	人文		地域力	教育学部	-	-	2	3
53	③	III	前近代日本の国家と社会	後 八木 直樹(福)	人文		地域力	福祉健康科学部	0	158	1	121
54	④	IV	食と農の地理学	前 大呂 興平(経)	社会		地域力	経済学部	-	-	2	47
55	⑤	VI	建築構造工学	前 菊池・大谷・田中(理工)	自然		地域力	理工学部	0	154	1	94
56	⑤	IX	自然災害と防災の科学	前 小山 拓志(教)	総合	1	地域力	教育学部	3	29	3	50
57	⑤	V	地生態学	後 小山 拓志(教)	自然	1	地域力	教育学部	-	-	3	45
58	①	VI	コンピュータ科学入門	前 中島・古家・高見・大竹・原・行天・賀川・佐藤(理工)	自然		汎用力	理工学部	0	136	1	91
59	①	I	スポーツと生活	前 前田 寛・岡内 優明(理工)	社会		汎用力	理工学部	0	198	0	198
60	①	I	『読むこと』と自己開拓	後 花坂 歩(教)	人文		汎用力	教育学部	2	57	-	-
61	①	VI	木材加工の技術	後 中原 久志(教)、市原 清士(教)	自然	3	汎用力	教育学部	3	10	3	10
62	①	I	カタリバでキャリアを拓く	後 宮町 良広(経)	総合	3	汎用力	経済学部	4	41	4	31
63	①	I	学習ボランティア入門	後 岡田 正彦(高教)	総合	2	汎用力	高等教育開発センター	4	15	4	8
64	①	X	人類の知的遺産と向き合う	後 牧野 治敏(高教)	総合	2	汎用力	高等教育開発センター	3	20	3	16
65	①	I	初年次地域キャリアデザインワーク ショップ (H29新規科目)	後 牧野 治敏(高教)	総合	3	汎用力	高等教育開発センター	-	-	3	15
66	①		キャリアプランと就職力の向上 (H29新規科目)	後 望月 聡(副学長)他	総合		汎用力	教育支援課	-	-	2	60
67	②	I	学習意欲の心理学	後 鈴木 雄清(高教)	総合	1	汎用力	高等教育開発センター	3	128	3	127
68	②	VIII	学びと生活の探求	前 永田 誠(教)	社会		汎用力	教育学部	2	26	-	-
69	②	III	共生社会論	前 八木 直樹(福)	人文		汎用力	福祉健康科学部	0	124	1	135
70	②	VII	福祉テクノロジー入門	前 池内 秀隆(理工)	総合		汎用力	理工学部	2	2	2	24
71	②	X	創造的思考法	前 鈴木 雄清(高教)	総合	2	汎用力	高等教育開発センター	3	66	3	59
72	②	VIII	心理学を知る (H29新規科目)	前 藤田 敦(教)	社会		汎用力	教育学部	-	-	1	199
73	②	VIII	市民参加と現代社会	後 豊島 慎一郎(経)	総合		汎用力	教育学部	0	68	-	-
74	②	VIII	現代社会と心理学	後 武内・池永・古城・渡辺・溝口・岩野(福)	人文		汎用力	福祉健康科学部	2	190	-	-
75	②	VIII	保育学基礎論	後 大野 歩(教)	社会	2	汎用力	教育学部	3	39	-	-
76	②	IX	日本の環境政策	後 城井 堅(理工・非)	総合		汎用力	理工学部	0	118	0	110
77	③	VIII	東アジア史の諸相	前 甘利 弘樹(教)	人文	2	汎用力	教育学部	3	35	-	-
78	③	II	日本文化論	前 大久保 渡(理工・非)	人文		汎用力	理工学部	0	103	0	117
79	③	VIII	国際健康コンシェルジュ養成講座	前 穴井(医)、工藤(保健管理センター)、大下(医)、包(経)	総合	1	汎用力	COC+	0	26	3	24
80	③	II	古典文学講読	前 田畑 千秋(教)	人文		汎用力	教育学部	-	-	1	34
81	③	II	水彩画の魅力	前 藤井 康子(教)	人文		汎用力	教育学部	-	-	2	36
82	③	II	イギリス近代史	前 青柳 かおり(教)	人文		汎用力	教育学部	-	-	2	14
83	③	II	国文学作品研究	前 藤原 耕作(教)	人文		汎用力	教育学部	-	-	1	21
84	③	II	文章構成法	前 堀 泰樹(教)	人文	2	汎用力	教育学部	-	-	3	26
85	③	II	手作り絵本の楽しみ	後 廣瀬 剛(教)	人文		汎用力	教育学部	2	15	-	-
86	③	II	日本文化論	後 大久保 渡(理工・非)	人文		汎用力	理工学部	0	84	0	53
87	③	I	西洋思想の源流	後 黒川 勲(教)	人文		汎用力	教育学部	0	217	1	131
88	③	VI	初等教育のためのものづくり	後 市原(教)・中原(教)	自然	2	汎用力	教育学部	4	13	4	0
89	③	II	バロック音楽の世界	後 松田 聡(教)	人文		汎用力	教育学部	2	50	1	50
90	④	III	社会調査の基礎	前 長谷川 祐介(教)	社会		汎用力	教育学部	2	68	-	-
91	④	III	日本国憲法	前 橋本 聖美(教・非)	社会	1	汎用力	教育学部	0	147	3	147
92	④	VIII	現代国際政治と日本	後 鄭 敬敏(教)	社会		汎用力	教育学部	2	34	-	-
93	④	III	現代社会と法	後 秋山 智恵子(経)	社会	2	汎用力	教育学部	3	30	-	-
94	④	III	子どものこころの育ち	後 田中 洋(教)	人文		汎用力	教育学部	0	198	-	-
95	④	III	Education of the World in Comparative Perspective	後 鈴木 篤(教)	社会		汎用力	教育学部	2	35	-	-
96	④	III	日本国憲法	後 青野 篤(経)	社会		汎用力	経済学部	2	197	2	219
97	④	III	日本国憲法	後 橋本 聖美(教・非)	社会	1	汎用力	教育学部	0	45	3	122
98	⑤	V	現代天文学と生命	前 仲野 誠(教)	自然		汎用力	教育学部	2	132	-	-
99	⑤	V	抽象化と代数学	前 馬場 清(教)	自然		汎用力	教育学部	0	84	-	-
100	⑤	V	数学と文化	前 中川 裕之(教)	自然		汎用力	教育学部	2	88	1	68

(新)主題	(旧)主題	授 業 科 目 名	学 期	担当教員名	分野等	大分を創る科目	出動部局	平成28年度開講	受講者数	平成29年度開講	受講者数	
101	⑤	VI	エレクトロニクスの世界 I	前	益子・古賀・工藤 (理工)	自然	汎用力	理工学部	0	17	1	3
102	⑤	IX	環境の化学	前	石川 雄一、大賀 恭 (理工)	総合	1 汎用力	理工学部	0	136	3	34
103	⑤	VI	機械技術概論	前	福永 圭悟 (理工・非)	自然	3 汎用力	理工学部	3	28	3	18
104	⑤	V	微分法と数学	前	大野 貴雄 (教)	自然	汎用力	教育学部	-	-	1	37
105	⑤	VI	クルマと社会の関わり	後	島田 和典 (教)	自然	汎用力	教育学部	0	62	-	-
106	⑤	V	数学入門	後	大隈 ひとみ (教)	自然	汎用力	教育学部	0	68	-	-
107	⑤	V	生命科学と社会	後	高濱 秀樹 (教)	総合	汎用力	教育学部	0	42	-	-
108	⑤	VI	機械の世界	後	木下 和久 (理工・非)	自然	汎用力	理工学部	0	39	0	18
109	⑤	VI	機械と文明	後	木下 和久 (理工・非)	自然	汎用力	理工学部	0	12	0	9
110	⑤	VI	情報科学の世界	後	中島・古家・高見・大竹・原・行天・賀川・佐藤 (理工)	自然	汎用力	理工学部	0	83	1	88
111	⑤	VI	くらしの化学	後	氏家誠司、甲斐徳久 (理工)	自然	汎用力	理工学部	0	61	1	30
112	⑤	V	身近な物理学	後	藤井 弘也 (教)	自然	汎用力	教育学部	0	247	1	146
113	⑤	V	数学の世界	後	川崙 道広 (教)	自然	汎用力	教育学部	-	-	1	20

(学部独自科目)

114	①	-	基礎ゼミ (小学校教育コース)	前	1年生クラス担当教員	-	汎用力	教育学部	2	133	2	133
115	①	-	基礎ゼミ (特別支援教育コース)	前	古賀・衛藤・藤野	-	汎用力	教育学部	0	10	1	11
116	②	-	地域の教育課題 (H29新規科目)	前	各コース担当教員	-	2 地域力	教育学部	-	-	3	143
117	①	-	基礎演習 I (~H28)	前	経済学部教員	-	2 汎用力	経済学部	3	297	-	-
118	①	-	導入セミナー (H29新規科目)	前	経済学部教員	-	汎用力	経済学部	-	-	2	293
119	①	IV	基礎理工学入門 (H29新規科目)	前	橋本、中江、柴田、緑川、松尾、田中、姫野、中島、長屋、仲野、芝原、末谷、西垣、泉、永野、近藤 (理工)	自然	汎用力	理工学部	-	-	1	395
120	②	-	早期体験実習	前	北野 敬明 他 (医)	-	1 地域力	医学部	4	100	4	102
121	②	-	健康科学概論 (医学科)	前	中川 幹子 (医)	-	1 地域力	医学部	3	100	3	102
122	①	-	医療情報システム学	前	谷川 雅人・岩城 貴史 (医)	-	汎用力	医学部	3	97	2	101
123	②	-	健康科学概論 (看護学科)	前	中川 幹子 (医)	-	1 地域力	医学部	3	71	3	69
124	①	-	情報科学	前	谷川 雅人・岩城 貴史 (医)	-	汎用力	医学部	0	69	2	65
125	①	-	医療情報学	後	岩城 貴史 (医)	-	汎用力	医学部	0	98	1	104
126	①	-	基礎ゼミ (理学療法コース)	前	福祉健康科学部教員	-	1 汎用力	福祉健康科学部	3	31	3	32
127	①	-	基礎ゼミ (社会福祉実践コース)	前	福祉健康科学部教員	-	1 汎用力	福祉健康科学部	3	35	3	38
128	①	-	基礎ゼミ (心理学コース)	前	福祉健康科学部教員	-	1 汎用力	福祉健康科学部	3	35	3	37

大分大学学部専門科目での地域創生人材を育成する構想

大分大学「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」については、申請時点での計画では、教養教育における「大分を創る人材を育成する科目」により地域創生人材を育成するという計画でしたが、本学の重要なミッションの一つとして掲げている地域に貢献する大学としての位置づけをふまえて、その取組について、教養教育を含む全学の教育活動としての組織化を構想することが必要と考えます。

については以下の観点から、大学教育全体としての地域貢献に資する取組を推進するための体制を検討したいと考えています。

I 大分を創る人材を育成する科目の構成について

①教養教育における科目

- 「大分を創る科目」（基盤教養科目）
- 「大分を創るトップアップ科目」（高度化教養科目）

②学部専門科目における「地域創生人材の育成に有効な科目」

II 学部専門科目における地域創生人材の育成に有効な科目として位置付ける趣旨について

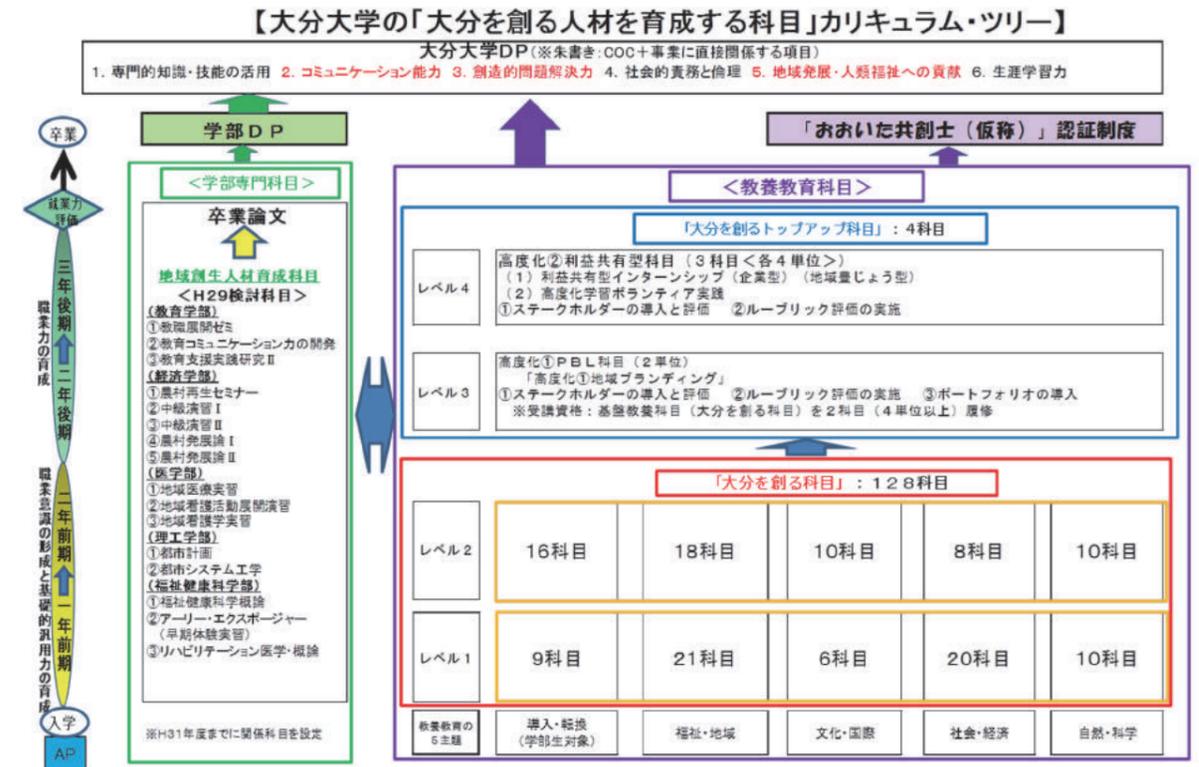
教養教育における「大分を創る人材の育成」という、地域創生人材育成のための基盤の上に、以下の趣旨で学部専門科目を位置付けることが必要と考えています。

1. 地域創生人材を育成する教育について

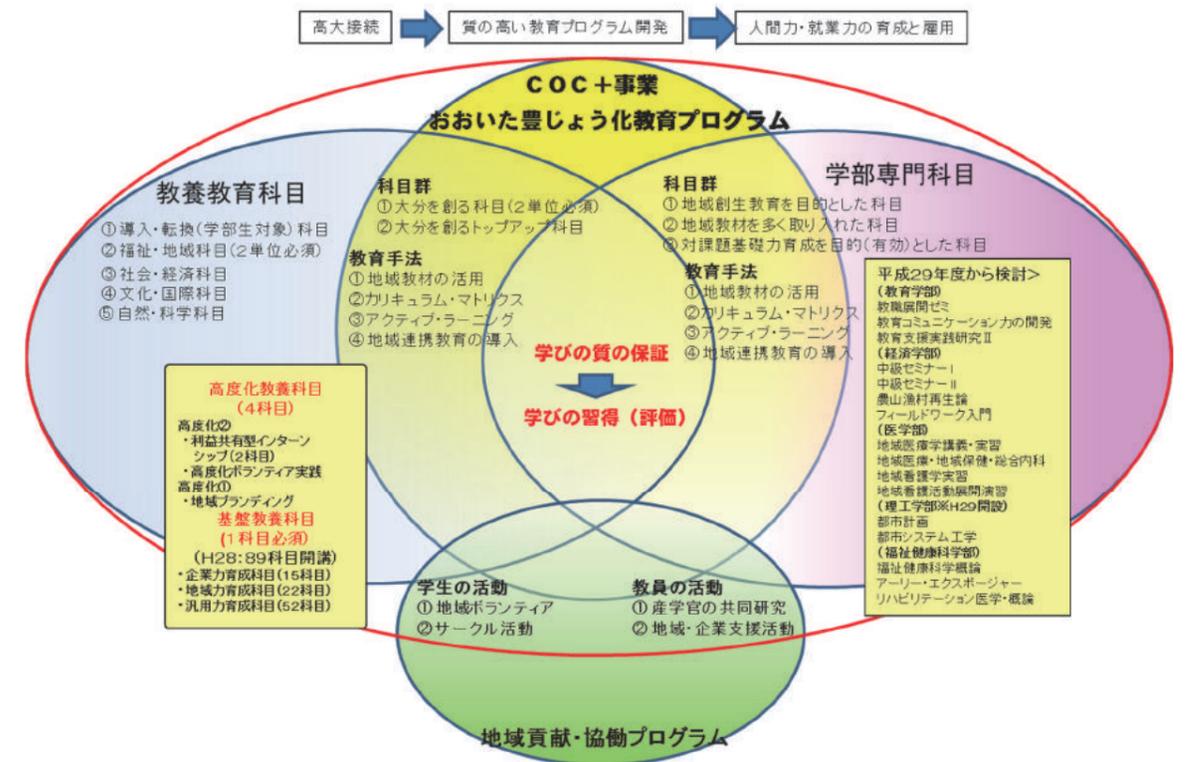
地域創生人材を育成する教育については、社会人としての汎用基礎力を備え、グローバルな視野を持って専門性を生かして地域活性化に実践的に関与し、地域ビジョンの作成、地域課題の解決に貢献できるイノベーター人材の育成を目指した教育と考えたいと思います。

2. 学生は学部を卒業して社会人となります。その学部教育において「地域創生を担う人材の育成」を行っているという状況を確認することは、各学部の専門性を持って地域創生に関わるという意味で、学部の意義を広く周知できるというメリットがあります。

3. 大分を創る人材を育成する為には、教養教育で学ぶ基礎的な知識や能力、意欲や関心をベースとして、地域創生人材の育成を目指す学部で学ぶ専門教育によって、企業や地域社会が求める企業力や地域豊じょう化力を育成するための教育が求められます。言い換えれば、汎用力に優れ主体的に物事に取り組める人材、地域・企業における課題解決を積極的に主導できる人材、地域・企業に新しい価値をもたらす人材、革新者として挑戦を恐れない人材、さらに、大きなビジョンや目標の実現にまい進している仲間を支援(=奉仕)するサーバントリーダー人材などの育成が求められます。大学全体としてそうした教育を推進し、「地域を牽引し、時代を切り開く地域リーダー人材（イノベーター）」を輩出していることを社会に対して説明することが求められます。



大分大学教育改革プログラム（～大分を創る人材の育成の観点から～） ①AP/CP/DP ②授業改革



学部専門科目の検討科目の検討結果の整理表

		総合した育成する人材像(到達目標)		学部検討科目に共通した人材像(到達目標)	
学部毎の専門科目における地域創生人材の育成像	教育学部	企業力・地域力に関する専門力	①学校という職場における教育活動や課題等を理解・分析して対応することができる。 ②大分地域での実践を通じて自分自身の教職への意欲や能力を身に付ける。	①教員の仕事など、学校現場の実態を知る。 ②現場体験や各種資料から様々な実態を知り、指導能力を身に付ける。	
		汎用力	①自分の考えを、相手に分かりやすく説明できる。 ②学校教育に関する様々な資料を収集できる。 ③他者とのコミュニケーションを取りながら関わることができる。 ④積極的に討議等に参加し、より良いものを創ることができる。 ⑤教職という職業への自覚を持つことができる。	①対人関係を創るコミュニケーション力を身に付ける。 ②教職への想いを持つ。	
	経済学部	企業力・地域力に関する専門力	①専門分野の特徴を理解する。 ②専門分野の発展のための新しい取り組みを理解する。 ③大分地域での専門分野の実践を通して実態や課題、解決策や必要な支援についての理解を深める。 ④専門分野の実践を通して、課題解決のための新しい取組の提案と実践をおこなう。 ⑤地域と共に地域創生の長期的な企画を作成する。	①必要な専門的な情報を収集して、専門的事項を習得する。 ②地域社会の実態や課題を知り、必要な解決策を提案する。	
		汎用力	①専門的職業への興味関心を持つ。 ②他者とコミュニケーションを取りながら主体的に活動できる。	①専門分野への想いを持つ。 ②専門分野の方との深いコミュニケーション力を身に付ける。	
	医学部	企業力・地域力に関する専門力	①医療や看護に関する専門的な知識や技術を習得できる。 ②大分地域の医療や看護に関する概況と現状を知ることができる。 ③実践を通して大分地域の医療や看護に関する課題や地域医療に求められるものを理解できる。 ④専門分野における課題等に対応できる技能を習得する。	①医療や看護に関する現状を理解する。 ②医療や看護に関する基本的な事項を習得する。 ③地域医療や看護に求められる専門的な知識や技術を幅広く理解し、習得できる。	
		汎用力	①医療や看護に関する資料を収集して、自分の考えをまとめることができる。 ②患者、医療スタッフ、地域住民とコミュニケーションを取りながら関わることができる。	①医療や看護に関する資料収集を経て、自分の考えをまとめる。 ②対人関係を創るコミュニケーション力を身に付ける。	
	理工学部	企業力・地域力に関する専門力	①専門分野に関するデータや資料を理解し、活用できる。 ②専門分野に関するデータや資料を解析できる。 ③専門分野に関するデータや資料を解析してテーマに関する課題の理解と、対応の方法を提案できる。	①専門分野に関する様々なデータや情報、資料を収集する。 ②専門分野に関する必要な知識を習得する。 ③専門的な機器やシステムを活用する。	
		汎用力	①専門分野に関する資料を収集できる。 ②データ等から分かったことなどを相手に分かりやすく説明できる。	①対人関係を創るコミュニケーション力を身に付ける。	
	福祉健康科学部	企業力・地域力に関する専門力	①専門分野に関する必要な知識を習得できる。 ②専門職の役割を説明できる。 ③専門分野に関する現状と課題、解決策を考えて説明できる。	①専門分野における必要な知識を習得する。 ②専門分野に関する理解、意欲を持つ。	
		汎用力	①当事者の立場で考えることができる。 ②専門性を学ぶための意欲と態度を身に付ける。	①対人関係を創るコミュニケーション力を身に付ける。	

学部専門科目の地域創生人材育成に関する教育内容の科目のカリキュラムマトリクス

学修の基準		地域創生力レベル③		地域創生力レベル②		地域創生力レベル①	
参考:教養教育	企業力	企業の取組に参加して経済の動きと企業の経営戦略等を体験して課題を指摘し、企業自体の魅力発信や提供する商品・サービス企画を立案・提案することができる。⑥⑦⑧	企業の取組の多様な資料から、企業の課題について自分なりの解決策を提案することができる。④⑤	企業の取組の多様な資料から、地域の課題について自分なりの解決策を提案することができる。⑩⑪⑫⑬	企業の組織やしぐみ、特色、価値、行動、製品開発等を説明できる。①②③		
	地域力	地域の取組に参加して地域のまちづくりや特色ある産業を体験して課題を指摘し、地域の魅力発信や地域で取り組む企画を立案・提案することができる。⑭⑮	地域の取組の多様な資料から、地域の課題について自分なりの解決策を提案することができる。⑩⑪⑫⑬	専門分野における技術や能力を習得して、体験や資料を基にして地域や職場の課題について対応する自分なりの提案(レポート等を含む)ができる。	大分県の地域課題(教育・福祉・医療・科学・文化・防災等)や特色ある産業、観光資源、社会政策・制度について説明できる。⑩⑪⑫		
地域創生力	専門力	参加体験をとおして、専門分野の知識や技能を使って地域や職場の課題や有効な方策を検討・指摘して、それに対応する知識や技術を基にした提案(レポートやグループワークでの企画提案)ができ、他の科目や職場体験等に生かすことができる。	専門分野における技術や能力を習得して、体験や資料を基にして地域や職場の課題について対応する自分なりの提案(レポート等を含む)ができる。	専門分野における技術や能力を習得して、体験や資料を基にして地域や職場の課題について対応する自分なりの提案(レポート等を含む)ができる。	専門分野における技術の取得や資料を基にした地域や職場の現状を説明できる。		
	科目名	<経済>「農村再生セミナー」「中級演習Ⅰ」「中級演習Ⅱ」 <医学>「地域看護活動展開演習」 <福祉>「福祉健康科学概論」	<教育>「教育コミュニケーション力の開発」「教育支援実践研究Ⅱ」 「教職展開ゼミ」 <経済>「農村発展論Ⅰ」「農村発展論Ⅱ」 <医学>「地域看護学実習」「地域医療実習」 <理工>「都市計画」「都市システム工学」 <福祉>「アーリー・エクスポージャー(早期体験実習)」 「リハビリテーション医学・概論」				

学修の基準		汎用力レベル③		汎用力レベル②		汎用力レベル①	
汎用力	対課題基礎力 必要な情報を入手し、その情報をもとに、目標を設定し、その目標を達成するための多様な要素を整理して組み立てて、計画を立て、その計画をもとに実際の活動ができるスキル	必要で多様な情報分析から課題や特色を指摘して、課題解決の方策を提案することができる。⑰⑱ <教育>「教育コミュニケーション力の開発」 <経済>「中級演習Ⅰ」「中級演習Ⅱ」 <医>「地域看護活動展開演習」	適切な手段を使って多様な情報を収集し、必要な情報を選択して活用して、自分なりの解決の目標を設定することができる。⑰⑱ <教育>「教職展開ゼミ」 <医>「地域医療実習」	必要な情報を収集できる。⑰			
	対人基礎力 仕事を他者とうまくやって、仕事で成果をあげ、それを継続していくための、よりよい人的関係を創りあげていくためのスキル	組織や集団の一員として、他者の考えを受け入れて、自分の考えを他者に受け入れられる建設的な議論をすることができる。⑳㉑㉒	他者の考えを受け入れ、自分の考えを相手に受け入れられるような説明ができる。㉓ <教育>「教育コミュニケーション力の開発」 <経済>「農村再生セミナー」「中級演習Ⅰ」「中級演習Ⅱ」 <教育>「教育支援実践研究Ⅱ」 <医>「地域医療実習」「地域看護学実習」	自分の考えを、相手に分かりやすく説明できる。㉔㉕			
	対自己基礎力 自分自身のチカラを、いつでも、どんな環境でも、周囲の信頼を獲得しながら、発揮し続けることができるスキル	組織や社会の一員として、必要に応じた適切な修正や新しい発想を取り入れるなどして持続的な取組ができる。㉖ <教育>「教育コミュニケーション力の開発」「教職展開ゼミ」 <経済>「農村再生セミナー」「中級演習Ⅰ」「中級演習Ⅱ」	自分の考えを基にして、その取組を他者が認めてくれるような提案や取組ができる。㉗㉘㉙ <教育>「教育支援実践研究Ⅱ」 <医>「地域医療実習」 <経済>「農村発展論Ⅱ」	組織や社会の一員としての自分の役割を認識して他者と関わることができる。㉚㉛㉜			

連携大学における「大分を創る人材を育成する科目」の選定基準の概要

大学等	COC+大学	参加大学	協力大学等
申請時の育成像	<p>養成像A:グローバル化された経済社会において、社会人としての汎用基礎力(対人力・対自己力・対課題力や知的財産、マナー、(基盤)ICTの基礎能力)に加え、ビジネスに関する基本的な知識を基に、大分の視点を活かして活躍できる人材を育成する。</p> <p>養成像B:[A]に加え、地域や地域の組織に存在する資源について、発見、分析、評価し、外部に発信する基本的な手法を活か(高度化)して、地域の活性化の実践的役割を果たせる人材を育成する。</p> <p>養成像C:[A]に加え、地域の企業が直面する課題を適切に評価し、学部横断的な多様な考え方を活かし、新規事業の開発・開拓(高度化)に実践的に取り組める人材。地域の組織が直面する課題を適切に評価し、学部横断的な多様な考え方を活かし、地域が自律的に活動できるよう地域ビジョンの作成や地域開発に実践的に取り組める人材を育成する。</p>		
基本的な考え方	<p>①参画して得た情報を多面的に思考することから課題を指摘し、中長期的な視野に立った課題解決に貢献する企画・提案・実践ができる。</p> <p>②多様な情報(課題)・人の中にあつて、手段や対応を他面的に見ながら、長期的な視野に立ってより良いもの(企画・人関係・自己)を創ることができる。</p>	<p>○地域に愛着を持ち、主体的に課題を発見し、専門的課題解決力(知識をただ持っているだけでなく、知識を活用し、組み合わせ、また様々なステークホルダーや他の学生と協働し、地域社会に役立つ解決策を導き、実践することで定着させた専門知識と実践的応用力)を習得した人材を育成する。</p> <p>○資格取得のための専門教育が主であるために、大分を創る人材を育成する観点からは、他大学の学生と科目の内容をシェアできること等を配慮して、地域志向人材を育成する。</p> <p>○九州、日本の特色である地域資源や文化を教材として、現状の理解と、それを基にした新しい発見や提案を語れる人材を育成する。</p>	<p>○人間や社会、文化を学ぶことで汎用的な基礎力を養うとともに、地域で活躍できる能力、就業意識や実社会で実践していける企業力を育成する。</p> <p>○地域の最大資源である「温泉」による観光都市の創生に資する人材をめざし、地域教材を使ってグループワークやフィールドワーク・施設体験を行いながら、温泉コンシェルジュに求められる「知識」「問題解決力」「適正」を身につける。</p> <p>○地域食材を活用し、地域の子どもを対象とした食育や、観光客を対象としたレシピ考案など、食をとおした地域の魅力発信について多様なアプローチができる。</p>
コンセプト① <u>企業力</u>	<p><教養教育></p> <p>○企業等(職場)をフィールドにした豊じょう化力としての「企業(職場)理解」「企業(職業)への関心」「企業(職業)の課題へ対応するための専門的な技能等の能力」を育成する教育を行う。</p>	<p>○「ステークホルダーとの協働による課題解決型学修科目」を設定する。</p> <p>* 地域での実践活動により獲得した知識を活用してリアルな課題を発見、整理し、解決策を立案し、実践することを含む教育を行う。</p> <p>○事実を集め、分析し、課題を見出し、問題解決する能力を育成する。</p> <p>○対象のニーズを把握し、社会資源を活用、他職種(他部門)との連携・調整など、マネジメント能力を育成する。</p>	<p>○組織や社会の仕組みを理解し、働く人間と集団の中で行動する能力を育成する。</p> <p>○新規事業アイデアを創出することで、社会的課題を解決する能力を育成する。</p> <p>○地域とビジネスの関わり、消費者行動について基本的・実務的な知識を育成する。</p> <p>○温泉コンシェルジュとして、温泉を活用した観光・健康・医療・食等を連携させた総合的な企画プログラム作りの能力を育成する。</p> <p>○地方自治体や農水産業・企業と連携しながら、地域食材の活用や食文化の伝承ができる能力を育成する。</p>
コンセプト② <u>地域力</u>	<p><教養教育></p> <p>○地域社会をフィールドにした豊じょう化力としての「地域理解」「地域への関心」「地域の課題へ対応するための専門的な技能等の能力」を育成する教育を行う。</p>	<p>○「地域での体験交流活動を教育内容に含む科目」を設定する。</p> <p>* 地域コミュニティに入つての住民との交流の中で、地域のことを肌で感じ、自分たちの地域での役割を認識し、学修への意欲と主体性、ジェネリックスキル、人間力を高めることにつながる教育を行う。</p> <p>○地域社会の保健・医療・福祉に関心をもち、住民がより健康な生活ができ、QOL(生活の質)向上のための支援、環境づくり、政策などを考える能力を育成する。</p> <p>○地域で生活する高齢者と接し、関係形成しつつ生活実態を知り、より健康生活を維持・向上できる能力を育成する。</p> <p>○九州のそれぞれの地域の特性を学び、県域や枠を超えた連携をすることで、「食べる・見る・嗅ぐ、触る」という五感により学んで、九州を新しい見方から勉強し、九州を語れる人材を育成する。</p> <p>○世界最大の温泉保養地である別府において、総合温泉学の確立を目指すために、資料の収集をしながら日本の温泉文化を理解し、見直し、温泉大国である日本を再認識させる教育を行う。</p>	<p>○地域社会での働き方や人間関係、地域づくりをしていく能力を育成する。</p> <p>○地域の伝統や特異性、社会福祉、観光振興の戦略や問題等の地域政策を推進する能力を育成する。</p> <p>○地域で様々な活動に参加することにより、学習と社会とのつながりを理解させる教育を行う。</p> <p>○大分の直面する地域課題を知り、その解決策を検討する能力を育成する。</p> <p>○地域の歴史や自然・人物・文化・産業に関する発展や景観、また、温泉に関する泉質や効能、健康・医療、健康、温泉を活用した産業等を学び、それを活用した・PRするイベントや温泉体験等の案内ができる能力を育成する。</p> <p>○地域資源の要である食材についての知識を身につけ、活用方法や伝承方法を実践をととして理解させる教育を行う。</p>
コンセプト③ <u>汎用力</u>	<p><教養教育></p> <p>○調べ学習やグループ討議等をおこないつつ、企業や地域から求められる就業基礎力、社会人基礎力、対自己基礎力、学士力等の汎用的能力を育成する教育を行う。</p>	<p>○「地域における課題解決に必要な知識を修得する科目」を設定する。</p> <p>* 地域の題材や課題をもとに理論的な知識を構築するための能動的な学修(書く、話す、議論する、分析する、発表するなど)を通じて、知識の活用法や思考・判断力を深く認知化させることにつながる教育を行う。</p> <p>①多様な人や文化、考え方を理解することができる。</p> <p>②複数の情報収集手段による情報収集して分析する。</p> <p>③テーマに関する課題を発見して課題解決の目標を設定できる。</p> <p>④他者に分かりやすく説明・提案することができる。</p>	<p>○自己や他者との関わり・ヒューマンスキルの向上、自分の生活をデザイン化する能力を育成する。</p> <p>○経営及び情報技術に関する基礎力を育成する。</p> <p>○多様な文化のあり方日本語の表現力の多様性を理解して論理的思考力を育成する。</p> <p>○大分の地域課題(環境)について説明する能力を育成する。</p> <p>○地域の魅力を提供する総合的な接客サービスや、宿泊施設の業務や日本文化としてのおもてなしの心を学び、実践に移す努力ができる人材を育成する。</p> <p>○地域食材についての基礎知識や食文化・活用法などを学び、現場でいかすことができる能力を育成する。</p>
共通した育成する観点	<p>※後段の太字・下線の部分は教育目標で、そのための学習形態を前段に示している。</p> <p>①地域の教材を活用して、地域社会や地域の企業等の歴史・成り立ち、役割、活動、課題、魅力等に関する知識と理解を深め、課題への対応や更なる発展に関する意見交換等により地域社会や企業等への興味関心を深めることを目指す教育を行う。</p> <p>②アクティブ・ラーニングを導入して、資料収集やグループワークによる協議、地域社会や企業等でのフィールドワーク等の、学習者同士の学びや、社会人との学習活動などにより、課題への対応や更なる発展に関する企画や実践をととして、地域社会や企業の発展に資する能力を育成することを旨とする教育を行う。</p> <p>③地域社会や企業等における課題への対応のために、地域社会や企業でのフィールドワーク等を行い、現場の社会人の方と一緒に体験や実践を行いながら、新しい見方や企画ができる能力を育成する教育を行う。</p> <p>④グループワークによる協議や、地域社会や企業等でのフィールドワーク等による、学習者同士の学びや社会人との学習活動をととして、対人基礎力や対自己基礎力を育成することを旨とする教育を行う。</p>		

「大分を創る人材を育成する科目」の単位互換制度

【単位互換の目的】

大分地域の魅力や課題を学生が学修することを効果的に行うために、各大学等が保有する教育機能を相互に提供し、自校では実現が困難な教材・教育プログラムの共有、学校・学部・学科を超えた学生が様々な専門性を持ち寄って学び合える場、そうした情報の提供等が求められており、単位互換の実施について整理する。

＊ ＊ 「大分を創る人材を育成する」単位互換の基本的な考え方 ＊ ＊

「大分を創る人材を育成する」という目的の単位互換については、そうした人材育成に効果の高い科目に絞った上で、配信システムで賄う科目と集中講義型（合宿型を含む）の科目の両輪で、制度設計を行う。

☆その際、下記の3点について考慮することとする

【選定の方針】

1. 各大学等が求める単位互換に必要な教育内容について

基本的な考え方：「大分を創る人材を育成する」ために、教育内容や利便性を基にして有効な科目に絞って単位互換科目を設定する。

- ①地元の大分の企業や自治体に就職するに際して有利になるような教育内容であることが望ましい。
 - ②科目を提供する大学等において、大分を創る人材を育成する教育として本校の学生だけではもったいないほど有効な科目であると判断した科目を提供して欲しい。
 - ③それぞれの大学だけで大分を創る人材を育成するより、他学部・他学科・他大学の学生との合同学習が、より教育効果を高めると考えられる科目を提供して欲しい。
 - ④科目数も重要だが、厳選した科目について受講者などの学びの質を担保する必要がある。
- <配慮>単位互換科目としては、Open End の多様な答えがあり、それらの導出をチームでやる場合に有効な「スキルと人格」を育む科目に関連する科目に絞った方が良いと考える。
- <配慮>「大分を学ぶ」というよりも「大分で地域を学ぶ」という教育内容の科目を選定したほうが望ましい。

2. 学生の履修の利便性について

基本的な考え方：有効な科目を学生が受講しやすい開講方法による科目を設定する

- ①配信システムやムードル等を極力活用し、必要に応じた合同学習を組み込むなどの工夫が必要である。
- ②休日や長期休業中を活用した、相手と心が双方向で伝授できる対面授業形式が必要であり、集中講義は、平常の開講よりも受講しやすい。
- ③資格取得を目的とした大学や学部の学生は実習を含む多くの必修科目で縛られており、夏期休暇もゆとりが少ないことから、宿泊や合同集中講義は実際的でなく、授業配信システムの活用が望ましい。
- ④開講場所は、主担当の教員が所属する大学（最も受講学生数が多い）で行うことと、学生が集まりやすい会場での授業を行うことの両面から考える必要がある。

3. 受講促進するシステムや取組みについて

基本的な考え方：単位互換科目を厳選して、有効な科目を学生が受講したいと積極的に思えるような情報提供や支援を行う。

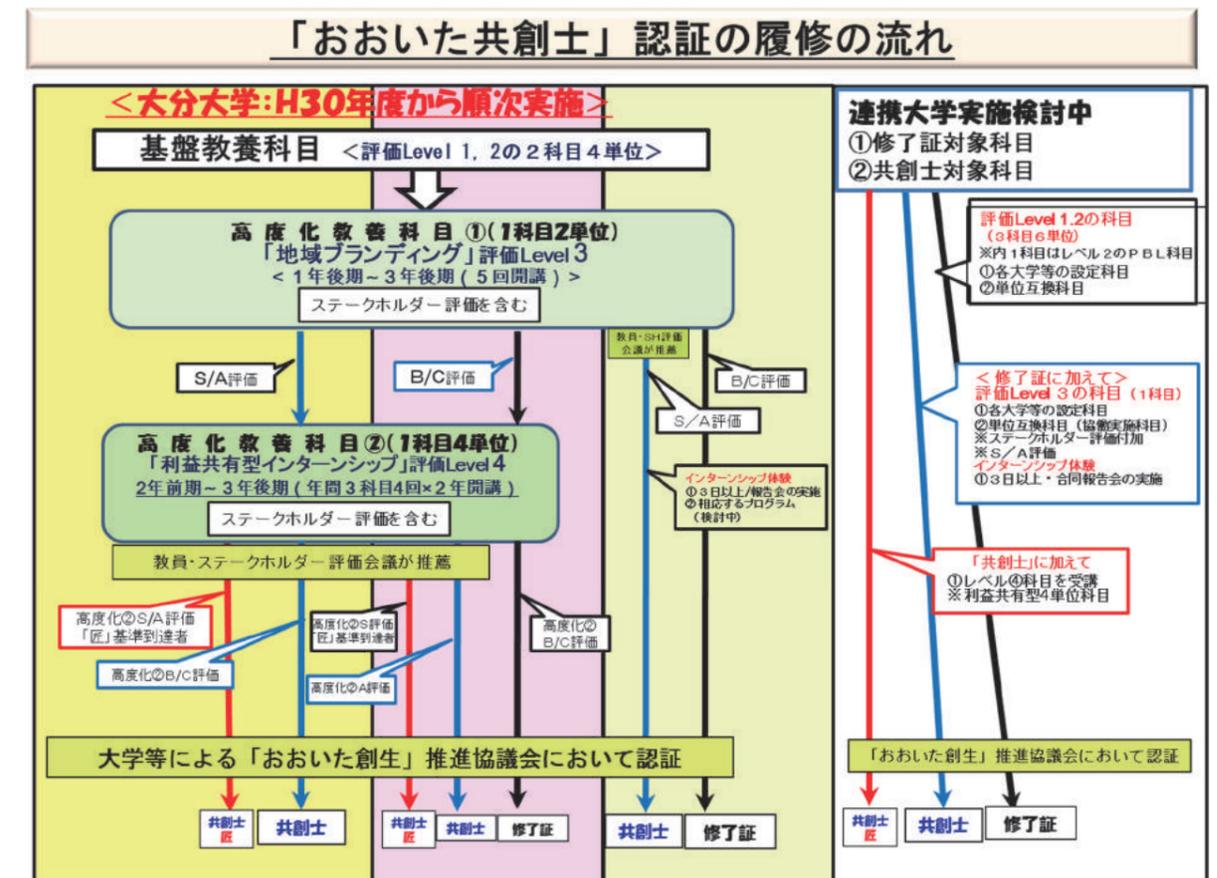
<協働した取り組み>

- ①学年始めにはシラバスに、学生にとって必要な情報が掲載できることが、最低要件である。科目名を一見しただけでは内容がわかりにくい場合もあるので、魅力的な科目紹介文が望まれる。
- ②年度当初に、分かり易い「単位互換科目ガイドブック」を作成して周知するなど、情報提供の充実が必要である
- ③COC+事業の目的に沿った単位互換の科目群なりをきちんと形成し、共通開講として開講科目リストの中で表示していくなどの方向性の検討が必要である。

<各校の取り組み>

- ・各校の学内での、受講を促進するための支援体制が十分に整えられていることが必要である。
- ・受講することのメリットを学生へ十分に伝えるなど、学生への周知方法の工夫が必要である。
- ・年度当初の早期通知と、各大学における積極的な情報発信を行うよう、各大学での情報提供システムに掲載して周知するなど、情報提供の充実が必要である。

<参加校・協力校・連携企業等で取組む「おおいた共創士」認証制度への履修システム>



平成29年度「大分を創る人材を育成する科目」各大学が提供する単位互換科目一覧

(前期)

【企業力科目】

県立芸術文化短期大学

科目名	開講期 曜限	担当教員名	単位数	他大学受 講者総数	対象学年	授業方法	単位互換方法	備考
産業・組織心理学	前期 金3	吉山	2	5	2	講義(週1×15コマ)	県立芸術文化短期大学で開講	
①職場集団や組織の心理学的特質を説明できる。 ②職場で起きやすい問題や困難を指摘できる。 ③リーダーシップを発揮するポイントを説明できる。								

大分大学

科目名	開講期 曜限	担当教員名	単位数	他大学受 講者総数	対象学年	授業方法	単位互換方法	備考
企業の価格戦略と消費者の行動	前期 水1	宇野	2	10名程度	1・2・3・4	講義(週1×15コマ)	大分大学で開講	
企業の価格決定の方法、コーヒーションや携帯電話料金、DVDの価格がなぜ下がるのかなどの価格決定構造を理解してもらう。								
日本のマネジメント	前期 水2	宮下	2	10名程度	1・2・3・4	講義(週1×15コマ)	大分大学で開講	
1. 日本企業のマネジメントの特徴や概要を説明できるようになる。 2. ビジネスやその制度について、実践的な理解ができるようになる。 3. マネジメントやビジネスの基本概念を日本語と英語で理解できる。 4. マネジメントの基本について、英語で説明できるようになる。								
革新的企業経営	前期 水2	松岡	2	10名程度	1・2・3・4	講義(週1×15コマ)	大分大学で開講	
イノベーション(革新)とは何か、なぜ企業はイノベーションが必要なのか、どのようにイノベーションを行って行くのか、企業の商品やサービスの持続的に競争優位を実現する価値創造の仕組み、すなわちビジネスモデルを事例を通して理解する事が目標です。								
中小企業の魅力の発見と発信	前期 集中	岡田	2	10名程度	1・2	夏季休業中に集中	大分大学で開講	インターシップあり
①十分な学びの足跡(活動、成果、自己評価、他者評価など)として記録し、職業選択に関する基本的な考え方について、職業と関連づけながら自分の生き方を他者に説明できる。 ②「職場の魅力、職場の楽しさの重要性、人とのコミュニケーションの大切さ」に関する気づき、職場体験の関係者・他の受講生との交流エピソードをもとに他者へ説明できる。 ③魅力発信に必要な素材を適切に収集し、受け手に配慮したメディアを制作できる。								

【地域力科目】

県立芸術文化短期大学

科目名	開講期 曜限	担当教員名	単位数	他大学受 講者総数	対象学年	授業方法	単位互換方法	備考
観光地域づくり論	前期 月3	宮野	2	5	2	講義(週1×15コマ)	県立芸術文化短期大学で開講	
①観光地域を取り巻く社会環境について理解している。 ②観光地域づくりにおけるマーケティングの必要性について理解している。 ③観光地域マーケティングの基礎的知識を持っている。								
大分の観光と文化	前期 火2	晴谷	2	10	1・2	講義(週1×15コマ)	県立芸術文化短期大学で開講	オムニバス形式
①大分の観光や文化についての基礎的な知識を身につける。 ②地元出身者にも意外に知られていない観光資源としての大分の魅力を再認識する。 ③観光振興の戦略や問題点について認識する。 ④大分の観光振興について主体的に考える態度を養う。								

大分工業高等専門学校

科目名	開講期 曜限	担当教員名	単位数	他大学受 講者総数	対象学年	授業方法	単位互換方法	備考
環境化学	前期 金2	横田	2	4	3・4	講義(週1×15コマ)	大分工業高等専門学校で開講	
(1) 化学の基礎力をベースに環境問題の現状を把握し、環境保全への関心を抱くことができる。(定期試験) (2) 化学的な視点から大気・水・土壌の汚染問題を議論できる。(定期試験) (3) 化学物質の循環、越境および管理について理解することができる。(定期試験) (4) 化学を英語で理解することができる。(定期試験)								

別府溝部学園短期大学

科目名	開講期 曜限	担当教員名	単位数	他大学受 講者総数	対象学年	授業方法	単位互換方法	備考
観光学入門	前期 月2	安達 他	1	20	1・2	講義(週1×8コマ)	別府溝部学園短期大学で開講	社会人受け入れ
①別府地域について、別府八湯の視点から各地域の特色を説明できる。 ②顧客が別府を訪れる際に必要な基礎的情報を説明できる。								
温泉コンシェルジュの基礎	前期 月5、集中	中川 他	2	20	1・2	講義(週1×12コマ) フィールドワーク3コマ	別府溝部学園短期大学 および別府市内	社会人受け入れ グループワーク有り
①(別府)温泉コンシェルジュに必要な知識や資質・能力を説明できる。 ②別府の魅力・特色を知り、プログラムを作成する努力ができる。 ③他人の話に耳をよく傾け、適切な対応をする心がけができる。 ④顧客や職場等を理解し、多様な価値観を受容する心がけができる。								
別府の歴史と発展	前期 水4	安達	2	20	1・2・3・4	講義(週1×15コマ)	別府溝部学園短期大学で開講	社会人受け入れ
①別府発展の歴史の特色を、自然・人物・文化・産業の視点で説明できる。 ②別府発展のポイントを、歴史と周辺地域の連携という視点で説明できる。 ③取得した情報を基に、物事をわかりやすく説明して伝えることができる。 ④情報や知識を様々な観点から論理的に分析し、表現(説明)できる。								

科目名	開講期 曜限	担当教員名	単位数	他大学受 講者総数	対象学年	授業方法	単位互換方法	備考
温泉コンシェルジュ演習	前期 集中	安達 他	2	10	1・2・3・4	講義、フィールドワーク、観光施設 における現場演習	別府溝部学園短期大学 および別府市内	社会人受け入れ 最終プレゼン有り(10月)
①(別府)温泉コンシェルジュに必要な知識や資質・能力を説明できる。 ②「おすすめの別府案内」プログラムが提案できる。 ③他人の話に耳をよく傾け、適切な対応をしようとする心がけができる。 ④顧客や職場等を理解し、多様な価値観を受容する心がけができる。								
温泉学	前期集中 8月1日～4日	由佐 他	2	20	1・2・3・4	講義13コマ フィールドワーク2コマ予定	別府溝部学園短期大学 および別府市内	社会人受け入れ 8月上旬予定
①温泉について多分野にわたる実践的な基礎知識を身につける。 ②別府温泉を題材に温泉の自然と文化を学ぶ。 ③温泉県大分の情報発信ができる温泉コンシェルジュを目指す。								
まちづくりと景観	前期集中 8月	姫野	2	10	1・2・3・4	講義11コマ フィールドワーク4コマ予定	別府溝部学園短期大学 および別府市内	社会人受け入れ 8月下旬予定
①紹介する地域や都市の特性を如何にして理解したら良いかが分かる。 ②地域や都市の全体像を理解し、別府の地域特性を説明できる。 ③顧客対応に利用する情報をストックし整理することができる。 ④別府の街づくりや特色ある産業について他地域と比較し説明できる。								

大分大学

科目名	開講期 曜限	担当教員名	単位数	他大学受 講者総数	対象学年	授業方法	単位互換方法	備考
建築環境計画	前期 火1	大鶴・他	2	10名程度	1・2・3・4	講義(週1×15コマ)	大分大学で開講	
1. 都市や建築空間における室内音響と騒音振動問題の科学的理解と解決へ向けた議論の展開。 2. 都市や建築空間における光・熱環境に関わる問題の科学的理解と解決へ向けた議論の展開。 3. 都市や建築空間における空気環境に関わる問題の科学的理解と解決へ向けた議論の展開。 4. 都市や地域における問題の科学的理解と地域資源や特色を活かしたまちづくりや取り組みのあり方について理解する。 5. 建築計画学的観点(=人間と空間と時間の相互関係)から、持続可能な生活・居住環境の基礎的知識を修得する。								
建築構造工学	前期 火1	菊池・他	2	10名程度	1・2・3・4	講義(週1×15コマ)	大分大学で開講	
次の事項について理解し、安全な町づくりや持続可能な建築の重要性をしっかりと認識する。 建築形態と構造の概要／地震による建築物の被害とその教訓／安全な住まいづくり／構造設計の概要／身近な建築物の構造と防災対策／耐震診断と耐震補強の概要／ 主要な建築材料の力学的特性と耐久性／建設分野のサイケル								
大分美術史概論	前期 水2	田中	2	10名程度	1・2・3・4	講義(週1×15コマ)	大分大学で開講	
1) 大分における美術の歴史の流れを紹介できる。 2) 造形表現におけるさまざまな素材・技法を説明できる。 3) 歴史を語ることについての問題意識を持ってレポート等が書ける。								
子どもにとっての福祉とは： 社会的養護と家族支援	前期 水3	相澤	2	10名程度	1・2・3・4	講義(週1×15コマ)	大分大学で開講	
1. 社会的養護の基本的な理念や制度施策について理解し説明できる。 2. 個々の子どものニーズに対応した支援のあり方について理解し説明できる。 3. 支援者に求められる専門性について理解し説明できる。								
大分の地域資源	前期 水3	鈴木	2	10名程度	1・2・3・4	【ブロック1】 授業配信(10コマ) 【ブロック2】 集中講義(5コマ)	【ブロック1】 授業配信(10コマ) 【ブロック2】 集中講義(5コマ)	LMSや動画配信システムを 活用したフレンド型授業とし て実施
1. 授業でピックアップする大分の地域資源について列挙し、説明できるようになる。 2. 大分の地域資源に係わる問題点や課題を選択・発見し、解決のアイデアを持てるようになる。 3. 大分についてもっと学んでみたい、大分の地域資源を体験してみたいと思うようになる。								
世界・日本・大分の農業経済論	前期 木2	山浦	2	10名程度	1・2・3・4	講義(週1×15コマ)	大分大学で開講	
この講義を通じて、例えば… 「一人が一年間食べるご飯のために、どれぐらいの田んぼが必要なの？」といった素朴な疑問から、「なぜ日本の自給率は、先進国の中で特に低いのか?」、「TPP中止で日本農業はどうなるの?」、「大分の農業の特徴と目指すべき方向性は?」といった複雑な問題まで、世界、日本、大分の農業を理解し、また人に説明できるようになります。								
食と農の地理学	前期 金2	大呂	2	10名程度	1・2・3・4	講義(週1×15コマ)	大分大学で開講	
日々の食事や身近な農村のことから、世界の食料貿易や日本の農業・農村問題のことに考えをめぐらせ、大局的な視点からそれらを理解できるようになる。								

【汎用力科目】

県立看護科学大学

科目名	開講期 曜限	担当教員名	単位数	他大学受 講者総数	対象学年	授業方法	単位互換方法	備考
総合人間学	前期9月頃～ 後期11月頃 金4	オムニバス	1	20	1・2・3・4	講義(週1×8コマ)	授業配信 (10月11日より配信開始)	毎回レポート提出
人間性の育成の集大成として、人間として、また医療従事者として、備えておくべき豊かな知性と感性を養う。 さまざまな分野で活躍し、かつ造詣の深い講師の方々から、もの見方や考え方を学ぶ。								

日本文理大学

科目名	開講期 曜限	担当教員名	単位数	他大学受 講者総数	対象学年	授業方法	単位互換方法	備考
ジェネリックスキル養成1	前期集中 9月12日、13日	吉村 市田	1	20	1	演習・実習2日間(8コマ)	住吉浜リゾートパーク(梓葉市)で 1泊2日の合宿	夏期休業中 (9月12日、13日)に実施 若年社会人可
【関心・意欲・態度】①各自が「他のメンバーに配慮しながら、オープンな気持ち・態度になり、課題に向き合う際に、チームに積極的に関わり、チームに貢献することが自分を成長させ、今後の様々な場面でもそれに役に立つ」と意識できる。 【技能・表現・コミュニケーション】②フルバリュー・コントラクト(人と良い関係を作る力、対人基礎力)、チャレンジ・バイ・チョイス(自分自身で積極的に動く力、対自己基礎力)という観点から、活動を各自がふりかえることができる。 【思考・判断・創造】③体験学習サイクル(考える力、対課題基礎力)という観点から、活動を各自がふりかえることができる。								

別府溝部学園短期大学

科目名	開講期 曜限	担当教員名	単位数	他大学受 講者総数	対象学年	授業方法	単位互換方法	備考
おもてなしの心を学ぶ	前期 火2	木本 他	2	20	1・2	講義(週1×15コマ)	別府溝部学園短期大学で開講	社会人受け入れ グループワーク有り
①日本の接客業における、総合的なおもてなしの心や業務が分かる。 ②温泉コンシェルジュに求められるものを理解している。 ③他者を理解し多様な価値観を受容することができる。 ④日本や世界のおもてなしの心と作法を基に、接客サービスができる。								

科目名	開講期 曜限	担当教員名	単位数	他大学受 講者総数	対象学年	授業方法	単位互換方法	備考
コンピュータ科学入門	前期 水1	中島・他	2	10名程度	1・2・3・4	講義(週1×15コマ)	大分大学で開講	
1. コンピュータに興味を持ち、その発展の歴史を説明できる。 2. コンピュータ科学とその応用分野との関係を説明できる。 3. コンピュータの社会における基本的な活用法について説明できる。 4. コンピュータ社会が抱える課題に関心を持ち、自分自身の意見を述べるができる。								
スポーツと生活	前期 水1	前田・他	2	10名程度	1・2・3・4	講義(週1×15コマ)	大分大学で開講	
スポーツや身体運動を行うことの有用性やその効果を理解することにより、各自の健康を管理する知識や能力を身につける。そして、健康で質の高い生活を送ることを目標に、その知識や能力を実生活の中で活かせるようになる。								
環境の化学	前期 水2	石川・他	2	10名程度	1・2・3・4	講義(週1×15コマ)	大分大学で開講	
・地域の循環型社会の構築、世界のエネルギー事情、環境問題の課題、環境浄化を可能にする材料について理解できること。 ・地域と身の回りの「環境」を見つめることで化学の基礎的な原理と理論を自発的に学ぼうと取り組むようになること。 ・地球環境に関する様々なデータを読むことができるようになること。 ・環境問題の主な原因とそのメカニズムを、化学的な視点で理解できるようになること。 ・これらの問題を解決するために何をすべきか、各自で考えることができるようになること。								
福祉テクノロジー入門	前期 水2	池内	2	10名程度	1・2・3・4	講義(週1×15コマ)	大分大学で開講	
・障害に対して、理解を深め、広い視野でとらえる。 ・福祉に関する支援技術、福祉機器・介護機器について理解を深め、障害や生活上の問題に対して適切な手段を選択できる。 ・福祉機器や介護機器の市場・利用法についての課題を理解し、これらの課題に興味関心を持つ。								
国際健康コンシェルジュ養成講座	前期集中 7月8日、9日、15日	穴井・他	1	10名程度	1・2・3・4	講義3日間(8コマ)	大分大学で開講	土日で集中 社会人も受け入れ
習得する専門知識(Contents)とそれを活かした能力(Competency)は、次の点である。 ・病氣・外傷の重篤度・緊急度の判断が可能となり、また必要な応急処置ができる。 ・外国語(英語、中国語)の基本文例を使って、「身体症状を質問し、適切な指示を与える」ことができる。 ・病院外来での受付、支払い、ホテル、車いすマラソンなどの会話の基本文型を使って話すことができる。 社会人との協働講義の中でのばす能力(Competency)は、次の点である。 ・多様な年齢、性別、人生観、仕事観を持つ社会人と上記の会話訓練をすることで、自ら他人と「話す」状況をつくるきっかけを創出できる。								

(後期)

【企業力科目】

科目名	開講期 曜限	担当教員名	単位数	他大学受 講者総数	対象学年	授業方法	単位互換方法	備考
簿記の基礎	後期 金2	小野	2	10名程度	1・2・3・4	講義(週1×15コマ)	大分大学で開講	
・日本商工会議所の簿記検定(日商簿記検定)3級レベルの簿記用語の内容を説明できるようになる。 ・日商簿記検定3級レベルの取引のうち、基本的な取引に関する記帳(仕訳+転記)が行えるようになる。 ・簿記一巡の手続きを理解し、試算表、精算表、貸借対照表・損益計算書を作成できるようになる。								
知的財産入門	後期集中 10月21日、28日	富畑	1	10名程度	1・2・3・4	講義2日(8コマ)	大分大学で開講	土日で集中 社会人も受け入れ
知的財産と知的財産権の概念や、知的財産関連法と経済活動の関わり、企業の業務において必要な基礎的な知的財産に関する知識について説明できるようになる。 特に、自分自身と知的財産のかかわりを十分に認識し、身近な生活において正しい判断ができるようになる。								

【地域力科目】

科目名	開講期 曜限	担当教員名	単位数	他大学受 講者総数	対象学年	授業方法	単位互換方法	備考
大分の地域ブランド創造体験	後期 集中	吉村	2	15名程度	1	演習4日間(15コマ)	国東市で1泊2日の合宿×2回	1回目 2月に実施 2回目 3月に実施
【技能・表現・コミュニケーション】 ①他者と協働して活動を行い、テーマについての対応計画をまとめ、他者にわかりやすく提案することができる。 【思考・判断・創造】 ②地域での活動を体験して情報収集・分析し、テーマに関する地域社会が直面する課題を明らかにすることができる。 ③地域企業が抱える課題を知り、地域資源を活かした商品開発を提案することができる。 ④地域が抱える課題を知り、地域資源を活かした柔軟性を保った活性化策の計画立案を行い、提案することができる。								

科目名	開講期 曜限	担当教員名	単位数	他大学受 講者総数	対象学年	授業方法	単位互換方法	備考
九州学	後期 土1	飯沼	2	30	1	講義(週1×15コマ)	別府大学で開講	一般公開
①九州学は、福岡を中心にふりがぶって上からする学問ではなく、九州のそれぞれの地域の特性を主張する学問と位置付ける。本授業は九州学の入門編として行われ、九州とはどのような特質を持つかを、各分野の教員がそれぞれの切り口から提起し、学生が九州について考えることが狙いである。 ②受講生には九州への新しい見方を勉強してもらい、それぞれの視点から九州を語れるような学生が育つことを目標としている。								
温泉学概論	後期 土2	鈴木	2	10	1	講義(週1×15コマ)	別府大学で開講	フィールドワーク有り
①温泉文化は日本の自然と歴史に根差した日本独自のものであるが、本格的な研究は充分ではない。そこで、別府大学では、世界最大の温泉保養都市別府にある大学として、総合温泉の確立を目指すプロジェクトを開始している。本講義を温泉に関わる研究を広く公開する場とする。学内外の多分野にわたる教員がさまざまな方面から温泉の持つ諸側面を明らかにする。 ②日本温泉文化を理解し、それを見直すことができる。								

大分工業高等専門学校

科目名	開講期 曜限	担当教員名	単位数	他大学受 講者総数	対象学年	授業方法	単位互換方法	備考
社会技術概論	後期 未定	久保山	2	4	3.4	講義(週1×15コマ)	大分工業高等専門学校で開講	
(1) 社会技術に関し、多角的に思考することができる。(定期試験) (2) 社会技術の要諦を理解することができる。(定期試験) (3) 具体的事案にそくし、体系的に議論することができる。(定期試験) (4) 将来起こりうる事態に際し、積極的な解決施策を提案できる。(定期試験)								

科目名	開講期 曜限	担当教員名	単位数	他大学受 講者総数	対象学年	授業方法	単位互換方法	備考
温泉医療療養指導	後期 木曜(予定)	前田	2	20	1・2・3・4	講義(週1×15コマ)	別府清部学園短期大学で開講	社会人受け入れ
①健康増進にむけた温泉の利用方法を説明できる。 ②安全に温泉を利用するための重要な点をきちんと挙げられる。								
温泉健康トレーニング	後期 金2	住田 他	2	10	1・2・3・4	講義11コマ フィールドワーク4コマ予定	別府清部学園短期大学 および別府市内	社会人受け入れ
①温泉プールを活用した健康・体力づくりやリハビリテーションの方法が分かる。 ②別府のトレーニング・医療・リハビリ施設に関する知識がある。 ③温泉を活用した健康トレーニングや癒し、健康増進に関する基本的な知識がある。 ④習得した知識を基にして、課題解決に向けたプログラムを提案できる。								
大分学	後期 未定	楢本 他	2	20	1・2・3・4	講義(週1×15コマ)	別府清部学園短期大学で開講	社会人受け入れ
①大分県内の特色(歴史・人物・文化・産業等)について学ぶ。 ②大分県の魅力を全国に発信することができる。								
温泉文化と活用	後期 火4	安達 他	2	20	1・2・3・4	講義11コマ フィールドワーク4コマ予定	別府清部学園短期大学 および別府市内	社会人受け入れ
①温泉の活用方を知り、別府でのサービス等の情報発信ができる。 ②他者を理解し、多様な価値観を受容することができる。 ③職場や地域での人的ネットワークを構築し、活用することができる。								
温泉コンシェルジュ応用	後期集中 12/20～12/26	坂田	2	10	1・2・3・4	講義11コマ フィールドワーク4コマ予定	別府清部学園短期大学 および近隣地域	社会人受け入れ pptで成果物作成
①別府の地域資源を組み合わせた滞在プログラムの提案ができる。 ②多様な情報を収集し、顧客の潜在価値を高めるツールを作成できる。 ③人的ネットワークを活用し、課題解決力を身に付けることができる。 ④顧客や職場等の考えを理解し、課題解決の為の提案を行うことができる。								

科目名	開講期 曜限	担当教員名	単位数	他大学受 講者総数	対象学年	授業方法	単位互換方法	備考
建築入門	後期 火1	菊池・他	2	10名程度	1・2・3・4	講義(週1×15コマ)	大分大学で開講	
次の事項について理解し、安全な町づくりや持続可能な建築の重要性をしっかりと認識する。 都市と地球環境／生活・居住環境／室内音響と騒音振動問題／建築形態と構造の概要／地震による建築物の被害とその教訓／安全な住まいづくり／構造設計の概要／身近な建築物の構造と防災対策 ／耐震診断と耐震補強の概要／主要な建築材料の力学的特性と耐久性／建設廃材のリサイクル								
地域における仕事と社会	後期 水2	石井	2	10名程度	1・2・3・4	講義(週1×15コマ)	大分大学で開講	
グローバル化がどんなに進んでも地域は生活の基盤となります。その生活地域を豊かにするための方策について考えることができる「考察力」をつけることを目的とします。主として地域の若者の労働の現状から次世代の地域社会の課題を析出する能力を高めていきます。								
交通からみた地域社会	後期 水2	大井	2	10名程度	1・2・3・4	講義(週1×15コマ)	大分大学で開講	
地域の交通に関する問題を考える上で重要なポイントとして、 (1)地域で起きている交通問題の実態を正確に把握すること、 (2)他の社会問題・政策との関係などについても理解すること、 (3)現状や政策を理解するためのツールを理解すること、 があります。 本講義では(3)はデータの読み方等の一部を取り上げることとどめ、主に(1)・(2)についての基本的な情報提供を、身近な交通あるいは交通に関連するの問題を取り上げて行います。それにより、 (4)地域・交通問題に関心を持ち、本講義の知識をきっかけに自身に関連する問題として自らの考えを持つこと、を到達目標とします。								
地域社会へのまなざし	後期 水2	高島	2	10名程度	1・2・3・4	講義(週1×15コマ)	大分大学で開講	
1. 地域社会の諸問題の背景と現状を説明できる。 2. 地域社会の構造変動(市町村合併など)の背景と問題点を説明できる。 3. 地域社会への住民参加・公民協働への視点を身につけられる。								
運動器疾患と治療・予防	後期 水3	片岡・他	2	10名程度	1・2・3・4	講義(週1×15コマ)	大分大学で開講	
1)運動器疾患のための重要なマクロ解剖、ミクロ解剖を理解する。 2)運動器における生理学を理解する。 3)関節のバイオメカニクスを理解する。 4)運動器疾患の発症メカニズムを理解する。 5)運動器疾患の保存療法について理解する。 6)大分の医療の地域課題を理解する。 7)医療における大分の地理的な問題点を理解する。								
大分の人と学問	後期 集中	望月・他	2	10名程度	1・2・3・4	授業配信(13コマ)と 対面講義(2コマ)	授業配信(13コマ)と 対面講義(2コマ)	
1. 大分の特色や課題、大分に縁のある人物について説明できる。 2. 講義内容から派生的な課題を自ら見いだし、文献等の調査に基づいたアイデアを論述することができる。								
大分の地域資源	後期 集中	鈴木	2	10名程度	1・2・3・4	【ブロック1】 授業配信(11コマ) 【ブロック2】 ホルトホールで集中講義(4コマ)	【ブロック1】 授業配信(11コマ) 【ブロック2】 ホルトホールで集中講義(4コマ)	【ブロック1】LMSと動画配信 システムを用いた遠隔授業 【ブロック2】ホルトホール 大分での集中講義を予定
1. 授業でピックアップする大分の地域資源について列挙し、説明できるようになる。 2. 大分の地域資源に係わる問題点や課題を選択・発見し、解決のアイデアを持てるようになる。 3. 大分についてもっと学んでみたい、大分の地域資源を体験してみたいと思うようになる。								

科目名	開講期 曜限	担当教員名	単位数	他大学受 講者総数	対象学年	授業方法	単位互換方法	備考
ジェネリクススキル養成2	後期 集中	鈴木(照)・ 吉村	1	30	1	演習2日間(8コマ)	日本文理大学湯布院研修所(由布市)で 1泊2日の合宿	春休み休業中 (2月下旬頃の平日)に実施 若年社会人可
【関心・意欲・態度】①チームにおける自己の役割を理解し、それに沿った行動ができる。②大分について考えることができる。 【知識・理解】対象とする地域課題について必要な知識を獲得し、問題点の分析に活用することができる。 【技能・表現・コミュニケーション】①対象とする地域課題について、自分の意見を述べるができる。 ②対象とする地域課題に関する解決策について、適切な手段を用いて表現することができる。 【思考・判断・創造】リテラシーのプロセス(情報分析→課題発見→構想→表現)を獲得し、そのスキルを活用できる。								

科目名	開講期 曜限	担当教員名	単位数	他大学受 講者総数	対象学年	授業方法	単位互換方法	備考
社会技術概論	後期 未定	久保山	2	4	3.4	講義(週1×15コマ)	大分工業高等専門学校で開講	
(1) 社会技術に関し、多角的に思考することができる。(定期試験) (2) 社会技術の要諦を理解することができる。(定期試験) (3) 具体的事案にそくし、体系的に議論することができる。(定期試験) (4) 将来起こりうる事態に際し、積極的な解決施策を提案できる。(定期試験)								

大分大学

科目名	開講期 曜限	担当教員名	単位数	他大学受 講者総数	対象学年	授業方法	単位互換方法	備考
初年次地域キャリアデザインワーク シヨップ	後期集中 10月21日、22日、 11月12日	牧野	2	8大学等 合計20名	1・2	ガイダンス、授業配信、 合同学習(全15コマ)	大分大学で開講	
<p>・多様な情報から、多様な人や文化、考え方を分析することができる。</p> <p>・組織や集団の一員として、積極性と柔軟性を持った議論を建設的に行うことができる。</p> <p>・グループ討議やプレゼンにおいて、自分の考えを他者に分かりやすく説明することができる。</p> <p>・大分で働く魅力と、地域社会や企業が抱える目標や課題の分析に基づいて、大分で働くことについて自分の考えをグループ内で分かりやすく説明できる。</p> <p>・自分の考えを基にして、他者と協調・協働して相互評価しながら、地域社会や企業が抱える課題に対応できる大学等での学び方を提案することができる。</p> <p>・自分の生き方を構想し、自分自身が大学で学ぶ意義と価値を説明できる。</p>								
西洋思想の源流	後期 火1	黒川	2	10名程度	1・2・3・4	講義(週1×15コマ)	大分大学で開講	
<p>1.西洋哲学史の古代・中世の主要な哲学者についての基礎的知識を習得する。</p> <p>2.人間の根本的な問題、そして現代に生起する社会事象に対する独特な哲学的眼差しを身につけることができる。</p> <p>3.授業や文献・資料の内容について重要事項や問題点を取り出すことができる。さらに、課題解決のために適切に情報を分析・活用して取組むことができる。</p> <p>4.重要事項や問題点を複眼的に思考し、それらを自らの言葉で論理的に表現できる。換言すれば、自分の考えを相手に分かりやすく説明・提案することができる。</p>								
身近な物理学	後期 火1	藤井	2	10名程度	1・2・3・4	講義(週1×15コマ)	大分大学で開講	
<p>日常生活の中で、ほとんど見過ごしている現象が実は科学的なバックグラウンドを持っているということに気づかせ、自然科学的な目を養うとともに物理に関する興味を喚起する。</p>								
情報科学の世界	後期 水1	中島・他	2	10名程度	1・2・3・4	講義(週1×15コマ)	大分大学で開講	
<p>1. 情報科学における考え方には多くの視点があることに関心をもち、それらを説明できる。</p> <p>2. 世の中にあふれる情報を収集・活用する適切な手段を選択できる。</p> <p>3. 情報科学に関連した技術について興味を持ち、基本的な課題や原理を説明できる。</p> <p>4. 現代社会における情報科学・情報技術の様々な応用場面を把握し、説明できる。</p>								
くらしの化学	後期 水2	氏家・他	2	10名程度	1・2・3・4	講義(週1×15コマ)	大分大学で開講	
<p>身近な化学材料や化学製品の特長、役割および問題点、さらには日常生活環境に潜存する様々な放射性物質由来の「放射線」について、化学的側面から説明できるようになる。</p>								
学習意欲の心理学	後期 水2	鈴木	2	10名程度	1・2・3・4	講義(週1×15コマ)	大分大学で開講	
<p>1. 学習意欲に係わる心理学の理論を説明できるようになる。</p> <p>2. 学習意欲の問題に対して、解決案を示せるようになる。</p> <p>3. 学習者として、意欲を高めるための方策を選択し、活用できるようになる。</p>								
人類の知的遺産と向き合う	後期 水3	牧野	2	10名程度	1・2・3・4	講義(週1×15コマ)	大分大学で開講	
<p>1) 文献の収集とその精査により結論を導くことができる。</p> <p>2) ビブリオバトル(知的書評合戦)のハトラーができる。</p> <p>3) 異なる意見を尊重した共同作業によるプレゼンテーションを作成できる。</p>								
カタリバでキャリアを拓く	後期 金2	宮町	2	10名程度	1・2・3・4	講義(週1×15コマ)	大分大学で開講	
<p>受講生は授業終了時に以下の能力を獲得します。</p> <p>1. カタリバのスタッフとして、高校訪問の企画・準備・運営ができる。</p> <p>2. 自分の進路体験を体系的に整理し、わかりやすいプレゼンや対話ができる。</p> <p>3. 自分の意志で進路を選択できるキャリア開拓力を身につけている。</p>								

2017 おおいた単位互換ガイドブック概要

単位互換について

- それぞれの大学等から提供される科目を受講し修得した単位を、在籍する大学で認定してもらえます。
- 他の大学等の学生と学んだり、他の大学等のキャンパスで学んだりすることのできる科目もあります。
- 受講希望者が多数となった科目では、受講者調整を実施することがあります。
- 原則として、在籍する大学等に支払っている授業料以外の負担は必要ありません。
- 履修手続きや科目等に関するお問い合わせは、所属大学等の担当窓口へご連絡ください。

ガイドブックについて

- 2～8ページでは、以下の「マークの説明」に挙げているような他大学等の学生が受講しやすく工夫している科目を取り上げて紹介しています。
- 本ガイドブックは2016年度の授業の内容を参考に作成したものであり、一部変更になっている場合があります。最新の情報をシラバス等でご確認ください。
- 大学等によっては、このガイドブックに掲載されている科目以外にも、他の大学等との単位互換が存在しています。このガイドブックに掲載されている科目以外の大分県内外の大学等や国外の大学等々の単位互換科目については、所属大学等の担当窓口へお尋ねください。

マークの説明



大分大学高等教育開発センター
1

とよのまなびコンソーシアムおおいだ 大分の人と学問

後期 全15回2単位 担当教員：副学長 望月 聡、他

大分県内の大学・短大・専修学校等の教員達が、大分の地に根ざしたパラダイス的な学問分野を紹介することで、大分に関する教養を深めていくことを目的としています。



1. オリエンテーション 大分大学 鈴木雄清
2. 今よみがえる田原淳の業績 ～ノーベル賞を超える大偉業～ 放送大学(大分大学) 島田進生
3. 大分県の中の朝鮮半島 別府清部学園短期大学 清部 仁
4. 『関あじ・関さば』を科学する 大分大学 望月 聡
5. 人間力構築～地域社会と人間力～ 日本文壇大学 吉村充功
6. おおいた過疎地域を元気にする産学連携～柚子の抗アレルギー剤について～ 大分大学 石川 雄一
7. 大分の水と温泉 大分大学 芝原 雅彦
8. グループワーク 大分大学 教野治敏・鈴木雄清
9. 七島農プロジェクトと農工連携についての取り組み 大分工業高等専門学校 小西忠司・松本桂久 菊川裕規・尾形公一郎
10. 江戸の天文学と麻田剛立 大分工業高等専門学校 教野 伸哉
11. いちひきの顧客価値創造～過去・現在・未来～ 三和酒造株式会社 藤本孝幸 立命館アジア太平洋大学 横山研治
12. 三和酒造が取り組む企業価値創造活動について 立命館アジア太平洋大学 藤本孝幸
13. 江戸時代の大分の医術 大分大学 島井 裕美子
14. 宗廟時代の南蛮音楽 大分県立芸術文化短期大学 小川伊作



◆成績評価 ミニレポート(70%)、課題レポート(30%)の累積。

ジェネリックスキル養成 1

前期 全8回1単位 担当教員：人間力開発センター長 吉村充功、特別講師 市田秀樹

～8大学等合同合同研修～
野外活動をベースとした体系的な活動を通じて、自己の理解と挑戦、他者への理解や役割、チームとして課題に立ち向かうことの重要性を学び、コンピテンシー能力を高めていきます。



- 第1回 オリエンテーション、チーム編成
- 第2回 アイスブレイク(室内研修)
- 第3回 ローエレメント研修(1)
- 第4回 ローエレメント研修(2)
- 第5回 初日のふり回り(ピーニング)
- 第6回 ハイエレメント研修(1)
- 第7回 ハイエレメント研修(2)
- 第8回 リフレクション(ふり回り)・全体総括



集中授業
9月上旬の平日(未定)
(1泊2日)
住吉浜リゾートパーク(杵築市)
<http://www.sumiyoshinama.com/>

- ・1年生のみ(高専は4年生)受講可能です(定員45名)。
- ・研修宿泊費は無料です。食費(4食)のみ実費負担です(1,500円程度)。
- ・日本文壇大学から大分駅、別府駅を経由する無料バスを運行予定です(往復)。

◆成績評価
①関心・意欲・態度 ②知識・理解 ③技能・表現・コミュニケーション ④思考・判断・創造
上記の観点で、成果物(ふり回り資料)とレポート、チーム活動での貢献度等から評価します。

ジェネリックスキル養成 2

後期 全8回1単位 担当教員：人間力開発センター長 吉村充功、特別講師 市田秀樹

～8大学等合同合同研修～
地域課題に対してチームで課題発見、解決策を考えるワークショップです！
他大学等の学生と一緒に知識を活用して問題解決する力を養成するとともに、大分について考えるきっかけにします。



- 第1回 オリエンテーション、チーム編成
- 第2回 資料の読解、共有(情報分析)
- 第3回 ディスカッション(1)(課題発見)
- 第4回 ディスカッション(2)(解決策の構想)
- 第5回 プレゼンテーション準備
- 第6回 プレゼンテーション(1)
- 第7回 プレゼンテーション(2)
- 第8回 リフレクション(振り返り)・全体総括



集中授業
2月下旬の平日(未定)
(1泊2日)
日本文壇大学 湯布院研修所
<http://nbu.co.jp/yufuin/>

- ・1年生のみ(高専は4年生)受講可能です(定員45名)。
- ・研修宿泊費は無料です。食費(4食)のみ実費負担です(1,500円程度)。
- ・日本文壇大学から大分駅、別府駅を経由する無料バスを運行予定です(往復)。

◆成績評価
①関心・意欲・態度 ②知識・理解 ③技能・表現・コミュニケーション ④思考・判断・創造
上記の観点で、成果物(パワーポイント資料)とプレゼンテーション、ワークショップでの貢献度等から評価します。

総合人間学

後期 全8回1単位 担当教員：看護学部 教授 藤内美保

～人間性育成の集大成～
人間として、または医療従事者として生きていくべき豊かな知性と感性を養う。



- 第1回 医療と報道 朝日新聞社岡山取材記者 中村道子
- 第2回 大学生のためのライフデザイン 九州大学大学院助教 佐藤剛史
- 第3回 生活習慣と健康 ～アルコール感受性遺伝子との関係～ 和歌山県立医科大学医学部教授 竹下達也
- 第4回 子どもの貧困対策 大分県子ども・家庭支援課課長 伊東雅人
- 第5回 山間地での高齢者との暮らしぶりを世界へ発信する 国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会会長 林浩昭
- 第6回 医療と仏教の協力 佐藤第二病院院長・総合大学教授(仏教) 田嶋正久
- 第7回 災害は忘れる暇なくやってくる ～熊本・大分地震と大雨～ 気象予報士・防災アドバイザー・環境教育アドバイザー 花高廣希
- 第8回 高齢者の緩和ケア 高齢者ケアの専門家・多文化看護学者 エンドオブライフケア看護教育協議会の老年看護指導者 CapstoneHealthcareGroup/PalliativeCareEssentialsの2つの医療法人の創設者、兼CEO 米国アリゾナ州立大学看護学部非常勤教員 Carol O.Long



国際健康コンシェルジュ養成講座

前期 全8回1単位 担当教員：医学部教授 穴井孝信 他

病気・外傷等に罹患した訪日観光客に対し、速やかな応急処置と重症度の判断が可能となる医学的な知識を学びます。それを踏まえ、病院、ホテルなどで使用する英語、中国語の基本文型を学び、想定される場面への対応及び適切な発音の修得を目的とします。



1. バイタルサインがとれるようになる。 新生児と子どもの主な疾病の知識を得る。
2. 女性特有の婦人科疾患と産科疾患の知識を得るとともに 性感染症と緊急避妊法の知識を得る。
3. 成人期・高齢期の疾患に関する知識を得る。
4. AED(Automated External Defibrillator)による 応急処置法を 会得するとともに心臓マッサージの手法を会得する。
5. 体調を崩した訪日観光客に呼びかけ、 応答する基本文型の英語を知り、発音練習を行う。
6. 日本人が国外で体調を崩した時に、ホテル、公共交通機関、病院などで使用する基本文型の英語を知り、発音練習を行う。
7. 中国語の発音規則と発声のやり方を知り、その発音練習を行う。
8. 体調を崩した訪日観光客に呼びかけ、 応答する基本文型の中国語を知り、発音練習を行う。



◆成績評価
講義：筆記試験(25%)、出席時のレポート(75%)
語学：講義中に作成する課題など(100%)

大分の地域資源

後期 全15回2単位 担当教員：准教授 鈴木雄清

豊富な地域資源を通して大分の成長や魅力を学び、大分のことをもっと調べたり、魅力を味わったりしようとするようになってもらうことを目的としています。



1. オリエンテーション 大分大学 鈴木雄清
2. 別府竹筒 福市竹筒会 福市 昌伯(昌孝)氏 遠布 宙氏
3. 別府八湯温泉道 別府市観光協会 塚本 一郎氏
4. 国東の七島園 くにさき七島園復興会事務局長 藤田 利彦氏 くにさき七島園復興会 総務 康弘氏 七島園工業なつつき 若切 千佳氏
5. 大分の農業(カボス栽培) カボス農業 工藤 高純氏・工藤 鶴子氏
6. 大分の農業2(しいたけ栽培) 国東森林組合 理事 清原 米蔵氏
7. 大分の産産 臼杵市歴史資料館館長 柴田 敏 氏
8. 大分と麦焼酎 新原醸造合資会社 藤原 淳一郎氏
9. 昭和の町 豊後高田市観光課観光振興推進室室長 水田 健二氏 豊後高田市観光まちづくり株式会社 日浦 勝彦氏
10. 昭和の町2 豊後高田市観光課観光振興推進室室長 水田 健二氏
11. 総まとめ
12. アイスブレイク
13. グループ活動
14. (9:30～16:50)
- 15.

集中授業(12～15回)
2月上旬土曜(未定)
ホルトホール大分
サテライトキャンパス
おおいだ講義室



知的財産入門

後期 全8回1単位 担当教員：法学部経済法務学 知的財産学専攻長 教授・弁護士 富田賢司

大分は地域ブランドなど、以前から知的財産に力を入れてきました。私達の身の回りにも知的財産は次山関係してあり、これからの時代には基本的な知識と考え方を覚えることが重要になってきています。実際の例を題材に、楽しく知的財産を学んでみませんか。



- 1日目
 - 10:20～11:50 「知的財産と知的財産権」
 - 12:50～14:20 「著作権」
- 2日目
 - 10:20～11:50 「特許入門(1)」
 - 12:50～14:20 「特許入門(2)」
 - 14:30～16:00 「発明とは？」
- 3日目 1月7日(土)
 - 10:20～11:50 「商標とブランド」
 - 12:50～14:20 「意匠とデザイン」
 - 14:30～16:00 「知的財産に関する疑問・質問とまとめ」



集中授業
12月上旬(未定)
ホルトホール大分
サテライトキャンパス
おおいだ講義室

知的財産は決して難しい「学問」ではありません。身近なことから知的財産をみつけながらたのしく理解をしていきます。自身の講義ではなく、受講者でディスカッションをしたり、質問をしたりしながら講義をすすめていきますので、積極的に参加して下さい。

◆成績評価 授業ごとの小レポート 50%、最終レポート 50%

<補助資料1> 高度化①「地域ブランディング」(試行) 実施報告書

1. 目的

本授業の目的は2つあり、「地域の利点、問題、克服するための課題、それら解決策」の鍵となる概念を適切に連結したコンセプトマップを踏まえ、主題提供者に一考の価値ありと判断してもらえレベルの解決策の提示ができることです。もう一つの目的は、地域課題解決型の学習(Field-problem Based Learning)を複数の学生と協調学習として展開することで、社会牽引人材に必須である「知識を介した他者との関係を構築」する学生のコミュニケーション能力の向上を目指しています。

2. 内容

本授業は、大分市・日田市・玖珠町の各地域・企業の抱える課題をフィールドワークで発見し、ブレインストーミングでアイデアを創出した。次にそのアイデアを実行可能レベルにするため、ステークホルダーの意見を反映しつつ、デザイン思考のフレームワークを持ってまとめた。最終的に、グループ学習により、地域等を活性化させる企画書をA0模造紙2枚作成した。

3. 具体的な到達目標

- 1) 企業の取組に参加して経済の動きと企業の経営戦略等を体験して課題を指摘し、企業自体の魅力発信や提供する商品・サービス企画を立案・提案することができる。(日田市グループ)
- 2) 地域の取組に参加して地域のまちづくりや特色ある産業を体験して課題を指摘し、地域の魅力発信や地域で取り組む企画を立案・提案することができる。(大分市・玖珠町グループ)
- 3) 必要で多様な情報分析から課題や特色を指摘して、課題解決の方策を提案することができる。
- 4) 組織や集団の一員として、他者の考えを受け入れて、自分の考えを他者に受け入れられる建設的な議論をすることができる。
- 5) 組織や社会の一員として、必要に応じた適切な修正や新しい発想を取り入れるなどして持続的な取組ができる。

4. 教材(テーマ)

- <大分市>平成31年度完成大分川ダム横の「道の駅」を活用した地域振興策
- <日田市>日田 若者に人気のシェアハウスを作るには
- <玖珠町>大麦の6次産品化による地域振興

5. 授業の展開

本授業は以下の手順で展開した。

1. オリエンテーション：ステークホルダーによる課題説明
2. フィールドワーク：真の課題の探索
3. グループワーク：真の課題の共有と解決策の提案

4. 中間発表：ステークホルダーによる提案の評価

5. 企画の作成：各地区でフレームワークを変えて行った。

大分市：SOWT分析・四面会議システム・プロトタイプ作成

日田市：ジグソー法等

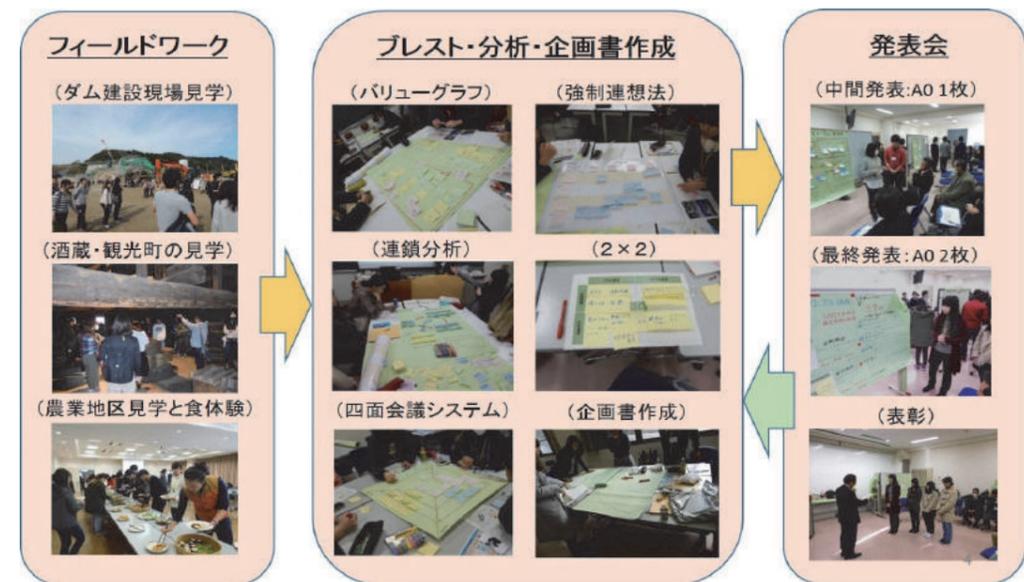
玖珠町：ステークホルダー指導・プロトタイプ作成

6. 最終発表：ステークホルダーによる企画の評価

7. 振り返り：学生による授業のブラッシュアップ(ティーチングポートフォリオ)

チームは学部・学年を混合させ、偏りをなくした。試験的に大分市のテーマに女性だけのチームを編成し、女子力による地域活性の可能性を模索した。

(図：地域ブランディング概要図)



6. 授業実践からの意見

【ステークホルダーからの意見(一例)】

(中間発表)

<大分市>

- 学生らしい視点で面白い。○女性ならではの着眼点が面白い。
- 空き家の民泊、学生バスの発想が面白い。○大学生が積極的になっている。
- 地域産品を使用するイベント提案発想がよい、面白い。

<日田市>

- 「恋愛の聖地」インパクトがあった。
- 相席バーは日田にはないと思うので、若者の定住、少子化対策につながる。
- 高齢者の多い地域に会っているアイデア。
- 「バーチャル日田暮らし」=体験 おもしろい! ○外国人(バックパッカー)を視野に入れた点。

< 玖珠町 >

- 若者（大学生）が参加しやすい流れ（若者の意見は宝！）○玖珠町グランドデザイン事業に連動してよい。○豆腐アイス・非常食のアイデアは素晴らしい。
- 製品開発から販売広報など実現性の高い企画となっている。

（最終発表）

< 大分市 >

- 学生らしいインパクトがあった。○カップル・家族を対象とした取組はよい。
- 実現性の高い面白いアイデアが有る。○良く調べてメニューなどを考えていた。
- 道の駅を拠点にアクセス等トータルの構成がよかった。○行政も課題である米粉にとりくんでいただいていた。
- 食フェス等、着眼点が良く調べられていた。

< 日田市 >

- 若者が集まりそうなお洒落な外観や内装、コンセプトが良い。
- コンセプトは捉えられていた。2, 3Fの活用も考えてもらえてよかった。○次代を担う子どもたちを対象にしているところがよい。お年寄活用もよい。
- 調査、分析データ（数値）を使用していたのがよかった。バックパッカーを対象にしている着眼点がよかった。和の雰囲気、祭りの体験が味わえるのが日田ファンを増やす有効手段の一つになると思った。
- 地域のイベントを活用してネットでの集客方法等が良かった。日田市以外の人に興味を持っていただき、日田の活性化につなげるアイデアが良かった。

< 玖珠町 >

- 農業にポイントを置いている点。○素晴らしい○「伐株山アイス」という具体的な提案
- 玖珠町は農業の町なので農業の活性化に向けた将来像の提案○何をどうするか明確で応用がきく。

【学生からの意見：一例】 （振り返りによるティーチングポートフォリオ）

* 学生による授業改善案として以下の3項目が上がった。

- ① フィールドワークのタイミング・回数の改善
- ② ステークホルダーとの交流・連携の増加
- ③ 各専門家への相談をしたい（商品開発・法律関係等）

* 対応として、平成 29 年度実施分より以下のことを行う。

- ① フィールドワークの回数を増やし、ステークホルダーとの交流を増加
- ② 経済学部・産学官連携推進機構の教員に協力要請し、専門相談に対応予定

（アンケート）

◇みんなで課題をみつけて解決に取り組めたことが大変よいものとなりました。

◇他学部との交流ができる・地域について知ることができる・別の視点を持つことができる・社会人に求められる説得力（どれだけ収支面の現実性が求められるか）を知ることができる点が良かったと思います。

◇学部や学年に関係なく意見を出し合いながら議論ができ良かったです。

◇学生のアイデアが尊重されるので良かったです。

◇自分たちで考え、ちがう学部や学年の人と交流を深め、自分の持っている案や意見を話し合う機会もなかなかないので、そういった点が良かった。

◇実際に利害関係者の方々と話をする機会が設けられており、実現に向けて具体的に検討できたように思います。また、学年を越え、意見を出し合い、お互いを高めあえてよかったと思います。

◇この授業を通し、玖珠の現状、またこれからについて調べて、現状における課題と解決策は何かを考えました。そして、それらを授業に参加している玖珠班のメンバーでまとめ、そのうえで玖珠の活性化につながる商品づくりの提案を行いました。これらの経験から、ヒトに自分の考えを伝える力や複数の人の考えを発表する力が身につく、さらには、地域活性化につながる活動とは何かを学ぶことができました。以上がこの授業をよいと思った点です。

◇大分の現状を良く知れる。グループワークなので、コミュニケーション力が身に付く。

◇班に分けて進められたので新しく人と交流ができた。

◇地域活性化について自分たちで考えるのは難しかったが、大きな経験になった。

◇本番の発表までに、班の人と協力して作り上げることができたことが良かった。

◇自ら学び考えることが面白いと思った。

◇今までの講義の中で一番おもしろかった。

◇この授業を通して、自分の成長につながれたと思うので参加して良かったです。

◇難しかったけど、自分達で調べ考えて取り組むことは少し自信につながりました。

7. 授業の効果

本授業の評価は以下の3つ方法で行った。

- ① 学生自身評価（自己チェックシート）
- ② ステークホルダー評価（審査・コメント）
- ③ 教員評価（授業中評価・審査）

※①③は個人評価、②はグループ評価となる。

学生自身評価（自己チェックシート※参照資料）

大分類10項目、小分類24項目のルーブリック評価の自己チェックシート（後述）を活用し、授業開始と授業終了後の伸び率を測定した。

24項目分析でレベルが1段階あった事項は以下の通りである。

（大分市）「目標設定」「行動を起こす」「創造力」「話し合う」「完遂」

（日田市）「創造力」

（玖珠町）「情報共有」

(各フレームワークと自己評価の上昇度)

地区	伸び率平均	大分類 (10項目)	小分類 (24項目)
四面会議システム (n=11)		7.7	17.3
ジグソー法 (n=9)		6.3	14.1
ステークホルダー指導 (n=12)		6	13.5

全アクティブ・ラーニング手法で伸びは確認された。その中で、フリーライダーを発生させない「四面会議システム(大分市班使用)」を用いたグループは成長度合いが大きかった。平成29年度では、「四面会議システム」を主軸に授業を展開する。

(1) ステークホルダー評価

1 地区あたり3人以上のステークホルダーで中間発表審査・最終発表審査を行った。

中間発表は、「アイデア」「資料」「内容」の項目、最終発表は「新規性・革新性・優位性」「実現可能性・将来性」「表現力」の項目で行われた。

(ステークホルダー審査：満点を100にしたときの点数)

	大分1	大分2	大分3	日田1	日田2	日田3	玖珠
中間発表(点)	76	75	68	66	68	62	78
最終発表(点)	78	67	69	65	58	73	82
合計	154	142	137	131	126	135	160

(2) 教員評価

「課題解決の目標や計画性があるか」「対人基礎力があるか」「ファシリテーション力があるか」「発案力があるか」の点につき、グループワーク中、机間巡視をおこないつつ、3段階評価を行った。また、最終的に①②の評価・出席数等を考慮し、総合的に評価を行った。

8. 具体的な到達目標への到達状況

①自己チェックシート基準の伸び率平均は、大分市「0.85」玖珠町「0.7」日田市「0.67」であった。平均1pt以上上がったものは、大分市「6人(60%)」玖珠町「2人(18%)」日田市「2人(25%)」であった。また、平均2pt以上上がったものは、玖珠町で1人いた。

②四面会議システムにより大分市グループはレベルが平均的に高くなった。一方、玖珠町はステークホルダー牽引型の授業展開だったため、フリーライダーが発生したが、ステークホルダーの意志を汲み取れる学生は平均2pt以上上がった。

今回は、試験的行ったが、35%程度の学生が平均1pt以上上がった。それに加味して、ステークホルダー評価・教員評価により、最後まで学習したほぼ全学生が到達目標に達したと判断している。平成29年度からは、スタートの時にある程度のレベルが確保されるので、より正確に到達率を算出できると思われる。

9. 見えてきた課題と改善点

- ①ステークホルダー指導では、フリーライダーが発生したと考えられる。但し、そのフリーライダーをカバーするように牽引型リーダー人材が生まれている。授業効果の測定結果とリーダー人材輩出の条件は必ずしも一致しないので、今後の検討課題である。
- ②ステークホルダーの審査差が生まれた。職業など背景が異なり、価値観も異なるため発生したと考えられる。地域間で差が激しくなった場合、統計を処理施すことを検討する。
- ③各地区2人の教員とCOC+CDにより審査を行った。大体、同じ評価であったが、机間巡視の個人評価は労力があるため、ミニレポートなどに変更するか検討する。

自己チェックシート	大学名									
	氏名								・研修前 上半分	
									・研修後 下半分	
大分類	小分類	説明	低	●	→	高				
考える力	課題発見力 課題の所在を明らかにし 必要な情報分析を行う	情報収集 人に聞いたり、書類やインターネットを用いて必要な情報を得る。	1	2	3	4	5			
		本質理解 思い込みや臆測にこだわらず、客観的に情報分析し、考慮できる。	1	2	3	4	5			
	計画立案力 課題解決のための 適切な計画を立てる	目標設定 ゴールを具体的にイメージし、他人に説明できる。	1	2	3	4	5			
		シナリオ構築 目標に近づくための方法を自分なりに考える事ができる。	1	2	3	4	5			
	実践力 実践行動をとる	行動を起こす 目標達成に向けて、自ら積極的に行動を起こすことができる。	1	2	3	4	5			
		修正・調整 状況や周囲の人の反応を見ながら、柔軟に計画を変更できる。	1	2	3	4	5			
	創造力 新しい価値を生み出す	創造力 異なるものを組み合わせる新しいものを生み出したり、従来のやり方とは違う方法を導いたり、異なる視点から考えたりする。	1	2	3	4	5			
			1	2	3	4	5			
	人とよい関係をつくる力	親和力 豊かな関係を築く	親しみ易さ 初対面の人でも容易に和やかな関係を作る。話しかけられやすい。	1	2	3	4	5		
			気配り 相手の立場になって考える。自然に気遣いができる。	1	2	3	4	5		
対人興味 共感・受容			相手の話に興味を持ち表情や態度も使って聞くことができる。 相手の感情を受け止め理解していることを態度や言葉で示す。	1	2	3	4	5		
多様性理解 自分と異なる意見や価値観を尊重し、理解しようとする。			1	2	3	4	5			
協働力 目標に向かって協力的に 仕事を進める		役割理解 連帯行動	集団の中で自分の役割を果たしつつ、周囲と協力する。	1	2	3	4	5		
		情報共有	自らすすんで情報を周囲に伝え、周囲からも有用な情報を得る。	1	2	3	4	5		
		相互支援	周囲の状況に気を配り、タイミング良く手助けができる。	1	2	3	4	5		
統率力 場をよみ組織を動かす		話し合う	話し合いの場に積極的に参加し発言する。	1	2	3	4	5		
		意見を主張する	意見が対立しても妥協せず粘り強く主張することができる。	1	2	3	4	5		
		建設的 創造的な討議	議論が活発になるように自ら働きかける。全員に意見を促す。	1	2	3	4	5		
自分自身を伸ばす力	感情制御力 気持ちの揺れを制御する	セルフ コントロール	自分の感情(怒りや焦り、不安など)を冷静に鎮め、表現できる。	1	2	3	4	5		
		ストレス コーピング	落ち込むことがあっても、前向きに気持ちを切り替える。	1	2	3	4	5		
	自信創出力 前向きな考え方や やる気を維持する	独自性理解	自分の長所・短所を把握し、物事に取り組むことができる。	1	2	3	4	5		
		自己効力感 楽観性	何事もやってみないとわからないと、挑戦する姿勢を持っている。	1	2	3	4	5		
	行動持続力 主体的に動き 良い行動を習慣づける	主体的行動	任されたことを自分で判断しながら物事に取り組む事ができる。	1	2	3	4	5		
		完遂	何事も途中で投げ出さない。粘り強く最後までやり遂げる。	1	2	3	4	5		
		遵法性 社会性	社会のルールや人との約束を守る。	1	2	3	4	5		

＜補助資料 2＞高度化②「利益共有型インターンシップ（地域豊じょう型）」 （試行）実績報告書

1. 基本的な考え方

高度化教養②の本講義は、学内で実施する教養教育ではなく、地域（農山村や漁村など）に出向いて行う学外での実践型PBLである。本講義の他にも高度化教養②には、利益共有型インターンシップ（企業型）と高度化学習ボランティアがある。高度化教養②の3科目全てがOff Campus型の地域・企業連携講義としてPBLを少人数で行う。本講義は、10日～2週間程度の学生と教員が共に宿泊しながら地域と深く触れ合う活動であり、教員は、学生と同じ釜の飯を食べ、同じ湯船につかり、一つ屋根のもとに寝る環境のおかげで、学生の人格や個性を把握しやすくなる。教員は、異なる学部の学生から構成されるチーム活動を学生の肩越しに眺めながらもチームの自主性を尊重して適切に主役の学生を支援しながら導き、地域に「見える化」された成果物作成に向けて学生と一緒に知恵を絞りながら共に活動する。学生は、次の①～⑤の流れを経験する。

- ①地域現場に足を運んで住民との触れ合いからハードな見える地域資源とソフトな見えない地域資源の双方を見いだす行動から、地域の多様な事実Factsを集める。（今あるものをみつけ、それがなぜかをまず把握する）
- ②それらを自らの言葉で表現し、分析・構造化して、地域課題とその長所を把握する。
- ③地域の主体性を尊重しながら、地域に利益が生まれるための「根拠がある仮説」を立てる。
- ④その案を住民に「見える化」して呈示説明する。
- ⑤学外での活動への準備期間と実施期間中の危機管理（自己と他者の物理的側面と精神的側面の双方）についても学生が実践を積む。

講義を担当する教員は、1. 異質集団（公共圏他者である他学部の学生や地域住民）の中でのやりとりで問いをたて、2. 解決するプロセスにおける推論と仮説の形成、3. 解決に必要な知識の調査分析を通じた創造的、論理的、批判的な思考、4. 地域住民と接し行動する際の「判断」決定、5. 筋道が明確で判りやすい仮説や成果を「言語化する」ことの経験が組み込まれるようにPBLを設計する。さらに、アウトカムとして連携先の地域のために質の高い成果物のみを目指すのではなく、学生の教育効果、例えば、異なる文理融合した学部の学生が、協働作業を通じて同じ成果を目指すプロセス（チームとしての結成期 => 混乱期 => 模範期 => 達成期などの）の経験も積むように講義を意識する。

表1. 高度化教養②の活動において、教員が、学生と地域に開講前のより早い時期に伝えるべき内容

(a)	大学教育として期待する学生の成長は何か
(b)	受け入れ組織や地域にとっての想定している利点と限界点（期待値）は何か
(c)	講義が目指している核となる目的と具体的な目標項目（学生、地域、教員の三者の視点）

学生と指導教員が協働して真摯な姿勢で地域と接し、問いをたて、地域に受け入れてもらえる形で見える化した成果物を受け入れ先に示す。このためには、地域住民から「頑張ってますね」の意見しかでないレベルから一歩進んで、「こんな内容では良くない」などの建設的だが否定的な意見が出始めるように教員が取り組み全体を支援することが必要である。当然、学生の成長だけでなく、受け入れ組織側にも我がこととして利益を感じてもらえる活動となるように働きかけることも必要となる。また、学生に加えて連携先の地域にも上記の表1(a)～(c)を講義開始前に明確に伝え理解してもらうことが必須である。

高度化教養①「地域ブランディング」と高度化教養②2016 利益共有型中長期インターンシップ（地域豊じょう型）の最も大きな差は、次の2点である：

- (1) 主な講義活動の**ほぼ全て**が学内でなく学外で地域住民と深く関与したものか否か。
- (2) 地域課題を学生自ら探索するのか、それとも与えられるのか。

課題が地域に潜在している場合、答えが無い（Open End）問いに対する解決のための筋道を見通すことができないと地域の本質をついた問いをたてることはできない。このため、講義における（2）の問いをたてる過程の有無は学生にとっては極めて大きな教育効果の差となる。

2. 実施した利益共有型インターンシップ（地域豊じょう型）（試行）活動の概要

大学キャンパス外の過疎地域などの現場において、地域のキーパーソン、鍵となる組織の方々、地域一般住民らとの密なコミュニケーションにより、地域の信頼を得ながら、訪問地域の特徴（良い点と悪い点の双方）を数名の学生チームとして収集する。11人の学生と教員1人が、役割分担で自炊した同じ釜の飯を食べ、同じ湯船につかり、地域の方々との夜なべ談義なども取り入れた8泊14日（5回の訪問）を一つ屋根の下で共に過ごす時間と空間の中で、学生中心の話し合いを深める。訪問先の玖珠八幡の課題をつかんだ上で、学生が感じとった八幡地域の魅力を言語化（言葉、絵、模式図、写真など）し、それを都市住民に対して広報紹介するパンフレット（住民にも受け入れてもらえる成果物）として作成することを具体的な目に見える目標とした。

試作途中のパンフレットの間評価を地域のキーパーソンから受け、それらコメントを修正し、地域からの最終評価を住民の約4割が参加する地域文化祭において学生による発表をおこなった。数名の地域の評価者からそれに対して不特定多数の住民からルーブリック評価表による評価をやってもらった。また、これらの活動の中で、学生は、社会人の住民からの聞き取り調査に加えて、全校生徒数35人の地域中学生の数学の問題などを一緒に解いたり、中学生チームと大学生チームとのバレーボール交流を通じて、地域の次の世代層からの情報を得た。情報収集とそれらの分析による得た情報の構造化（ストーリー化）、ならびに、成果物作成の方針とその根拠出しは3～4人一チームとして役割を分担し、協働作業で対処した。学生には、チームで仕事を成し遂げる一連の過程「結成期、混乱期、規範期、達成期」における仲間との葛藤や甘えからの脱却とやる覚悟を決めること、さらに、仲間とまとまって同じ目標をやり遂げようとする充実感を実経験させたと学生の振り返りシートから確認している。

評価は、成果物発表に対する地域のキーパーソン、住民の方のルーブリック評価とコメント、指導教員からみたタスクに対する主体性、仲間や地域住民に対する主体性、チーム作業への貢献度を軸に総合的に評価した。

3. 授業のねらい（講義の意義）

地域と学生に呈示したミッション

学生が分析した地域の課題を理解した上で、地域の良い魅力を言語化（言葉、絵、模式図、写真など）し、それを都市住民に対して広報紹介するパンフレット（住民にも受け入れてもらえる成果物）として作成すること。その際、地域のキーパーソンから、忠告や意見を受けながら作成すること。

意義1

未来の地域創生人材を育成するために、学生は、人口減少に悩んでいる農山村・漁村や町などの地域の課題とその資源の原石（ハードな目に見える特産物や構造物などのもの、ソフトな地域の不文律などの文化、コミュニティ活動、人々の気質、組織のまとまりなど）を住民との交流から見だし、その解決策を「見える化」した成果物を言語化して説明することを経験する。この地域創生のプレ体験により、学生は、地域への愛着や誇りといった「ローカル・アイデンティティ」を深めながら、初めての地

域に、見ず知らずの年配者と情報のやりとりをすることに一步踏み込む主体性を高めることもねらいである。

意義2

受け入れ地域にとっても「若者」が過疎地域に集い住民と交流することで、具体的な地域課題の解決策の案が提示されることに加えて、地域住民が気付かなかった地域の特徴を発見する機会が増し、地域の主体性や連帯感が高まり、さらに、これまで接触したことが無かった地域内外の多様な人々との交流場が生まれる。この地域連携教育活動で、学生のコミュニケーション力や一步踏み出す姿勢が高まることに加え、地域の主体性が増し、地域から大学がこれまで以上に無くてはならない存在として信頼されるようになることが二つ目のねらいである。

4. 具体的な到達目標

- ・現場で得た情報や心が揺さぶられた状況を言語化し、チーム活動を通じて構造化できること。
- ・現場活動により自分自身と社会の課題がつながること — 地域社会に当事者意識を持てること。
- ・見ず知らずの地域住民と交流し、それをチームの協働作業でまとめ発表する挑戦を通じて生み出した目に見える成果とみえない成果を言語化して、相手に伝えることができること。
- ・地域と触れ合う挑戦を通じて得た学びや気づきは何か、さらに、今後の自分の成長の目標を言語化して説明できること。
- ・「地域は何を喜ぶのか」と「自分はどんな想いを届けたかったのか」を言葉で説明すること。
- ・チームとして自発的に危機管理計画を立案し、それを実施できること。

5. 講義の具体的な項目

講義担当者	工学部（現 理工学部）教授 石川 雄一
連携地域と担当者	玖珠町八幡地域、八幡自治会館館長と館員、地域の教育委員、八幡中学校校長、八幡自治会館と大分大学で講義の契約書を交わしている。
実施時期と活動形態	土日と祝祭日、春休み期間、宿泊型で合計10日～14日間の活動学生と一緒に指導教員も宿泊しチームで活動する。
学生数	最大10名、最適6名（チームとして効果的に、安全に活動する人数） （実際に参加した学生は、経済学部、教育福祉科学部、工学部の合計11人）
チームの編成	活動の前半では、2～3人一組で地域住民を訪問し情報収集と分析を行う。活動の後半では、地域の教育担当、歴史担当、農業名人の担当、空き家担当班に別れて活動。講義担当者は、学生の肩越しと一緒に取材や分析活動を支援、補助する。
対象学部	全学部（理系と文系の混合とする） ・看護、医学、福祉系の学生も将来の過疎現場のプレ体験となる。 ・理系学部の内気な学生もコミュニケーションの鍛錬となる。
対象学年	2年生～4年（2018年度以降は、1年生の後期での受講も可能となるように検討したいが、1年生では専門知識が不足していること、3年生では専門科目の履修で教養科目の履修が困難になりやすいことから、2年生での受講をすすめる）

受講者の要件	2017年度以降の実施においては基盤教養科目の2科目4単位以上を履修していること。さらに、高度化教養科目①「地域ブランディング」科目に合格した（履修している）ことが望ましい。受講申し込み者の面接を実施し、これまでのGPA、出席状況、主体性、志望動機などを総合的に考慮して学生数の絞り込みを行う。
学生の負担経費	各自の食事代、入浴費などは個人負担、宿泊費と交通費については負担なし
食事、掃除	参加者全員で自炊し、掃除する
現地での交通	COC+推進機構保有の自転車と徒歩で現場を回る
加入すべき保険	入学時に加入した保険に加えて、参加者自身が地域に対して加害した場合の保険（数百円）を学生支援課で申し込む。
注意事項	「匠」認証のためには、高度化教養①地域ブランディングと一つの高度化教養②の双方の合格が不可欠になる。

6. 授業評価

6-1. 学生の評価におけるルーブリック評価の活用について。

本講義は、教員1人で6人前後（多くても10人ほど）の現場活動、情報分析、成果物作成の補助などを担当する。また、参加学生の本講義に臨む姿勢、成績なども事前に個別面接などを通じて確認し、問題がない学生のみを受講とする。ルーブリック評価表は、評価すべき学生数が多い場合に一定の基準で公平に判断する際に有効である反面、記述された項目のみの評価に限定される欠点がある。また、評価をする者が評価のための情報集めに時間と注意力を奪われてしまい、教員として肝心な地域に貢献する活動や、学生の多面的な教育支援を行うことが制限されてしまう可能性が高まる。このため、利益共有型インターンシップ（地域豊じょう型）では、教員自身はルーブリック型の評価を実施しない。やる気も質も優れた少人数の学生の行動を良く直接観察し、地域の方の評価と、学生自身の言語化した振り返りを総合的に教員が評価する。地域の方が学生の成果物発表に対して評価する場合には、単純化したルーブリック評価表とコメントを利用する。

6-2. 具体的な成績評価の内容及び評価割合の目安

- ①地域と住民に対する主体性、グループ目標に対する主体性、自己に対する主体性 4割
- ②収集したデータの構造（ストーリー）化と課題の質（本質をつかんだものか）、成果物が地域の方に良い影響を与えたかどうか（地域の方によるルーブリック評価） 4割
- ③振り返り時の自己の考えの言語化 2割

6-3. 地域の方によるルーブリック評価

本講義の成果物のたたき台（試作段階にある地域を年に紹介するパンフレット案）を、地域自治会館の役員、地域中学校教員、有識者ら10人程度に対して発表し評価やコメントなどを受けた。コメントを基に学生がたたき台を修正し、地域の住民1/4が参加する3月の日曜に実施される地域文化祭において住民の方に成果物の発表を実施した。その際、ルーブリックを用いて71名の住民が学生の取り組みを評価した。地域住民が用いたルーブリック評価表と質問項目を表2にまとめている。

表2. 地域住民が使用したルーブリック評価。星一つ半（1.5）など記述。満点は星三つ、最低は星ゼロ。

☆☆☆ 3	☆☆ 2	☆ 1
八幡での調査から得た複数の事実を、学生視点でストーリー（構造）化し、地域の社会問題に当事者意識を持って考えている。さらに、地域の短所を意識しながら、その長所を活用することで、 <u>地域内の人も変わるうと実感させ、地域外の人にとっても八幡に行ってみようかと感じさせる</u> 内容になっている。	八幡の住民から聞き取った複数の事実を、学生独自の頭の中でその意味を考え、複数の地域の事実の関係をストーリー化し、地域外の人にとっても「八幡に行ってみようか」と感じさせる成果物をつくらうと <u>努力している</u> と判断できる。	地域の住民から聞き取った内容を、学生自身が咀嚼して自分の中で意味付けをしないまま、そのまま単にまとめたものである。 (調べたことを単に伝えているだけである。八幡での活動体験を紹介しているだけで、地域の社会問題に学生が取り組もうとすることに役立っていない。)

さらに、ルーブリック評価と同時に、下記の二つの質問に対する回答も学生の総合評価に活用した。最終発表を聞き、ルーブリック評価を行った地域住民への二つの質問。

Q.1 パンフレットは、皆様方の何かを変えましたでしょうか。

大きく変わった ・ 変わった ・ 特に変わらなかった

Q.2 このパンフレットを福岡天神や東京に置いてもよろしいでしょうか。

是非置いた方が良く ・ 置いてもいい ・ 置かない方が良く

6-4. 学生による振り返り内容

次の二つの目標について言語化するために最終成果発表の半月後、大学内で2時間程度の振り返りを行った。

- ・ 地域と触れ合う挑戦を通じて得た学びや気づきは何か、さらに、今後の自分の成長の目標を言語化して説明できること。
- ・ 「地域は何を喜ぶのか」と「自分はどんな想いを届けたかったのか」を言葉で説明すること。

<振り返りのための質問 - 言語化して共有しよう>

質問1. 昨年の9月に、この科目で何をやろうと思いましたか(目的)

質問2. (個人)八幡での活動で心に残る挑戦したことを次の項目に沿って書いてください。

- ・ 挑戦期間(継続したい方はいつまでか)
- ・ 取り組みの内容(ミッション、眺望ビジョン、対象とする人かもの、商品、サービス)
- ・ 全体中での自分の役割(取り組みの背景と目的も)
- ・ 挑戦先で自分が生み出した目に見える成果は?箇条書きで。
- ・ 挑戦先で自分が生み出した、目には見えないが大事な成果は?
(仲間との連携が深くなったとかなど)

質問3. 八幡での挑戦の経験から得た、自分中での最も大きな学びや気づきは?

(なぜ気づきなのか、なぜ学びなのか言語化しておこう)

質問4. その学びや気づきを得たのは、八幡での挑戦の中でどんなタイミングや出来事からですか?状況が第三者にも簡単にわかるエピソードを交えて言語化してください。

質問5. 八幡での挑戦を通じて悔しかったこと、もっとこうすれば良かったことを言葉にしてください。(なぜ悔しい、なぜもっとやりたいと考えているのでしょうか)

質問6. 八幡での挑戦の前と後で自分の何が変化したでしょうか?心、考え方、行動特性、地域の眺め方、将来の志向性、仕事観など。

質問7. 八幡での挑戦中に会った方で「すごい、尊敬する」と思った人に共通する想い、行動特性、考え方はどのようなものでしたか。その方と自分を比較して何が大きく異なると理解しましたか。

質問8. 仕事は、「顧客×価値=対価(給与)」です。みなさんは、どんな価値を、どんな人に提供するプロになり、社会をどう変えていきたい(実現したい社会は何)ですか?(現時点での大切にしたい自分の価値観を言語化するものです)

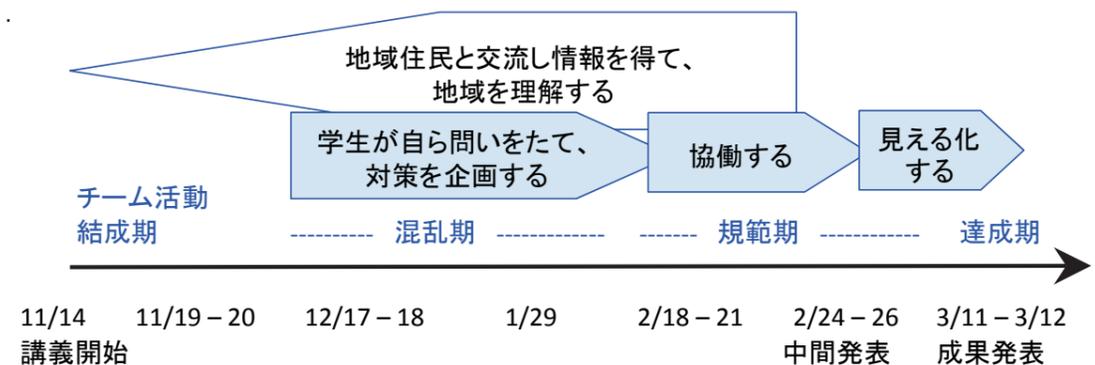
質問9. 今の自分に必要な行動アクションは何ですか?

7. 講義の展開の基本

7-1. 学期内での講義の流れ

2016年度の活動は、まず、1. 地域住民との交流から入り下記の地域資源を理解する活動を開始した(チーム結成期)。次いで、2. 何を軸として活動を行うのか全員で大変に迷いながら話し合い、学生が「教育、農業の達人、歴史、空き家」の視点で地域の魅力を深掘りすることに決定した(チーム混乱期)。3. どのようにまとめるのか、学生同士、地域住民との夜なべ談議などで協働することで成果のまとめ方を絞り込んだ。最後に、4. 学生がそれらを成果物として「見える化」する協働作業をおこなった。この最後の時期は、一人ひとりが深いエンゲージメント(のめり込んだ忘我)の状態にあり、全員が一つにまとまり、学生同士で鼓舞しながら協働作業を展開する時期となった(チーム達成期)。これらの一連の流れを模式的に図1に示している。この、「理解する、企画する、協働する、見える化する」一連の流れは、どの地域の取り組みでも同様に適用される。

図1.



講義の流れにおける「理解する、企画する、協働する、見える化する」流れとチーム活動の変遷を時系列として表記。地域資源としては下記の群を使用した。

- ①文化資源(工芸、神社、祭り、芸能、歴史)
- ②自然資源(特産物、山、河川、農地、寒暖差、気温、降雨)
- ③人工資源(施設、道の駅や協働販売所、廃校、道路、自衛隊の存在、営利企業)
- ④社会資源(公民館活動、人のネットワーク、地域の不文律ルール、地域の階層性: 集落、町内会、自治体、行政区、学校区、消防団、民政区域、NPO、社協、子供会など)

表3. 図1の終了が下記の第1段階である場合、本講義を本気で「地域づくり」に展開させる一例。学生の成長目的だけで満足して学期のみの取り組みで地域連携教育を終わせるのか、継続することで本当に地域事業につなげるのか、適切な時期に状況を見極めて決断する必要がある。

	実施目標	取り組みの例
第1段階	地域実態の把握(図1の見える化直後) (「みえる/みえない」地域資源の探索、課題の設定など)	学生と教員の目から見た資源写真地図など
第2段階	地域住民の主体性を深める	住民による「意見地図」や「資源写真地図」

第3段階	事業リーダーの発掘と体制づくり	住民と大学が協働した「アイデア地図」
第4段階	地域の新事業の目的と合意形成	大学と地域との議論展開

7-2. 講義終了後の地域との協働展開

本講義を一学期内の図1の流れだけで終わらせるのか、それとも本講義の「みえる／みえない」成果を本気で地域づくりにつなげるのかを、受け入れ地域も交えて講義終了段階で見極める必要がある。本講義の成果をさらに展開して地域の「ことづくり／ものづくり」事業に展開させる場合に必要段階的な取り組み案の一例を表3に示している。

「人が変わり、地域が変わり、未来が変わるのです」

(玉沖仁美著、地域をプロデュースする仕事、英司出版(株)、2015年第2版、190ページ)とされている。地域づくりの主役は地域であり、大学や学生ではない。大学と学生は、あくまでも触媒としての関与である。このため、学生が地域に入り刺激を与えた第1段階の次には、住民自身の本気とやる気を高め、傍観からの脱却のための取り組みが第2段階として必要となる。その場合、住民参加型の取り組みを学生と教員が黒子になり実施する。次いで、住民と学生が協働して作業する第3段階を経て、「ものづくり一人づくりーしくみづくり」に取り組む第4段階へと変遷する。この第4段階の「ものづくり」では地域の資源を活かした地域経済を回す活動を行い、「人づくり」は主体的に考えて「ことづくり」活動続けるキーパーソンを育成し、「しくみづくり」は人が入れ替わっても回り続け、成功を持続できるシステムづくりである。

大学が教養の講義として実際に表3のどこまで地域と取り組むことが可能なのか、受け入れ地域とも良く協議して取り組みについて決断する必要がある。この判断の際に、考慮すべき一つの観点を模式的に図2にまとめている。本講義名の一部として利用している「利益共有型」であるためには、学生と地域の双方のやる気、本気が必要なことを描いている。また、異質で多様な能力を持つ人を上手く結びつけ、適切なタイミングで地域の活動のスイッチを入れる人物の存在も重要な因子となる。

7-3. 2016年度に実施した具体的な活動内容

2016年の11月中旬から月1～2回のペースで宿泊滞在活動を展開し、後期の定期試験終了後の春休みの2月下旬に3泊4日と2泊3日の活動で中間発表と地域からの評価を受け、教務係にはこの時点で成績を提出した。地域への学生の最終発表は、八幡地域の住民の1/4が参加する地域文化祭が2017年3月12日に開催されるため、その文化祭での発表を地域での最終活動とした。少し時間を空け、卒業式をはさんで入学式の前に本講義の振り返りを参加者で共有し、そこで本講義の活動に区切りをつけた。下記の表4は、2016年度後期に玖珠八幡地域で実施した本講義の取り組みの具体的な講義過程を時系列に沿ってまとめている。

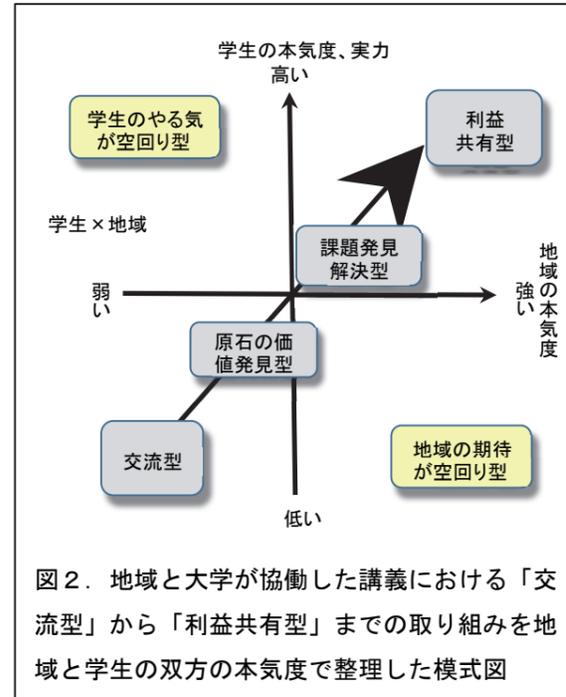


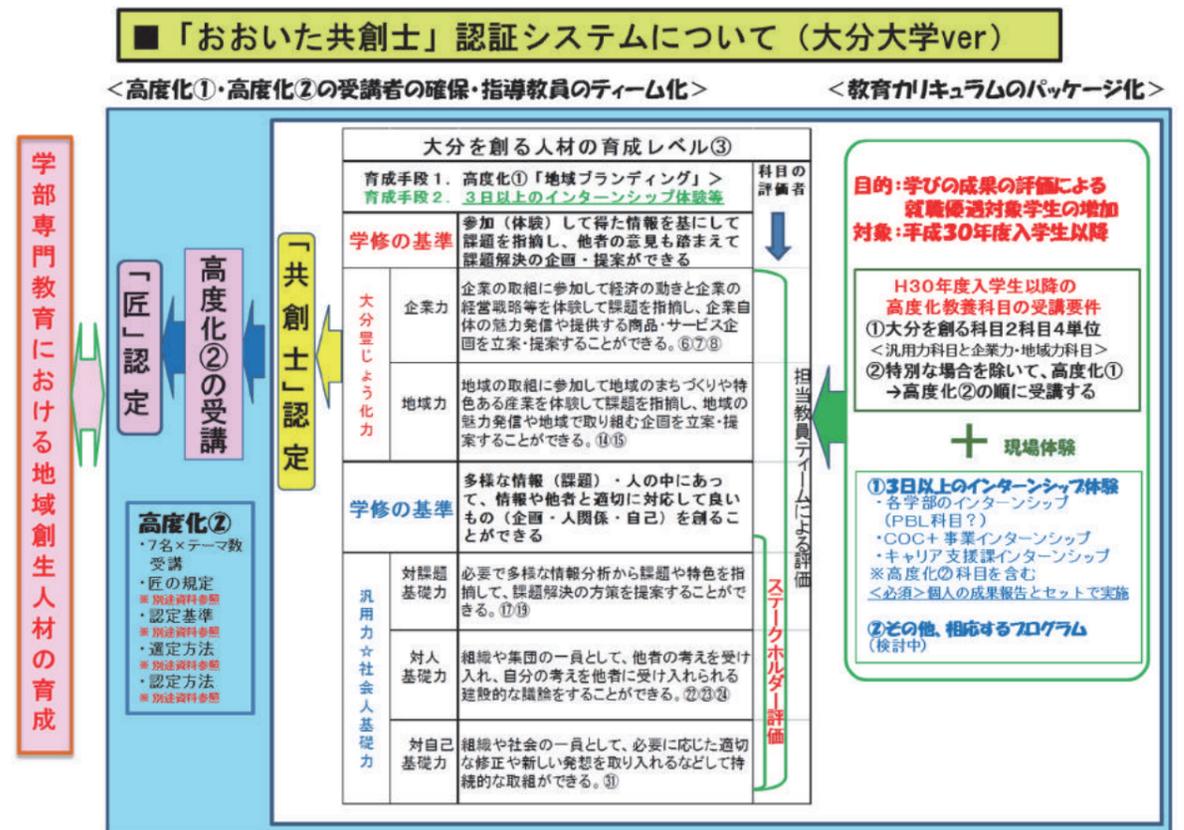
図2. 地域と大学が協働した講義における「交流型」から「利益共有型」までの取り組みを地域と学生の双方の本気度で整理した模式図

表4. 具体的な講義の過程

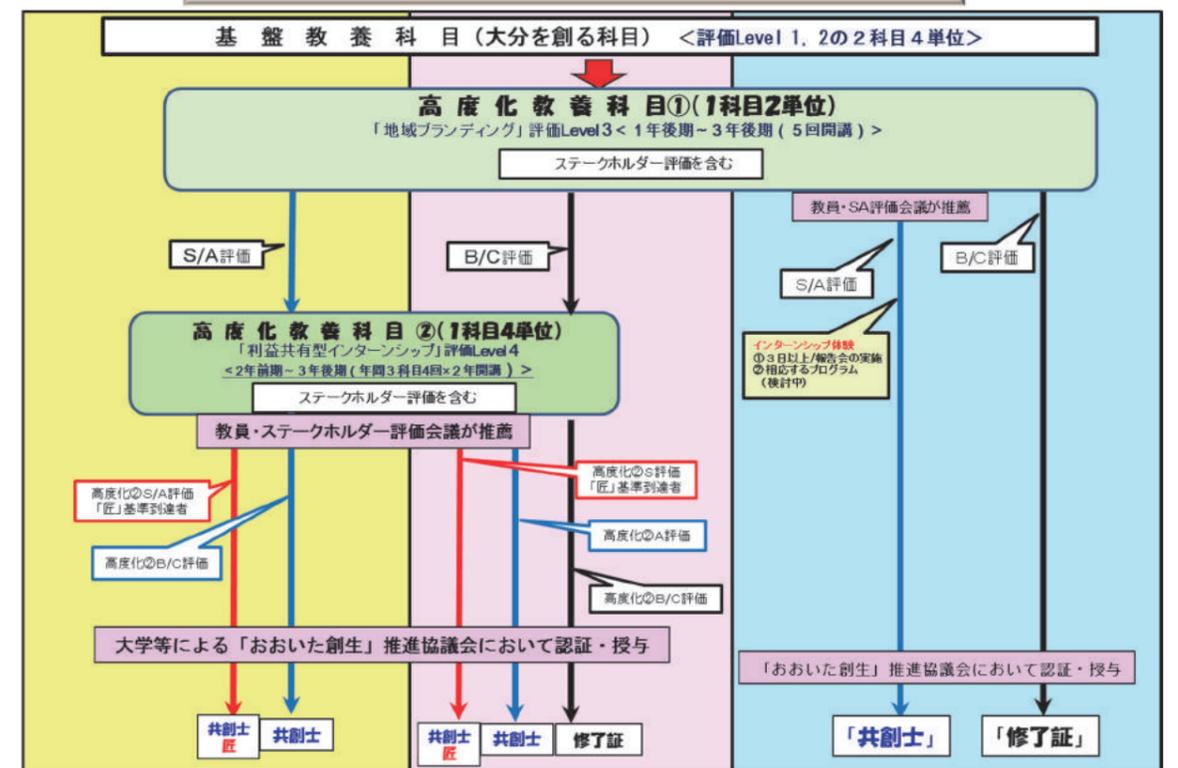
日時	実施項目	活動種別	効果と結果
2016/11/14 1回目 大学内でのオリエンテーションと事前学習など	①参加直前の汎用力の自己評価実施(共通シート) ②「玖珠町まち・ひと・しごと創生戦略」統計分析の読み込み ③農業を主な経済とした中山間地の事例をジグソー学習法でグループ学習	事前説明 — 地域理解	①活動前の自分の汎用力を自覚する ②玖珠町役場が内閣府に提出した行政が考えている地域の創生計画を理解する ③限界集落や、農業を軸とした人口減少地域で活躍されているいくつかのパターンを知る
11/19～20 2回目 1泊2日	①受け入れの八幡自治会館、地域の教育委員との交流、地域キーパーソンへの挨拶訪問、地域の地理観察 ②休園幼稚園を宿泊地とした自炊などの協働活動開始 ③日曜の朝1時間半程度、八幡中学の生徒へ数学などを教える ④地域住民宅の個別訪問ヒアリング調査	訪問ヒアリング 中学生との勉強支援による交流 — 地域理解	①地域をリードする人と地域組織などを知る ②人口減少の現実を肌感覚で体感する ③地域の次世代とその保護者との心の障壁を下げ、スムーズな交流を図る ④不安とドキドキ感を乗り越えて井坪踏み込んだ地域活動を開始し、やればできることを体感する
12/17～18 3回目 1泊2日	①前回訪問で得た情報を基に訪問先を絞り込み、個人宅への訪問聞き取り調査 ②日曜の朝1時間半程度、八幡中学の生徒へ数学などを教えることから次の世代とその保護者との交流を図る ③宿泊地に4人のキーパーソンをお呼びして夜なべ談義実施 ④大学に戻ってからの振り返りで次の活動で何を調査するか明確にする	訪問ヒアリング 住民との夜なべ談義 — 地域理解	①と②は上記と同じ ③Uターンのお寺のご住職、電気店のご主人、カフェ経営のIターン夫婦、日本一のバラ作り名人の4人となぜ今ここでやっているのか、お昼の個別訪問では聞けないリアルな話から、全員の学生が地域の人の「なぜ/どのように」に関する点について触れることができる ④地域の長所と同時に問題点のコンセプトマップ作成を課題とすることになる
1/29 4回目日帰り	①玖珠の農業者集団、八幡自治会館職員の方とのヒアリング調査 ②大学に戻ってからの何を着地点にして、どのように地域を紹介するパンフレット作成に落とし込んでいくのか議論	住民との宿泊所でのお昼の談議 — 地域理解と企画案の模索を苦悩	①行政ではないが、地域をリードしている活動組織である「八幡自治会館のしくみ」について情報を入手する。また、玖珠町の農業集団から玖珠のアグリ経済について情報を得た ②教育歴史文化、空き家活用の移住者促進、全国レベルの農業名人、地域資源地図のデザインに別れて活動することに方針決定

2/18~21 5回目 3泊4日	①4班に分かれてデータ不足点の訪問調査 ②自治会館役員会議への出席ヒアリングと、地域の創生事業調査対象者との夜なべ談義 ③収集した情報を基にした地域に訴求する物語の見える化開始	不足情報の収集 企画モデルを苦しみながら協働	①目標を定めた情報収集ヒアリングへ展開 ②地域のリーダー役の議論に参加することで地域課題との距離を縮める ③学生同士の協働作業が深まる
2/24~26 6回目 2泊3日	①目標とした地域を都市に紹介するパンフレット案の地域役員の方への中間発表 ②熊本県立大学のPBL学生と情報交換 ③全校生徒35人の八幡中学校の生徒チームと大学生とのバレーボールの試合による交流会	企画案の地域の方による中間評価 隣県のPBL実施学生との交流会 協働の充実	①三つ星が最高とする評価で「活動は星三つだが、中身は一つ星」と期待を込めて厳しめの評価をされる。これを受けて最終発表へ修正に入る ②他学の同様な活動を展開している学生からのアドバイスで学生が鼓舞された ③中学校をあげての大学生とのスポーツ交流会となった
3/11~12 7回目 1泊2日	①3/11までに、八幡自治会館に対し、学生が作成した地域に呈示する最終成果物の案へのコメントと修正を繰り返し願う ②文化祭前日の宿泊所で深夜3時前後まで最終発表案の訂正加工と発表練習を全員で自発的に実施する ③地域の一般住民も交えた71名から成果物に対してルーブリックとアンケート評価を受ける	地域の方へ見える化した成果物の呈示	①地域自治会館役員の方々と大学生との精神的距離が非常に近くなった ②学生の八幡地域への愛着が増している ③発表に向けた協働作業を「大学に入ってから3年間で最も充実している時間である」と表現する学生がでるほど取り組みに対して深いエンゲージメント状態であった ③地域の方も学生の活動により地域を見直すきっかけになっている
4/4 1コマ振り返り	6-4節で示した振り返りシートの実施	体験の言語化	今の自分を認識し、今後の自分に必要なものを言語化して、学生同士が共有できた

<補助資料3> 「おおいた共創士」認証システム



「おおいた共創士」認証の履修の流れ



＜補助資料4＞＊協働開発科目「初年次地域キャリアデザインワークショップ」

Carrier Design Workshop in Oita for Freshperson

1. 授業の概要

(1) 大分県の現状について

大分県は、温泉などの観光とものづくり地域であるため、県内への若者就職数の増加にはこれら2つの産業の活性化が不可欠である。さらに、大分県の企業の99.9%（中小企業白書、中小企業庁）は中小企業であるため、中小企業の経営者自身が気づいていない自社の使えるコンテンツをビジネスに新しくつなげる等の中小企業の新事業立ち上げ支援策も必要となっている。加えて、広大な農山漁村の過疎エリアを大分県は持つ。このため、過疎地の農山漁村における特産品の6次産業化とそのブランド化がうたわれている。しかし、この過疎地では、情報発信力不足、ブランド力不足、観光×農、観光×医療などにおける人の心を揺り動かす企画力の不足などが大きな壁となっている。さらに、出生率の低下と人口流出も拍車をかける形で、地域特産品や6次産品を全国や世界に向けてICTで知らせる地域ブランディングがほとんど上手く展開できていない問題を抱えている。ムラを全国に世界につなげる人材の育成と、その人材が都市と連携しながら地域コミュニティーのなかで生活を継続することが課題である。そのため、地域社会・企業組織が主体的に取り組む事業の支援を通じて、「地方創生」を担い支える人材の育成にある。

(2) 授業のねらいや構成について

本授業では、学生がキャリアデザイン力の育成をとおして大学での学びの価値を理解し、そのための学びを保証する授業を行うことが重要である。そのために、初年次教育において、学生自身が自ら学びを考えて、自分自身で学びの授業を作っていく教育過程を構成することとする。そのことによって、本授業で「大学教育での学びのステップを自分自身で身につける」ことを目指すものである。その学びの中で「大分」を教材として、大分地域での就業意識を醸成することをねらいとする。そのためには、これまでの「教授する」という大学教育の考えから脱却し、以下のような観点から、若手社会人との交流をとおして、地域社会・企業の魅力を知ることや、地域社会・企業の目標とそれに対応するために自分自身の課題に気づき、地域で活躍するための大学での学びのあり方について、COC+連携校の様々な分野で学ぶ同じ世代の学生が共に考える機会を作る授業を行うこととする。

①COC+連携校の様々な分野で学ぶ学生を対象として、地域の活性化を担う人材育成を目指した協働授業と、その評価方法を開発する。

②大分県を地域のモデルとして取り上げ、若者の雇用の現状など、いくつかの地域や地方が抱える特有の課題を提示し、その課題を解決する人材育成に必要なと考えられる授業内容や、授業の展開方法、評価方法、その他の、大学等での学びのあり方についてグループを中心としたワークショップ（協同学習等）を行う。

③初年次学生を主な対象として、それぞれの分野で学ぶ学生たちが、社会での活躍に向けた各々の学びについて、地域の現状理解と地域で働く意義を学ぶことで、より安心して地域へ定着し、価値を生み出していける新しい地域社会の創造の貢献する人材となることを目指す。

2. 育成する能力と具体的な到達目標及び評価

本授業は、企業・自治体等との協働で地域社会や企業の現実を学び、幅広い視野から地域社会や企業の課題に向き合うこと、学生自身がそうした課題に対応して活躍できる人材に向かって学びを作っていくことを目指す授業であり、そのための学びの場を提供することによって、最終的には、大学での学びの価値に気付かせることにあり、以下の具体的な到達目標を設定する。

(1) 大分県内で働くことに関する現状と働く意義について、必要と考えられる情報収集や積極的な議論を行うなどして、批判的思考を踏まえて自分の考えを説明できる。

＜評価の観点＞

・複数の情報を基にして、多様な人や文化、考え方を整理して分析することができる。

⑰⑱（対課題基礎力・対人基礎力）

・組織や集団の一員として、積極性と柔軟性を持った議論を建設的に行うことができる。

⑲（対人基礎力）

・グループ討議やプレゼンにおいて、自分の考えを他者に分かりやすく説明することができる。

⑳（対人基礎力）

(2) 大分県で働くことに関する魅力と地域社会や企業が抱える目標や課題を知り、それに対応して活躍するために、地域の大学で学ぶ若者としてそれぞれの専門的な学びを生かして自分の考えを自由に構築する。さらに、その考えの共有や相互評価をとおして、地域社会や企業が抱える課題に対応するための大学での学びの価値について自分の考えを提案できる。

＜評価の観点＞

・大分で働く魅力と、地域社会や企業が抱える目標や課題の分析に基づいて、大分で働くことについて自分の考えをグループ内で分かりやすく説明できる。

⑤⑩⑬⑱⑲（企業力・地域力・対課題基礎力）

・自分の考えを基にして、他者と協調・協働して相互評価しながら、地域社会や企業が抱える課題に対応できる大学等での学び方を提案することができる。

⑱㉓（対人基礎力）

・大学で学ぶ意義を知り、自分なりの生き方を見つけて主体的に学ぼうとし、自分にとっての学びの価値を説明できる。

㉓（對自己基礎力）

3. 教材と授業の方法

(1) 教育過程の基本的な考え方

①自らが地域に必要な人材になる価値に気付かせるために、大分地域の企業や自治体、地域活動団体等と交えて協議することによって活動の現実を情報として、自らの大学における学びの価値と生き方を考えさせる。

②グループ討議を行う中で、学生同士の考え方との交流や相互評価をとおして様々な考え方があることを知り、自分自身の考えを深める機会とする。

(2) 必要な教材作成

○反転授業を効果的に行ったり、授業評価を適切に行ったりするための教材作成を行う。

1) ポートフォリオ「学びの足跡」作成のための資料作成

- ①学びの足跡を記録するために授業に沿った各種学びを記録する。
- ②評価の資料とする。

2) 配信用コンテンツの作成

	コンテンツ名	分	作成担当	説明者	内容(例)
1	授業ガイダンス	① 10 + ② 5 + ③ 5	西村	西村	<ul style="list-style-type: none"> *ポートフォリオ等を前提に、3月下旬までに作成 ①授業概要の説明 <ul style="list-style-type: none"> ・授業の趣旨 ・授業による具体的な目標と評価 ・授業の全体計画 ②ポートフォリオ作成の方法 ・事前調査の指示 ③配信授業の受講の仕方の指示
2	キャリアデザイン の大切さ	20	岡野CN	岡野CN	<ul style="list-style-type: none"> *3月下旬までに作成 ①キャリアデザインとは何か ②自分の生き方とキャリアデザイン ③大学教育で学ぶキャリア形成の基礎 ④大学での学びの価値を知ろう
3	職場はあなたを求 めています	10 × 5人	大分大学	企業や自治体 に依頼して作 成	<ul style="list-style-type: none"> *3月下旬までに出演者の企業等につ いて収録システムで撮影して1本に編 集する。(若い社会人) ①大分での就職の魅力(メリット) ②今抱えている当企業(自治体)の目標 と、それに対応する自分の課題 ③当企業(自治体)が欲しい人材像 ④大学で何を学んで欲しいか

3) eラーニングコンテンツの整備

- ・指導教員及び受講者を3月末までに決定してeラーニングコンテンツを整備する。

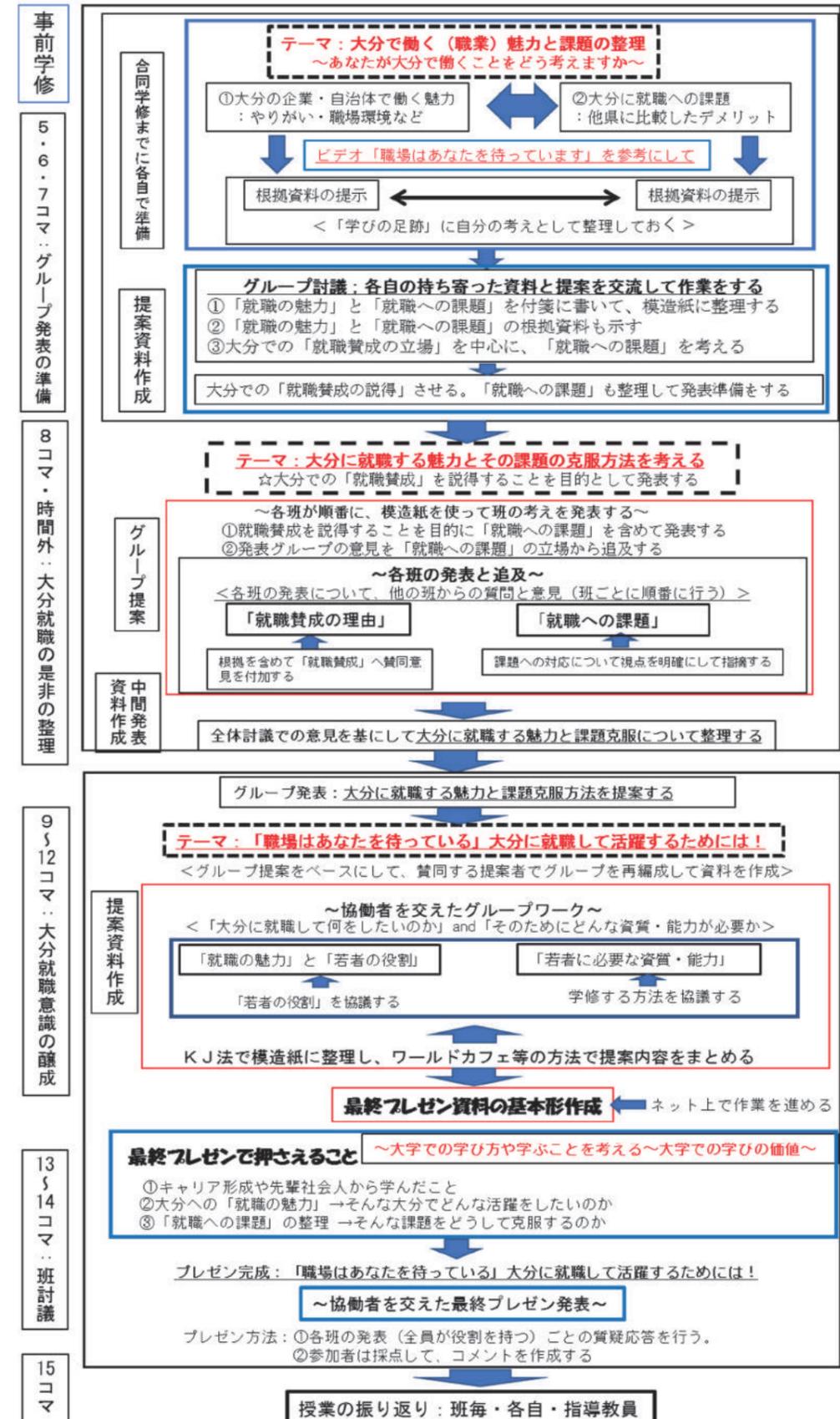
①ムードルからの動画コンテンツの配信

- ・受講者向けに配信するコンテンツを作成する。

②ムードル上の掲示版でのディスカッション

- ・自己紹介をするページ
- ・意見の掲載や相互に意見交換を行うページ

(3) 授業展開とグループワークの内容



4. 受講対象

- (1) 対象学部全学部 全学科
- (2) 対象学年 1・2年生

5. 開講時期

- 1コマ～4コマ：5月上旬に各学校で実施
- 合同学習：6月中旬までの土・日の3日（9：30～15：10）

- 1コマ：各大学等において、授業担当教員が「授業ガイダンス」DVDを使って実施
- 2コマ～4コマ：授業配信システムを使っての受講生個別のeラーニングで実施
- 5コマ～8コマ：第1回合同学習を実施
- 9コマ～12コマ：第2回合同学習を実施
- 13コマ～15コマ：第3回合同学習を実施

6. 授業実施体制

(1) 授業担当者

- ① 主担当教員：牧野治敏教授（大分大学）
- ② 担当教員：西村靖史教授（別府大学）、他各大学から1名
 - <担当教員の役割> ・各大学等からの受講生の選考 ・可能であれば、授業への参加及び評価
- ③ SA：未定

(2) 情報提供・助言者（4名：未定）*なるべく社会人3年以内

(3) 受講者編成：5名×4グループを予定（異なる大学系の学生の混成）

7. 授業評価（ルーブリック表）と評価方法

(1) 成績評価の内容及び評価割合

評価①資料分析や授業中のグループ討議等での活動状況（収集分析資料、学びの足跡）：2割

- ・複数の情報を基にして、多様な人や文化、考え方を整理して分析することができる。
- ・組織や集団の一員として、積極性と柔軟性を持った議論を建設的に行うことができる。
- ・グループ討議やプレゼンにおいて、自分の考えを他者に分かりやすく説明することができる。

評価②自分としての魅力や課題の指摘内容（他者評価、ミニレポート、学びの足跡）：2割

- ・大分で働く魅力と、地域社会や企業が抱える目標や課題の分析に基づいて、大分で働くことについて自分の考えをグループ内で分かりやすく説明できる。

評価③班での課題解決のための提案内容（プレゼン資料、他者評価、学びの足跡）：2割

- ・自分の考えを基にして、他者と協調・協働して相互評価しながら、地域社会や企業が抱える課題に対応できる大学等での学び方を提案することができる。

評価④自分にとっての学びの価値（最終レポート）：4割

- ・大学4年間で学ぶ意義を知り、自分なりの生き方を見つけて主体的に学ぼうとし、自分にとっての学びの価値を説明できる。

(2) 評価者と評価内容と方法

① 指導する教員による評価

- ・授業中のグループ討議等での発言や各種資料、振り返りシート、レポートで評価し、ルーブリック

表（「学びの足跡」）を中心に評価する。

② 情報提供者による評価

- ・最終報告会では、情報提供者も評価に加わる。

③ 学生の自己評価

- ・「自己チェックシート」で事前事後に評価させる。（「学びの足跡」）

(3) 具体的な到達目標の評価基準例

※各「育成する分野」のポイントに比重を加えて、その合計ポイントでS/A/B/C/Dの評価を行う。

評価の内容	ポイント4	ポイント3	ポイント2	ポイント1
授業中のグループ討議等での活動状況	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の情報を基にして、多様な人や文化、考え方を整理して分析することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・収集した情報や資料等を根拠にして自分の考えを整理した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を詳しくメモして、自分の考えを整理した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を簡単にメモすることができた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・積極性と柔軟性を持った議論を建設的に行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・応答しながら議論ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から進んで説明した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・尋ねられたら答えた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ討議やプレゼンにおいて、自分の考えを他者に分かりやすく説明することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分かってもらえるように工夫して説明できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・尋ねられたことや役割分担は自分の考えで説明できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・尋ねられたことや役割分担はできた。
自分としての課題の指摘や提案内容	<ul style="list-style-type: none"> ・大分で働く魅力と、地域社会や企業が抱える目標や課題の分析に基づいて、大分で働くことについて自分の考えをグループ内で分かりやすく説明できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 大分で働く魅力と企業等の目標や課題を分析して、課題解決にむけた自分の考え方を説明できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 大分で働く魅力と企業等の目標や課題を基にして課題解決にむけた簡単な提案ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 大分で働く魅力と企業等の目標や課題を簡単に説明ができた。
班での課題解決のための提案内容	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを基にして、他者と協調・協働して相互評価しながら、地域社会や企業が抱える課題に対応できる大学等での学び方を提案することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを基にして、地域づくりや特色ある産業等の魅力や地域社会や企業が抱える課題とその対応策について班の考え方として説明できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域づくりや特色ある産業等の魅力や地域社会や企業が抱える課題とその対応策について他者の意見をメモしながら新たな気づきがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域づくりや特色ある産業等の魅力や地域社会や企業が抱える課題について他者の意見をメモしながら新たな気づきがあった。

自分にとっての学 びの価値	・大学4年間で学 ぶ意義を知り、自 分なりの生き方を 見つけて主体的に 学ぼうとし、 <u>大学等 での学び方と、自分 にとっての学びの 価値を説明</u> できた。	・自分の生き方を 考えて、 <u>大学等で の学びについて自 分の学びの設計を 基にして考え方を 説明</u> できた。	・自分の生き方を 考えて、 <u>大学等で の学びについて自 分の考え方を説明</u> できた。	・自分の <u>大学等の 学び方を言</u> えた。
------------------	---	---	--	--------------------------------

「初年次地域キャリアデザインワークショップ」の教師による評価表

大学名		氏名			評価対象	評点	備考
番号	コマ	足跡頁					
1	2	9	「キャリアデザインの大切さ」ライティングの内容		54321		
2	2	9	「キャリアデザインの大切さ」から学んだ自分なりの捉え方についてレポートA		54321		
3	3	14	4本の「職場はあなたを求めています」から学んだ自分なりの捉え方についてレポートB		54321		
4	4	15	「キャリアデザインの大切さ」から学んだこと、「職場はあなたを求めています」から学んだことからレポートC		54321		
5	4	15	レポートA・B・Cへのコメント		54321		
6	8	☆23～	ディベートへの参加状況		54321		
7	9	☆25	グループ発表		54321		
8	10	☆26～	ワールドカフェへの参加状況		54321		
9	14	☆35	プレゼンテーション		54321		
10	全体		グループ討議への参加状況		54321		
11	全体		「学びの足跡」への記載状況		54321		
12	15後	45	最終レポート		54321		
13	全体	☆44	教員・ステークホルダーによるカリキュラム・ルーブリック評価「学びの達成度」		ルーブリック 表		
総合的なコメント							

平成29年度受講生の受講前と受講後の変化

「初年次地域キャリアデザインワークショップ」の自己評価表(事前・事後比較表) 評価値: 4~1			
自分の認識: 「自分のこと」「働くこと」について、どのように感じていますか?	事前	事後	差
1 自分が好きなこと・嫌いなことがわかっている	2.93	3.33	0.4
2 自分の興味・関心があるものが見つかっている	3.07	3.33	0.26
3 自分の得意なこと・苦手なことがわかっている	3.27	3.4	0.13
4 自分の大切にしたい価値観がわかっている	3	3.47	0.47
5 自分は何のために働くのがわかっている	3.07	3.27	0.2
6 自分がどのように社会に参画したいかわかっている	2.73	3.13	0.4
7 社会に様々な個性を持った人がいることがわかっている	3.53	3.64	0.11
8 様々な職業・企業について知る必要性がわかっている	3.4	3.67	0.27
9 いま住んでいる地域がどのような課題を抱えているかわかっている	2.27	3.27	1
10 いま住んでいる地域の産業について理解している	2.07	2.8	0.73
11 社会に出てから求められる力がわかっている	2.87	3.53	0.66
12 社会に出てから求められる力と大学での学びの関係性がわかっている	2.87	3.53	0.66
	2.92	3.36	0.44

社会人基礎力: 下記のような行動がどれくらいできていると感じていますか?	事前	事後	差
1 自分がやるべきことは何かを見極めて自発的に取り組んでいる	2.93	3.2	0.27
2 困難なことでも自信を持って取り組んでいる	2.2	2.67	0.47
3 自分なりに判断し、他者に流されず行動している	2.4	3	0.6
4 相手を納得させるために、協力することの必然性を伝えている	2.93	3	0.07
5 状況に応じて効果的に他者を巻き込むための手段を活用する	2.6	3.07	0.47
6 目標達成に向けて粘り強く取り組む続ける	3.07	3.47	0.4
7 失敗を恐れずとにかくやってみる	2.27	3.13	0.86
8 困難な状況から逃げずに取り組み続ける	2.47	3.2	0.73
9 成果のイメージを明確にして、実現のためにすべきことを把握する	2.67	3.2	0.53
10 現状を正しく認識するための情報収集や分析をする	3	3.6	0.6
11 課題をあきらかにするために、他者の意見を積極的に求める	2.93	3.2	0.27
12 作業のプロセスをあきらかにして優先順位をつけ、計画を立てる	2.93	3.13	0.2
13 計画と進捗状況の違いに留意する	2.77	3	0.23
14 不測の事態にあわせて柔軟に計画を修正する	2.87	3	0.13
15 複数のもの(もの、考え方、技術等)を組み合わせて、新しいものを作る	2.27	3.13	0.86
16 従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出す	2.2	2.87	0.67
17 成功イメージを常に意識しながら新しいものを生み出すためのヒントを探す	2.53	3.13	0.6
18 事例や客観的なデータ等を用いて、具体的にわかりやすく伝える	2.67	3.27	0.6
19 聞き手がどのような情報を求めているかを理解して伝える	2.67	3.13	0.46
20 話そうとすることを自分なりに充分に理解して伝える	2.86	3.33	0.47
21 内容の確認や質問等を行いながら、相手の意見を正確に理解する	3.07	3.33	0.26
22 あいづちや共感等により、相手に話しやすい状況を作る	3.27	3.47	0.2
23 相手の話を素直に聞く	3.6	3.79	0.19
24 自分の意見をもちながら、他人の良い意見も共感を持って受け入れる	3.4	3.53	0.13
25 相手がなぜそのように考えるのか、相手の気持ちになって理解する	3.2	3.47	0.27
26 立場の異なる相手の背景や事情を理解する	3	3.53	0.53
27 周囲から期待されている自分の役割を把握して行動する	3	3.27	0.27
28 自分にできること・他人ができることを判断して行動する	3	3.6	0.6
29 周囲の人の状況(人間関係、忙しさなど)に配慮して、良い方向に向かうよう行動する	3.14	3.4	0.26
30 相手に迷惑をかけないよう、最低限守らなければいけないルールや約束・マナーを理解している	3.43	3.8	0.37
31 相手に迷惑をかけたとき、適切な行動を取ることができる	3.2	3.53	0.33
32 規律や礼儀が特に求められる場面で、粗相のないように正しくふるまう	3.13	3.4	0.27
33 ストレスの原因を見つけて、取り除くことができる	2.27	2.47	0.2
34 他人に相談したり、別のことに取り組んだりすることでストレスを一時的に緩和させる	2.8	3.2	0.4
35 ストレスを感じることは一過性、または当然のことと考え、重く受け止めすぎないようにする	2.73	3.07	0.34
	2.84	3.26	0.42

自分の認識: 「自分のこと」「働くこと」について、どのように感じていますか?	事前	事後	差
1 自分が好きなこと・嫌いなことがわかっている	2.93	3.33	0.4
2 自分の興味・関心があるものが見つかっている	3.07	3.33	0.26
3 自分の得意なこと・苦手なことがわかっている	3.27	3.4	0.13
4 自分の大切にしたい価値観がわかっている	3	3.47	0.47
5 自分は何のために働くのがわかっている	3.07	3.27	0.2
6 自分がどのように社会に参画したいかわかっている	2.73	3.13	0.4
7 社会に様々な個性を持った人がいることがわかっている	3.53	3.64	0.11
8 様々な職業・企業について知る必要性がわかっている	3.4	3.67	0.27
9 いま住んでいる地域がどのような課題を抱えているかわかっている	2.27	3.27	1
10 いま住んでいる地域の産業について理解している	2.07	2.8	0.73
11 社会に出てから求められる力がわかっている	2.87	3.53	0.66
12 社会に出てから求められる力と大学での学びの関係性がわかっている	2.87	3.53	0.66
	2.92	3.36	0.44

行動力: 以下の行動について、いまの自分にいちばん近いものに○をしてください。	事前	事後	差
1 人の生き方に関心を持ち比較しながら、自分の生き方を描こうとしている	3	3.47	0.47
2 大学での学びや経験を将来の自分と関連づけて考えている	3.27	3.6	0.33
3 「ありたい自分」の実現と進路選択と関連づけて考えている	3.07	3.47	0.4
4 自分の生き方をイメージできるモデル(人物)を見つけている	2.2	2.47	0.27
5 ありのままの自分をみつめようとしている	2.87	3.27	0.4
6 自分のやりたいことや、将来のありたい自分をイメージしている	3.13	3.6	0.47
7 「ありたい自分」の実現のために行動し、挑戦しつづけている	2.67	3	0.33
8 「ありたい自分」の実現のために困難なことも克服しようと努力している	3.07	3.27	0.2
9 社会に対して価値を提供し続けるために成長し続けようとしている	2.93	3.4	0.47
10 自分の知らない社会に対して関心をもち視野を広げようとしている	3.2	3.53	0.33
11 社会に参画・貢献する様々な方法を探そうとしている	3.33	3.6	0.27
12 自分がどのように社会参画・貢献できるのかを探そうとしている	3.27	3.6	0.33
13 地域・国際社会の価値や課題に関心を持っている	2.93	3.47	0.54
14 自分が関わりたい分野や課題がどのようなものかを学んでいる	3.27	3.53	0.26
15 地域・国際社会の価値や課題に関心を持っている	3	3.4	0.4
16 自分が関わりたい分野や課題がどのようなものかを学んでいる	3.27	3.53	0.26
17 地域社会・国際社会の価値や課題に自ら関わろうとしている	2.47	3	0.53
18 地域社会・国際社会に貢献できるよう、参画しようとして行動している	2.33	3.07	0.74
19 地域・国際社会のなかで、自らの役割を果たすことで参画・貢献しようとしている	2.53	3.07	0.54
	2.94	3.33	0.39

授業の到達目標：以下の資質能力について、いまの自分にいちばん近いものに○をしてください。				
	事前	事後	差	
1	企業が抱える課題を知り、その解決方法を提案することができる	2.2	2.73	0.53
2	大分の地域課題（教育・福祉・医療・科学・文化・防災等）について説明することができる。	2	3.2	1.2
3	大分の直面する地域課題を知り、その解決方法を提案することができる	1.93	3	1.07
4	複数の情報手段による情報を収集して分析できる	2.6	3.27	0.67
5	テーマに関する課題を発見して課題解決の目標を設定できる	2.67	3.33	0.66
6	課題解決にむけた柔軟性を保った計画立案ができる	2.33	3.07	0.74
7	多様な人や文化、考え方を理解することができる	3.13	3.6	0.47
8	他者に分かりやすく説明・提案することができる	2.4	3.13	0.73
9	他者と協調・協働して計画することができる	3.2	3.53	0.33
10	組織や集団の一員として、積極性と柔軟性を持った議論を建設的に行うことができる	2.73	3.2	0.47
11	組織・社会の一員としての自分の役割を認識して取り組むことができる	2.93	3.4	0.47
		2.56	3.22	0.66
授業後の授業に関する評価				
到達目標に関するルーブリック評価				
		平均		
1	・複数の情報を基にして、多様な人や文化、考え方を整理して分析することができた。	3.21		
2	・積極性と柔軟性を持った議論を建設的に行うことができた。	3.31		
3	・グループ討議やプレゼンにおいて、自分の考えを他者に分かりやすく説明することができた。	2.73		
4	・大分で働く魅力と、地域社会や企業が抱える目標や課題の分析に基づいて、大分で働くことについて	3.31		
5	・自分の考えを基にして、他者と協調・協働して相互評価しながら、地域社会や企業が抱える課題に対	3.47		
6	・大学4年間で学ぶ意義を知り、自分なりの生き方を見つけて主体的に学ぼうとし、大学等での学び方	3.35		
		3.23		
授業に関する評価				
		平均		
1	各大学での1コマ目の授業はこの科目を履修する上で有効でしたか	3.53		
2	授業ガイダンスの映像は有効でしたか	3.47		
3	「キャリアデザインの大切さ」の映像は有効でしたか	3.67		
4	「職場はあなたを求めています」の映像は有効でしたか	3.6		
5	ムードルへの記載や他者の意見の閲覧等は有効でしたか	3.33		
6	ディベート学習では自分の意見を積極的に言えましたか	2.8		
7	ディベートによって自分にとって有効なアイデアや納得がいく考えができましたか	3.33		
8	ディベートという学習方法は有効でしたか	3.6		
9	ディベートに社会人の方が参加してくれたことは有効でしたか	3.93		
10	ワールドカフェ学習では自分の意見を積極的に言えましたか	3.27		
11	ワールドカフェによって自分にとって有効なアイデアや納得がいく考えができましたか	3.2		
12	ワールドカフェという学習方法は有効でしたか	3.73		
13	ワールドカフェに社会人の方が参加してくれたことは有効でしたか	3.87		
14	グループ発表資料作成では自分の意見を積極的に言えましたか	3.29		
15	グループ発表ではグループとして満足できる発表が出来ましたか	3.14		
16	グループ発表での自分の役割を果たせましたか	3.27		
17	「事前評価」に比べて「事後評価」では評価が高くなりましたか	3.47		
18	この授業を履修して、どうでしたか	3.73		
		3.46		

■ 授業診断シート

☆大分大学高等教育開発センター

■ 基本情報

主担当者	牧野治敏ほか			所属	高等教育開発センター		
年度	2017	学期	後	曜日	集中	時限	
科目名	初年次地域キャリアデザインワークショップ						
科目分類	教養教育						
授業形態	講義	必修・選択	選択	調査実施日	2017年11月12日		
回答者数	15	回答者割合	100.0%	登録者数	15		

■ アクティブラーニングの実施状況

(A) 知識の定着・確認	知識の定着およびそれらを確認する、主に個の学修	<input checked="" type="checkbox"/>	省察のための小レポート、調べ学習
(B) 意見の表現・交換	知識や意見等を表現し、発表したり交換したりする他者との協働や相互作用のある学修	<input checked="" type="checkbox"/>	ディベート、ワールドカフェ、グループによるポスター作成、プレゼンテーション
(C) 応用志向	知識やスキルを現実で起こりそうな状況に応用したり、問題発見・解決したりする、主に教室等内での学修	<input type="checkbox"/>	
(D) 知識の活用・創造	知識やスキルを現場等で活用し省察する学修や、創造的な学修	<input type="checkbox"/>	

■ 10段階評価：「関連性」が高い一方で、「自信」が低い結果



■ 特に優れている点

1	R1	・将来役に立ちそうな内容があったと思っています。
2	R2 C2	・他の受講者と意見交換し、学び合うことができたと思っています。 ・努力して取り組むことに意義を感じる授業です。 ・他の受講者と親しくなることができたと思っています。
3	R3	・親しみのあることや、身近なこととのつながりが分かる授業だと感じています。
4	A1	・教員の声は明瞭ではっきり聞き取れます。 ・提供される情報の音声等ははっきり聞き取れます。

■ 改善の可能性がある点

1	C2	・心配したり、不安になったりする学生がいます ・頑張っても難しすぎる内容だと感じている学生がいます。
2	R2	・自分の学び方のスタイルにあっていないと感じている学生がいます。
3	R3	・知らない言葉や意味の分からない言葉が多く用いられていたと感じている学生がいます。 ・課題や演習などの方法や内容を選択できるようになっていないと感じている学生がいます。
4	C3	・自分のペースで学修をすすめられなかったと感じている学生がいます。

■ おすすめの改善方策の案

・学習内容を簡単なものから難しいものの順序で並べ、小さい成功を着実に積み重ねることができるようにする（スモールステップ）。
・学習者が自分の得意な、やりやすい方法でやれるように選択の幅を設ける。 ・学習者が自分のペースで勉強を楽しみながら進められるようにする。
・学習者や学習の状況にあった言葉遣いや専門用語を用いる。 ・課題の内容について、学習者が個人的に関心のある事例や話題を選択できるようにする。
・練習の機会が与えられ、練習をいつ終わりにするかを学習者が決められることができ、納得がいくまで繰り返せるようにする。

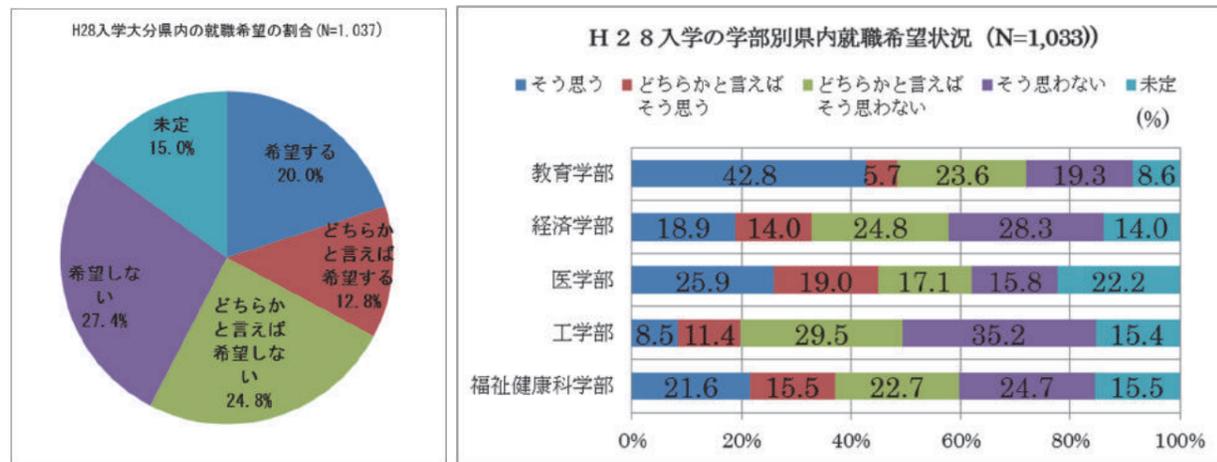
<補助資料5>

平成28年度入学生の意識調査の概要

1. 平成28年度の「大分を創る科目」の開講

「大分を創る科目」は、平成28年度は89科目、平成29年度は92科目を選定しており、卒業要件として1科目2単位の履修を義務付けている。また、各学部においては、学部の特性を基にした大分を創る人材を育成するために有効な「大分を創る科目」を各学部で選定して必須科目にしている。よって、初年次に全ての学生が「大分を創る科目」を履修することとなっている。その学びの成果については2学年の後期（教養教育科目の履修終了時）終了時に調査することとしている。

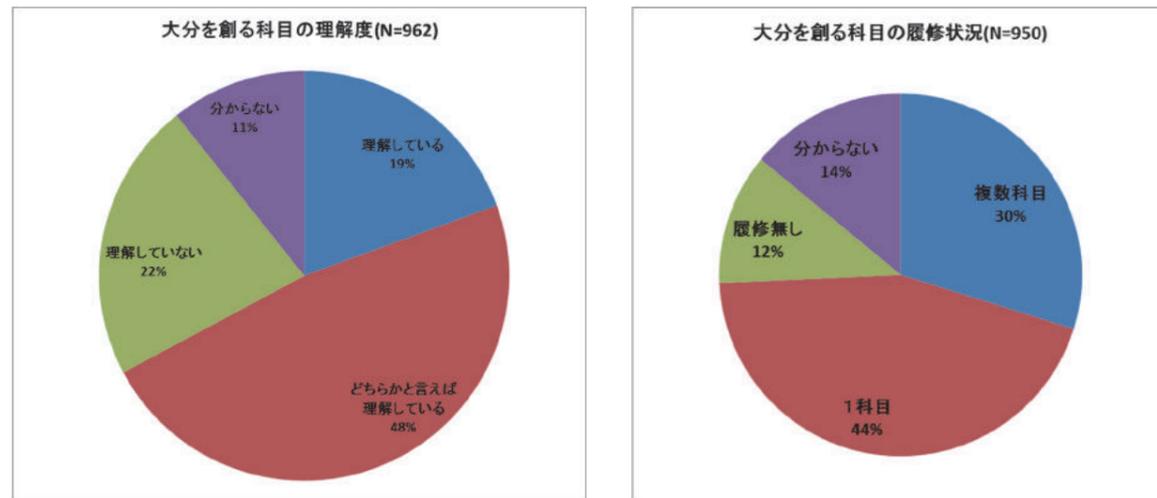
2. 入学時の大分県内への就職希望の状況



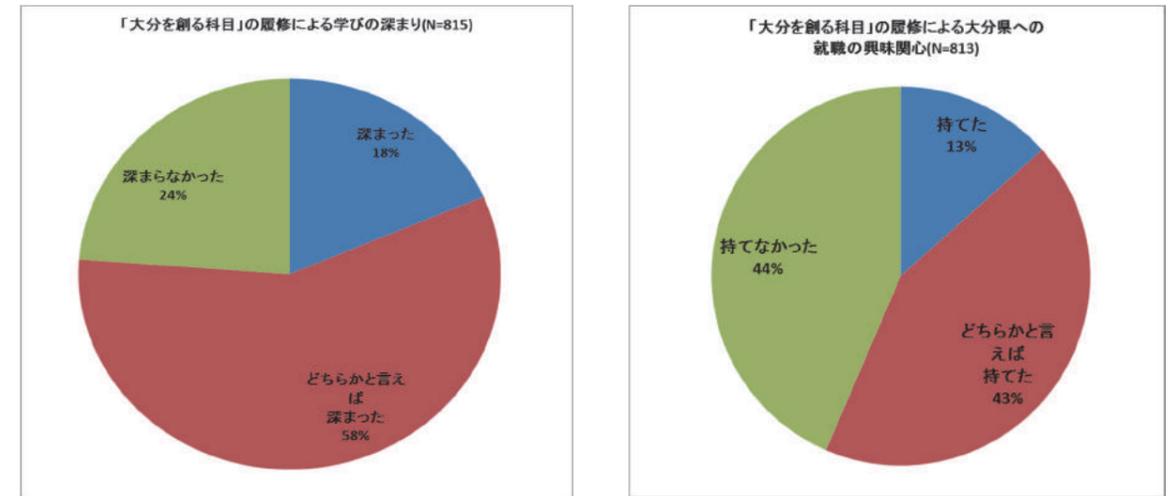
3. 1年修了時の「大分を創る科目」の履修による意識

平成28年度入学生については、工学部を除く4学部は各学部の必須科目を全員が履修しているが、工学部においては必須科目が設定されていないためにアンケート調査を行った。その結果、全体で96.7%となった。また、「大分を創る科目」の履修者は延べ4,264人となっている。

(1) 「大分を創る科目」について

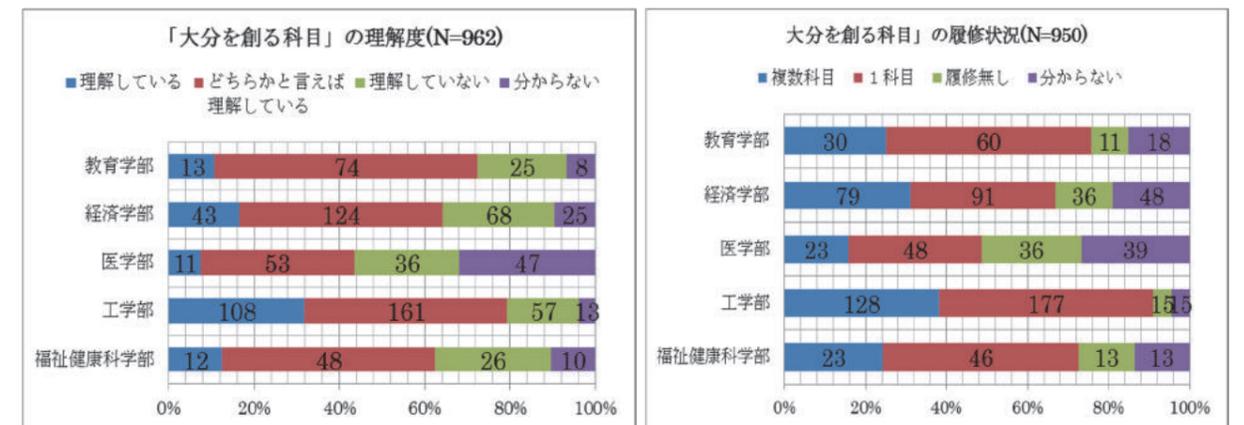


(2) 「大分を創る科目」の履修による効果について

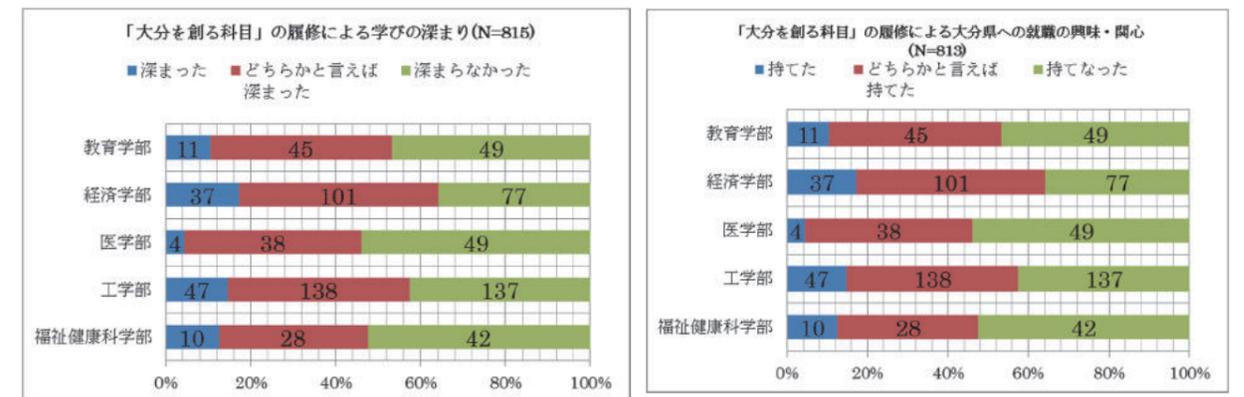


4. 学部ごとの意識

(1) 「大分を創る科目」の開講趣旨の理解度と履修状況



(2) 「大分を創る科目」の履修による学びの深まりと県内就職への興味関心



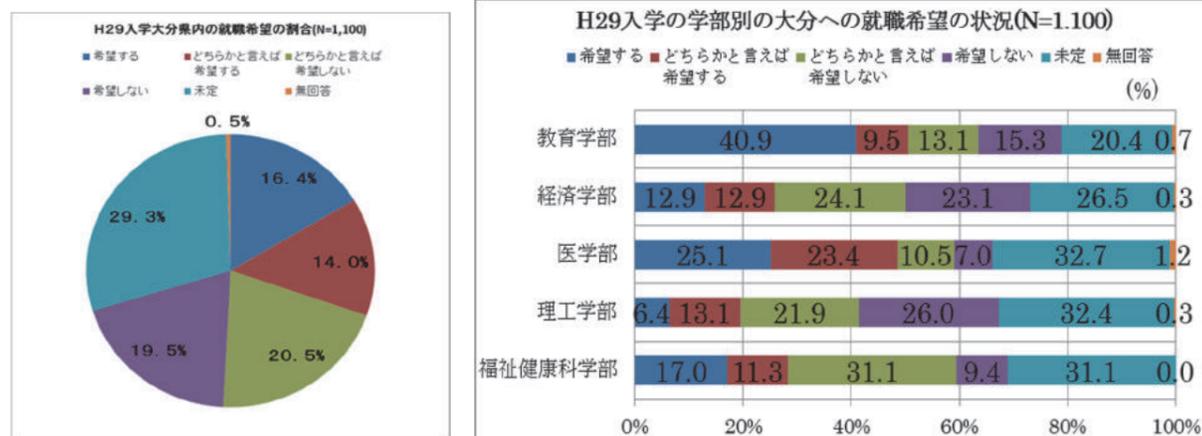
5. 2年次の修了時の意識調査

基本的には、2年次までに教養教育科目を受講することとしているために、2年次修了時に全学生を対象とした次の内容に関する調査を行うこととしている。

- ①卒業後の就職意識に関すること
- ②教養教育科目の「大分を創る科目」の履修状況に関すること
- ③2年次までのインターンシップの参加状況に関すること
- ④大学の授業で「良かった」と感じる授業型式に関すること

※平成28年度入学生の2年次修了時の意識調査の結果については、平成30年4月以降にHPに掲載します。

<参考>平成29年度入学生の「大分を創る科目」の受講状況について



※平成29年度の入学生については、理工学部（H29年度に工学部を改組）においても前期に「大分を創る科目」の必須科目を設定したために、特別な理由がある1名を除いて全ての学生が前期に履修しており、今後の履修による学びに関する意識調査を2年次の修了時に行うこととしている。

<補助資料6> 教育プログラムの取組のQ & A

この資料は、COC+事業における平成27年度～平成29年度の教育プログラムの成果と課題を振り返りながら、今後のCOC+事業の取組の方向性を明確にするためにQ & Aで示したものです。

1. 地方創生に必要なCOC+大学の教育カリキュラムの構築・実施

(1) COC+大学における養成する人材像に即して編成された教育プログラムは、必要な能力が修得できる内容となっているか。また、その進捗状況はどうか。

Q1：大分大学の地域志向大学としての役割を踏まえたCOC+事業における教育プログラムの作成における工夫について

A①「地域を志向する」学びを2つの観点から捉えている。1つは、人間が生活を営む県内、日本、世界の地域社会やその中の職業としての企業等（地域）の課題への対応や発展、生活の充実等への実現に向けての意識を醸成し、そこに対応する学びを行うこと、その際、所在する地域にある様々な教材・フィールドを学びの場として、地域関係機関等と協働したアクティブ・ラーニングの導入などが不可欠であり、そのことにより、真の「地域志向」が生まれると捉えている。2つ目は、地元地域（大分大学は大分県地域）を対象とした場合である。国立大学の場合は大分地域を創生する人材のみではなく、1つ目の考え方である必要があると考えている。しかし、大分大学においては、大分地域を教材・フィールドとして、アクティブ・ラーニングの導入などをおした学びにより、大分地域、日本、世界の地域社会やその中の職業としての企業等の創生に対応できる人材育成の教育プログラムを創造している。よって、COC+事業においては2つ目の考え方で下記のような教育プログラムを実践していることを紹介する。

A②教養教育における取組を行っており、企業や自治体による「育成して欲しい人材像」の整理から始めて、それを基にした「育成する人材像」「カリキュラム・ルーブリック」等を作成するなどして、「大分を創る科目」（128科目）の設定、「大分を創るトップアップ科目」（4科目）の開発を行った。その際、「大分地域を教材とする」「大分地域をフィールドとする」こと、高度な科目としてはオフキャンパスを重視すること、また、全ての科目において大分大学で設定したアクティブ・ラーニングを取り入れるようにしている。平成29年度の基盤教養科目は96科目開講する。

A③大分大学の教養科目で初めてとなる地域連携型のPBL科目として高度化教養科目を立ち上げた。そこで工夫した基本理念は、「異質集団における主体的な探求活動により、批判的思考、チームワーク、発表などの力を向上させること」と「受け入れ地域や組織にも利益が生まれること」の両立である。この大分大学単独の地域連携講義に加え、COC+の大学間連携を活用して導入的な地域連携科目を大学間の単位互換として立ち上げた。さらに、地域ホテル観光業界などのニーズに応えた座学型の単位互換科目を社会人の学び直しとしても開放し、学生が社会人とコミュニケーションしながらアクティブ・ラーニングができるようにした科目も新設した。

Q2：養成する人材像の設定方法とその内容の構成・特色について

A：「大分豊じょう化教育プログラム」の申請時の育成する力は「企業力」「地域力」「汎用力」の3つのカテゴリーであり、この育成する力について、平成27年度に、大分県中小企業家同友会の理事会において2時間程度の熟議を行い、具体的な「育成する人材像」を整理した。その後、部会に所属する企業や自治体からの育成像、大分大学の各学部のDP等も含めて総合的に検討して作成している。

しかし、地域性に欠けるという指摘も受けているので、今後の見直しも考えている。

Q3：大分を創る人材を育成する科目におけるアクティブ・ラーニングの導入等の授業手法の状況について

A：大分を創る科目を設定した当初から、アクティブ・ラーニングの導入（平成28年度：55%）を促進しているが、平成28年度に作成した「大分大学におけるアクティブ・ラーニングの視点にもとづいた授業のガイドライン」に示されているアクティブ・ラーニングの4つのタイプの導入を促進し、平成29年度は94.7%（非常勤講師の科目を含む）の大分を創る科目において実施している。

Q4：必要な能力の習得状況の把握のための学修評価システム（評価の方法等）の導入状況について

A：大分大学においては、大学IRコンソーシアムに加盟し、全学で学生調査を実施するとともに、学修eポートフォリオシステムMaharaを導入して、経済学部や福祉健康科学部での活用をはじめた。理工学部の一部で準備を進めている段階である。また、COC+事業で開発した高度化教養科目において、平成29年度から試行的に同システムを活用して学びの成果の蓄積と活用の取組を始めた。今後、全学部での活用について検討をしている。

Q5：学部専門科目における地域創生人材の育成プログラムの、養成する人材像の設定とその内容の構成・特色、取組状況について

A：学生は学部を卒業して社会人となる。その学部教育において「地域創生を担う人材の育成」をどんな科目で、どんな知識・技能・能力を育成しているのか、各科目・各学部の検討科目を選定して到達目標（育成する人材像）について、教養教育の育成像に加えて「専門性」も含めて整理を行い、4年間をとおした地域創生人材を育成するカリキュラム・マトリクスを作成するなどして学修内容の検討を始めた。

Q6：「大分を創る科目」「大分を創るトップアップ科目」「地域創生科目」「大分を創る人材を育成する科目」の区別がつかない。

A：連携校の8校でCOC+事業の趣旨に沿った科目を設定しているが、「大分を創る人材を育成する科目」とは全ての総称である。その総称の基に、各大学においては「地域志向科目」として科目を設定している場合や、「人間科学」「広域看護学」「統合科目」と細かに分類している大学があり、大分大学では教養教育科目では「大分を創る科目」（基盤教養科目）と「大分を創るトップアップ科目」（高度化教養科目）という名称、学部専門科目では「地方創生科目」という名称で分類している。

(2) 教育プログラムにおける学生の履修状況はどうか。また、履修者数を更に増やすための取組内容・進捗はどうか。

Q7：教育プログラム（大分を創る人材を育成する科目）の履修状況との履修の促進方法について

A：平成28年度入学生の1年次の履修率は96.7%で、複数科目の受講生が30%である。「大分を創る科目」の履修によって学びが「深まった」が18%、「どちらかと言えば深まった」が58%となっており一定の効果がみられる。平成29年度の入学生は前期で99.9%が受講している。今後、高度化教養科目等が開講されるために、その科目の履修促進のための学部説明や就職優遇制度の構築等を進めている。

Q8：教育プログラム（大分を創る人材を育成する科目）の履修による大分での就職意識の変化について

A①平成28年度の入学生の入学当初の大分へ就職については「希望する」（20.0%）、「どちらかと言えば希望する」（12.8%）で、合計32.8%しかいない。また、「未定」15.0%である。平成29年度の入学生の履修による大分へ就職については「希望する」（16.4%）、「どちらかと言えば希望する」（14.5%）で、合計30.9%しかいない。また、「未定」29.3%である。
A②平成28年度入学生が1年間「大分を創る科目」を履修して「大分県への就職の興味関心」については、「持てた」が13%、「どちらかと言えば持てた」が43%で、「大分を創る科目」の有効性が見える。よって、就職地域の未定の学生を含めて、大分地域を教材としたり、フィールドとしたりして「大分県への就職の興味関心」を高めることとしている。

Q9：教育プログラム（大分を創る人材を育成する科目）の履修について、平成27年度以前の入学生（3年生以上）の履修の考え方について

A①平成27年度以前の入学生（現3年生以上）も、平成28年度からの「大分を創る科目」を受講している学生もいる。しかし、平成29年度から開講する「大分を創るトップアップ科目」の履修や就職優遇制度には直接対象とはならない。しかし、COC+事業で取り組み始めたインターンシップ等の就職支援事業には参加しており、企業等とのマッチングを進めている。
A②COC+事業で新設した地域・企業も参画する高度化教養科目については、卒業要件や認証対象にしていないために、試行的に3年生と卒業生に対しても講義を行っている。熱意ある地域組織の探索、地域側も満足できる講義活動の内容、学生のコミュニケーションや論理的な思考力、異質集団の中でのチーム活動を通じて成果を見える化する経験、学外経験学習における多様なリスク管理の方法などのノウハウを、高学年生を対象にして蓄積している途中である。

(3) COC+大学における「PBL」「フィールドワーク」や「インターンシップ」など、学生が事業協働地域で主体的に学修できる取組の進捗はどうか。

Q10：PBLなどCOC+の地域課題を取り扱う講義で、学生の主体性や対話的な態度が実際に向上しているのか。

A：明らかに向上する。これまで高度化教養②として6~11人の学生が二カ所の過疎地域に出向き、住民の方との交流を通じて地域情報を収集し、問いをたて、地域に視点からの対応策として成果物を住人に提示してきた。二度の活動後に実施する振り返りの自己分析による体験の言語化データ、地域側の受け入れコーディネーター、担当教員の三者から評価しても主体性と対話的な態度は向上している。さらに、二度の活動が双方ともに、住民に受け入れて頂き、活動後も地域と大学との連携活動が継続している。

Q11：大分大学における「PBL」「フィールドワーク」や「インターンシップ」などの特色ある科目の開講状況について

A：「PBL」「フィールドワーク」や「インターンシップ」を行う高度化教養は二段階構成となっている。導入的な「地域ブランディング」は、15コマでフィールドワークを伴う学内での地域課題解決策の提示を行う科目で、平成30年度以降は複数回開講予定である。その上位科目である「利益共有型インターンシップ」は三種類あり、平成28年度は2週間程度の宿泊をとまなう地域豊じょう型を試行し、平成29年度には、地域豊じょう型に加え、企業型、高度化ボランティア科目を試行的に開講しており、平成30年度から、全ての高度化教養科目を開講する。

(4) 事業協働機関それぞれの役割が明確であり、役割が適切に実施されているか。

Q12：連携校における「大分を創る人材を育成する科目」の設定状況と履修状況について

A：平成28年度は4参加校で225科目、協力校を含む8連携校では287科目、平成29年度は4参加校では359科目、協力校を含む8つの連携校では420科目を選定した。各大学等での履修状況は各大学で把握しており、大分大学では平成28年度は96.7%、平成29年度は前期で99.9%である。

Q13：単位互換の目的と単位互換科目の選定基準について

A①単位互換の目的は、大分地域の魅力や課題を学生が学修することを効果的に行うために、各大学等が保有する教育機能を相互に提供し、自校では実現が困難な教材・教育プログラムを共有することにある。そのことをとおして、学校・学部・学科を超えた学生が様々な専門性を持ち寄って学び合える場を設定することにある。科目の選定にあたっては、こうした教育内容を考慮して選定している。さらに、授業配信システムの活用、宿泊プログラム、学生が集まりやすい会場での合同集中講義等の、受講条件を整備した科目については別途、パンフレット等を作成するなどして受講を促進している。

A②2年間の履修状況の実績を踏まえて、単位互換科目の選定を見直し、平成30年度からより有効で、受講しやすいなどの条件を整理して選定し、受講促進を行うこととした。

Q14：連携校における単位互換科目の設定状況と履修の促進方法、履修による学びの習得状況について

A①平成28年度の単位互換科目総数（8大学）は47科目で、他大学等の科目の履修状況は、受講者延べ人数は32名である。平成29年度の単位互換科目は56科目である。

A②平成28年度の、大分大学の学生の他大学等の科目の履修状況は4科目で述べ20名である。全大学での受講者数は延べ32名である。

A③平成29年度は、積極的に単位互換科目の受講をPRするための8科目毎の「単位互換ガイドブック」の作成と配布を行った。前期は周知できず1科目14名であったが、後期は現在6科目42名である。

A④これまでは、履修による学びの習得状況は把握していないが、平成29年度から開講する協働開発科目の単位互換による学びの習得状況を把握できるプログラムにしている。

Q15：授業収録システムの活用状況と教育プログラムへの有効性や効果について

A①平成28年度は、動画コンテンツを活用した単位互換科目として、「大分の人と学問」「大分の地域資源」（大分大学）、「総合人間学」（看護科学大学）の3科目を設定した。LMS（Moodle）とクラウド型の動画配信システムを組み合わせることで試行的に単位互換科目として授業を実施し、運用コストを抑えた持続可能な遠隔授業配信の方法を提案し、具体的な運用について検討することを確認した。

*授業で活用できるように作成・編集したビデオコンテンツ：平成28年度は20コンテンツ

A②平成29年度は、「大分の人と学問」「大分の地域資源」「総合人間学」のコンテンツを継続して作成するとともに、新規の協働開発科目「初年次地域キャリアデザインワークショップ」の反転授業のためのビデオコンテンツ（7コンテンツ）作成など有効活用している。

Q16：連携校が協働して科目を開発する「協働開発科目」の目的と特色、事業協働機関の関わり、進捗状況について

A①先行して、平成28年度から参加校において「ジェネリックスキル演習」を新規に単位互換科目として開講し、連携校や企業等と連携して実施しており、この取組を発展させたものである。

A②協働開発科目は単位互換をとおした大学、学部・学科の枠を超えて学ぶ、初年次教育の重要性に着目した「大分の地域ブランド創造体験」と「初年次地域キャリアデザインワークショップ」科目である。オフキャンパスによる地域産業体験科目と、キャリア形成と大分志向の育成を旨とした2科目であり、授業改善をモデル的に進めるものである。開発に当たっては、連携校での「育成する人材像」の共有、「カリキュラム・ルーブリック」による評価、アクティブ・ラーニングの積極的な導入、ムードルを活用したeラーニング、学びを積み上げるポートフォリオなどの手法を使った科目である。この科目は、連携する8大学の教員と企業等が協働して開発・開講するもので、全ての大学に「協働開発科目の担当教員」を選任するとともに、企業等は若手社会人を授業の支援者として関わらせて実施するものである。

Q17：現在、地域志向科目について、科目のブラッシュアップや絞り込みを検討しているか？

A①連携校のそれぞれの取組に一任しており、大分大学においては当初の目的に沿って取り組んでいる。大分大学における「大分を創る科目」については、現在128科目を選定しているが、特別の場合を除いて絞り込みは考えていない。基本的には事業申請時の養成像A「グローバル化された経済社会において、社会人としての汎用基礎力（対人力・対自己力・対課題力や知的財産、マナー、基盤）ICTの基礎能力）に加え、ビジネスに関する基本的な知識を基に、大分の視点を活かして活躍できる人材」を育成する科目を選定している。さらに、より高度な養成像Bについても「[A]に加え、地域や地域の組織に存在する資源について、発見、分析、評価し、外部に発信する基本的な手法を活か（高度化）して、地域の活性化の実践的役割を果たせる人材」を育成することが出来る科目の選定や開発も進めている。さらに、大分大学で作成した具体的な「養成する人材像」の共有化も進めている。

A②2年間の実績を踏まえて、各大学の「大分を創る人材を育成する科目」の選定基準の見直しと確認を行っており、平成30年度以降の8大学での共通した養成像や、各大学の特色ある養成像についての整理を行い、各大学の「大分を創る人材を育成する科目」を選定する作業を行った。

